

庄屋野遺跡

—第8次発掘調査報告—

令和6(2024)年3月
久留米市教育委員会

庄屋野遺跡

—第8次発掘調査報告—

令和6(2024)年3月
久留米市教育委員会

序

久留米市は、筑紫平野の中央に位置し、陸路と水路の要衝であることから、古くから筑後地方における政治・経済・文化の中心地として発展を遂げてきました。また、それに伴い市内各所に数多くの文化財が残されています。久留米市教育委員会は、開発によって失われる先人が残した貴重な文化財を後世に伝えていくために、現状保存、あるいは発掘調査を行うことで記録保存の措置を講じています。

今回の発掘調査は、久留米市の西部にあたる安武町安武本で実施しました。発掘調査では、縄文時代の落とし穴や奈良時代から平安時代の掘立柱建物、廃棄土坑などを確認することができました。今回の発掘調査とその成果を通して、久留米の歴史と文化財保護に対する理解や普及などに貢献できれば幸いです。

末文となりましたが今回の発掘調査に際して、土地所有者の方々をはじめ、関係各位に多大なご協力をいただきました。心より御礼申し上げます。

令和6年3月31日

久留米市教育委員会
教育長 井上 謙介

例 言

1. 本書は、宅地造成に先立ちアット・ホーム株式会社の委託を受けて実施した、庄屋野遺跡第8次調査の発掘調査報告書である。
2. 調査は久留米市教育委員会が調査主体となり、市民文化部文化財保護課の長谷川桃子が担当した。
3. 遺構実測図の作成は、長谷川と熊代昌之、川島絵津子、進上裕永、中村麻衣、藤木幸子、松尾朱美、山口誠也が行い、浄書は長谷川、横井理絵が行った。
4. 遺物の実測は、長谷川と江島伸彦、宮崎彩香、今村理恵、江藤玲子、江口里織、佐藤節子、山元博子が行い、浄書は長谷川、山元、湯川琴美、横井が行った。
5. 遺構写真は Canon EOS6D Mark II を用いて長谷川が撮影した。遺物写真は久留米市埋蔵文化財センターにおいて、PENTAX K-1 II を用いて長谷川が撮影した。なお、本文中の遺物番号・遺物実測図・写真図版の遺物番号は同一である。
6. 遺構配置図は、トータルステーションを用いて測量し、測量データは「遺構くん cubic」で編集・保存した。なお、個別遺構図については水系メッシュ法（1/10）で記録した。
7. 図面の方位は座標北を示す。基準点の座標は、国土調査法第Ⅱ座標系（世界測地系）を用いた。なお、平成28年の熊本地震に伴うパラメーター補正は行っていない。
8. 遺構表記の略記号は、以下の通りである。
S A－柵列 S B－掘立柱建物 S E－井戸 S K－土坑 S P－ピット
9. 遺物観察表の凡例は、以下の通りである。
 - ・法量の単位は cm である。（ ）内の数値は復元値および残存値を示す。
 - ・色調は、『新版 標準土色帖』（日本色研事業株式会社、1997年版）に拠るものである。
10. 出土遺物・図面等諸記録は、全て久留米市埋蔵文化財センターにおいて収蔵・保管されている。
11. 庄屋野遺跡第8次調査の略記号は S Y N－008、調査番号は 202114 である。
12. 第32・33図については、比佐陽一郎（奈良大学文学部教授）が福岡市埋蔵文化財センターにおいてマイクロデジタルスコープを用いて撮影した。
13. 本文の執筆・編集は長谷川が行った。

本文目次

| | |
|--------------------|----|
| I. はじめに | 1 |
| 1. 調査に至る経緯 | 1 |
| 2. 調査及び報告書作成にかかる体制 | 1 |
| 3. 調査の経過 | 2 |
| II. 位置と環境 | 3 |
| III. 調査の記録 | 6 |
| 1. 検出遺構 | 6 |
| 2. 出土遺物 | 36 |
| IV. 総括 | 61 |

挿図目次

| | | | |
|--|----|--|----|
| 第1図 調査地点と周辺の遺跡分布図(1/25,000) | 5 | 第17図 S E 1194 土層断面図(1/40) | 18 |
| 第2図 調査地点の位置と周辺地形図(1/5,000) | 5 | 第18図 S K 48・160・212・523 実測図(1/40) | 20 |
| 第3図 遺構配置図(1/500) | 折込 | 第19図 S K 145 実測図(1/40) | 22 |
| 第4図 I区遺構配置図(1/300) | 折込 | 第20図 S K 260 実測図(1/40) | 23 |
| 第5図 II区遺構配置図(1/300) | 折込 | 第21図 S K 548・549・560 実測図(1/40) | 24 |
| 第6図 III区遺構配置図(1/300) | 折込 | 第22図 S K 561・562・563・564・761 実測図(1/40) | 25 |
| 第7図 IV区遺構配置図(1/300) | 7 | 第23図 S K 833・834・864・879・881 実測図(1/40) | 26 |
| 第8図 V区遺構配置図(1/300) | 8 | 第24図 S K 882 実測図(1/40) | 27 |
| 第9図 S A 701、S B 573・702 実測図 (1/80、土層断面図は1/40) | 9 | 第25図 S K 992・994・995・996 実測図(1/40) | 28 |
| 第10図 S B 804 実測図(1/80、土層断面図は1/40) | 10 | 第26図 S K 980・1004・1005・1006・1009・1107・1192・1193 実測図(1/40) | 29 |
| 第11図 S B 805・813 実測図 (1/80、土層断面図は1/40) | 11 | 第27図 S K 998 実測図(1/40) | 30 |
| 第12図 S B 836 実測図(1/80、土層断面図は1/40) | 12 | 第28図 S K 1210・1212 実測図(1/40) | 32 |
| 第13図 S B 986・1219 実測図 (1/80、土層断面図は1/40) | 13 | 第29図 S P 522・736・803・806～812・981・982 実測図(1/40、S P 736は1/20) | 34 |
| 第14図 S B 1074 実測図(1/80、土層断面図は1/40) | 14 | 第30図 出土遺物実測図① (1・9:1/2、その他:1/4) | 36 |
| 第15図 S B 1220・1242 実測図 (1/80、土層断面図は1/40) | 15 | 第31図 出土遺物実測図②(1/4) | 38 |
| 第16図 S B 1243・1345 実測図 (1/80、土層断面図は1/40) | 16 | 第32図 ●部分顕微鏡拡大写真1(193) | 39 |
| | | 第33図 ●部分顕微鏡拡大写真2(193) | 39 |
| | | 第34図 出土遺物実測図③(1/4) | 40 |

| | | | |
|----------------------------------|----|-------------------------------------|----|
| 第 35 図 出土遺物実測図④ (1/4) …………… | 42 | 第 42 図 出土遺物実測図⑪ | |
| 第 36 図 出土遺物実測図⑤ | | (296・297・298・300・301:1/2、その他:1/4) · | 50 |
| (116・119・120・122・129・140:1/2、 | | 第 43 図 出土遺物実測図⑫ | |
| その他1/4)…………… | 44 | (333・334・336:1/2、その他:1/4) · | 51 |
| 第 37 図 出土遺物実測図⑥ (1/4) …………… | 45 | 第 44 図 出土遺物実測図⑬ | |
| 第 38 図 出土遺物実測図⑦ (1/4) …………… | 46 | (356・361:1/2、その他1/4) …………… | 52 |
| 第 39 図 出土遺物実測図⑧ | | 第 45 図 安武地区における古代の集落の位置とその消長 | 62 |
| (208・209・210・212:1/2、その他:1/4) …… | 47 | 第 46 図 奈良時代の主要遺構配置図 (1/1,000) …… | 64 |
| 第 40 図 出土遺物実測図⑨ (1/4) …………… | 48 | | |
| 第 41 図 出土遺物実測図⑩ (1/4) …………… | 49 | | |

表 目 次

| | | | |
|-----------------------|----|-----------------------|----|
| 第 1 表 出土遺物観察表 1 …………… | 53 | 第 6 表 出土遺物観察表 6 …………… | 58 |
| 第 2 表 出土遺物観察表 2 …………… | 54 | 第 7 表 出土遺物観察表 7 …………… | 59 |
| 第 3 表 出土遺物観察表 3 …………… | 55 | 第 8 表 出土遺物観察表 8 …………… | 60 |
| 第 4 表 出土遺物観察表 4 …………… | 56 | 第 9 表 掘立柱建物一覧表…………… | 61 |
| 第 5 表 出土遺物観察表 5 …………… | 57 | | |

図 版 目 次

| | |
|-----------------------------|------------------------------|
| 図版 1 | (12) S B 804 P 6 土層断面 (東から) |
| (1) I 区全景 (南上空から) | (13) S B 804 P 7 土層断面 (東から) |
| (2) II 区全景 (南上空から) | (14) S B 804 P 8 土層断面 (東から) |
| 図版 2 | (15) S B 804 P 10 土層断面 (南から) |
| (1) III 区全景 (南上空から) | (16) S B 804 P 11 土層断面 (南から) |
| (2) IV・V 区全景 (南上空から) | (17) S B 804 P 13 土層断面 (南から) |
| 図版 3 | (18) S B 805 P 1 土層断面 (南から) |
| (1) S A 701 P 1 土層断面 (東から) | 図版 4 |
| (2) S A 701 P 2 土層断面 (東から) | (1) S B 805 P 2 土層断面 (南から) |
| (3) S A 701 P 3 完掘状況 (西から) | (2) S B 805 P 3 土層断面 (南から) |
| (4) S A 701 P 4 完掘状況 (西から) | (3) S B 805 P 4 土層断面 (東から) |
| (5) S B 573 P 1 土層断面 (南から) | (4) S B 805 P 5 土層断面 (東から) |
| (6) S B 573 P 2 土層断面 (南から) | (5) S B 805 P 6 土層断面 (東から) |
| (7) S B 573 P 3 土層断面 (南から) | (6) S B 813 P 1 土層断面 (東から) |
| (8) S B 804 P 1 土層断面 (東から) | (7) S B 813 P 2 土層断面 (東から) |
| (9) S B 804 P 2 土層断面 (東から) | (8) S B 813 P 3 土層断面 (東から) |
| (10) S B 804 P 3 土層断面 (南から) | (9) S B 813 P 4 土層断面 (南から) |
| (11) S B 804 P 4 土層断面 (南から) | (10) S B 813 P 5 土層断面 (南から) |

- (11) S B 813 P 6 土層断面 (南から)
- (12) S B 836 P 1 土層断面 (東から)
- (13) S B 836 P 2 土層断面 (東から)
- (14) S B 836 P 3 土層断面 (東から)
- (15) S B 836 P 4 土層断面 (東から)
- (16) S B 836 P 5 土層断面 (東から)
- (17) S B 836 P 6 土層断面 (西から)
- (18) S B 836 P 7 土層断面 (北から)

図版 5

- (1) S B 836 P 9 土層断面 (東から)
- (2) S B 986 P 2 土層断面 (南から)
- (3) S B 986 P 3 土層断面 (南から)
- (4) S B 986 P 4 土層断面 (南から)
- (5) S B 986 P 5 土層断面 (南から)
- (6) S B 1074 P 1 土層断面 (南から)
- (7) S B 1074 P 2 土層断面 (南から)
- (8) S B 1074 P 3 土層断面 (南から)
- (9) S B 1074 P 4 土層断面 (南から)
- (10) S B 1074 P 5 土層断面 (南から)
- (11) S B 1074 P 6 土層断面 (南から)
- (12) S B 1074 P 7 土層断面 (南から)
- (13) S B 1074 P 8 土層断面 (南から)
- (14) S B 1074 P 9 土層断面 (南から)
- (15) S B 1219 P 2 土層断面 (南東から)
- (16) S B 1219 P 3 土層断面 (南東から)
- (17) S B 1219 P 4 土層断面 (北西から)
- (18) S B 1220 P 2 土層断面 (南から)

図版 6

- (1) S B 1220 P 3 土層断面 (南から)
- (2) S B 1220 P 4 土層断面 (北から)
- (3) S B 1220 P 5 土層断面 (南から)
- (4) S B 1220 P 6 土層断面 (南西から)
- (5) S B 1243 P 1 土層断面 (北東から)
- (6) S B 1243 P 4 土層断面 (南から)
- (7) S B 1345 P 4 土層断面 (東から)
- (8) S B 1345 P 5 土層断面 (東から)
- (9) S B 1345 P 6 土層断面 (東から)
- (10) S E 1194 土層断面 (東から)

- (11) S E 1194 掘削状況 (北西から)
- (12) S K 48 土層断面 (東から)
- (13) S K 48 完掘状況 (北から)

図版 7

- (1) S K 121 遺物出土状況 (北東から)
- (2) S K 145 土層断面 (西から)
- (3) S K 145 土層断面 (南から)
- (4) S K 145 完掘状況 (北東から)
- (5) S K 260 土層断面 (北西から)
- (6) S K 260 遺物出土状況 (東から)
- (7) S K 523 完掘状況 (東から)
- (8) S K 548 土層断面 (南西から)

図版 8

- (1) S K 549 土層断面 (南から)
- (2) S K 560 土層断面 (南から)
- (3) S K 560 完掘状況 (北から)
- (4) S K 561 土層断面 (東から)
- (5) S K 562 土層断面 (東から)
- (6) S K 563 焼土出土状況 (北東から)
- (7) S K 564 完掘状況 (北から)
- (8) S K 761 土層断面 (南から)

図版 9

- (1) S K 833 土層断面 (東から)
- (2) S K 834 土層断面 (東から)
- (3) S K 881 土層断面 (東から)
- (4) S K 881 完掘状況 (北西から)
- (5) S K 882 土層断面 (南西から)
- (6) S K 882 土層断面 (北西から)
- (7) S K 882 完掘状況 (北西から)
- (8) S K 980 土層断面 (東から)

図版 10

- (1) S K 992 土層断面 (南から)
- (2) S K 994 土層断面 (東から)
- (3) S K 994 完掘状況 (南東から)
- (4) S K 995 土層断面 (南から)
- (5) S K 995 完掘状況 (北から)
- (6) S K 998 土層断面 (東から)
- (7) S K 998 土層断面 (北から)

(8) S K 998 完掘状況 (北東から)

図版 25 出土遺物 13

図版 11

図版 26 出土遺物 14

(1) S K 1005 完掘状況 (南から)

図版 27 出土遺物 15

(2) S K 1006 完掘状況 (北西から)

図版 28 出土遺物 16

(3) S K 1009 完掘状況 (南から)

図版 29 出土遺物 17

(4) S K 1192 完掘状況 (南西から)

図版 30 出土遺物 18

(5) S K 1193 完掘状況 (南東から)

図版 31 出土遺物 19

(6) S K 1192・1193 土層断面 (南から)

図版 32 出土遺物 20

(7) S K 1210 土層断面 (東から)

図版 33 出土遺物 21

(8) S K 1210 土層断面 (南から)

図版 34 出土遺物 22

図版 35 出土遺物 23

図版 12

(1) S K 1212 土層断面 (東から)

(2) S K 1212 土層断面 (北から)

(3) S P 522 土層断面 (西から)

(4) S P 736 遺物出土状況 (南西から)

(5) S P 803 土層断面 (南から)

(6) S P 806 完掘状況 (北から)

(7) S P 807 土層断面 (南から)

(8) S P 808 土層断面 (南から)

(9) S P 809 土層断面 (南から)

(10) S P 810 土層断面 (南から)

(11) S P 811 土層断面 (南から)

(12) S P 812 土層断面 (南から)

(13) S P 981 土層断面 (南から)

(14) S P 982 土層断面 (南から)

図版 13 出土遺物 1

図版 14 出土遺物 2

図版 15 出土遺物 3

図版 16 出土遺物 4

図版 17 出土遺物 5

図版 18 出土遺物 6

図版 19 出土遺物 7

図版 20 出土遺物 8

図版 21 出土遺物 9

図版 22 出土遺物 10

図版 23 出土遺物 11

図版 24 出土遺物 12

I. はじめに

1. 調査に至る経緯

本調査は、宅地造成に伴う事前の発掘調査である。令和3年9月27日、土地所有者のアット・ホーム株式会社代表取締役森永正彦氏から久留米市安武町安武本庄屋野五 2932- 1、2938、2940- 1、2940- 3、2940- 4、2957、2958、2959、2961、2963- 1、2963- 3、2964- 1における「埋蔵文化財包蔵の有無」の照会が提出された。当該地は、周知の埋蔵文化財包蔵地の庄屋野遺跡の範囲に含まれるため、恒久施設である道路部分に対し発掘調査が必要である旨を回答した。令和3年11月15日に発掘調査の依頼が提出され、久留米市長と土地所有者は同年11月26日、庄屋野遺跡第8次調査の協定書と委託契約書を取り交わした。

現地での発掘調査は同年12月1日に着手し、令和4年6月21日に終了した。遺物整理と報告書作成は協定書に基づいて委託契約を取り交わし、令和6年3月31日まで行った。調査面積は3,074㎡である。

2. 調査及び報告書作成に係る体制

調査委託者：アット・ホーム株式会社 代表取締役 森永 正彦

調査主体：久留米市教育委員会 教育長：井上 謙介

調査総括：久留米市 市民文化部 部長：竹村 政高

次 長：深堀 尚子（令和3・4年度）

古賀 裕二（令和5年度）

文化財保護課 課 長：水島 秀雄（令和3・4年度）

井上 英俊（令和5年度）

課長補佐：久保田由美（令和3年度）

田中 健二（令和4年度）

甲斐田邦彦（令和5年度）

課長補佐兼主査：丸林 禎彦、白木 守

主 査：水原 道範（令和3年度）

小澤 太郎（令和4・5年度）

事務主査：小澤 太郎（令和3年度）、江島 伸彦

調査担当：長谷川桃子

整理担当（会計年度任用職員）：宮崎 彩香（令和3・4年度）

今村 理恵

江藤 玲子（令和5年度）

I. はじめに

会計年度任用職員（発掘調査作業員）

青木佐智子、秋永 絹子、池田 隆司、稲益 元之、井上 吉清、岩橋彦左衛門、太江田博子、川島絵津子、川野 洋之、川原 初美、川原 光貴、紀伊 一慶、北原 優、黒岩 秀則、古賀 守、小林伸一郎、佐藤 陽一、清水 一則、進上 裕永、高尾 春代、高崎 佳枝、田中 樹子、永田 徹、永野 高弘、中村 麻衣、原 学、廣田 淳、福田 孝利、藤木 幸子、舟越 朝菜、本荘 郁子、松尾 朱美、松本 金一、丸山 幸、溝口 輝男、箕浦 イルマ・グラシエラ 桂子、宮原 眞助、山口 英志、山口 誠也、山崎 秀雄、渡辺 しげ子

会計年度任用職員（出土品整理作業員）

江口 里織、大津山恵津子、田中千佐子、野間口靖子、原口 節美、山元 博子

3. 調査の経過

今回の調査の目的は、縄文時代と古代の遺構の広がりを確認することであった。

今回の調査面積が3,000㎡と広大であり、一度に全ての表土を剥ぐことは、安全管理上不適当であることから、Ⅰ～Ⅴ区に分けて調査を行った。表土剥ぎや空中写真撮影の予定の関係上、複数の調査区を並行して調査を行った期間もある。以下、簡略に調査の経過を記す。

令和3年12月1日

ユニットハウス・簡易水洗トイレ搬入
重機による表土剥ぎ（Ⅰ区）

令和4年1月25日～26日

重機による表土剥ぎ（Ⅱ区）

令和4年2月9日

空中写真撮影（Ⅰ区）

Ⅰ区調査終了

令和4年2月16日～18日

重機による表土剥ぎ（Ⅲ区）

令和4年3月3日

空中写真撮影（Ⅱ区）

Ⅱ区調査終了

令和4年3月24日

機材撤収

令和3年度の調査終了

令和4年3月31日

令和3年度調査委託契約終了

令和4年4月

令和4年度調査委託契約締結

令和4年4月11日

ユニットハウス・簡易水洗トイレ搬入

令和4年4月12日～13日

重機による表土剥ぎ（Ⅳ・Ⅴ区）

令和4年5月20日

空中写真撮影（Ⅲ区）

Ⅲ区調査終了

令和4年6月17日

空中写真撮影（Ⅳ・Ⅴ区）

機材撤収し、調査終了

II. 位置と環境

久留米市は、筑紫平野の中央に位置し、筑後川の中・下流域に面する。筑後川は宝満川と合流して流れを南西へと変え、その左岸には筑後川や金丸川、広川によって形成された氾濫平野が広がる。氾濫平野の東側には津福本町から大善寺町にかけて標高 10 m 程の台地がある。この台地は浸食によって谷が入り、台地の中でも広狭がある。この台地の一番西に上野遺跡・塚畑遺跡・女堀遺跡・野畑遺跡・安武三反野遺跡などの遺跡群が所在し、この遺跡群の谷を挟んだ東側の台地に庄屋野遺跡は展開する。庄屋野遺跡の南側には南北方向の谷が入り、台地の幅は狭まるが、南西方面に至ると幅が広くなり、そこに野瀬塚遺跡・坂本遺跡・今泉遺跡などの遺跡群が所在する。

安武町や大善寺町の北部については 1980 年代後半～90 年代の圃場整備等によって発掘調査が行われ、旧石器時代から近世に至るまでの成果が蓄積されている。以下、今回の調査で検出した遺構の主な時代である縄文時代から古代の状況を中心に述べる。

周辺での最古の遺物は、庄屋野遺跡や穴口遺跡で出土した細石刃核や細石刃、城崎遺跡で出土した彫器といった旧石器である。いずれも後世の遺構への混入品だが、台地が狩場として利用されたとみられる。

縄文時代の遺構として、落とし穴状遺構が挙げられる。念仏塚遺跡や道蔵遺跡、筒川遺跡で検出された他、庄屋野遺跡、穴口遺跡、古牟田遺跡、野畑遺跡、野瀬塚遺跡、今泉遺跡、坂本遺跡では落とし穴状遺構が列状に配置され、台地上での獣道に沿った狩猟を示唆するものと考えられている。ただし、落とし穴状遺構以外の遺構は確認されていない。時期が明確な遺物は庄屋野遺跡の落とし穴状遺構から出土した早期の押型文土器と晩期の土器の破片である。

弥生時代に入ると、集落域と墓域を確認することができる。まず、集落域について述べる。前期では、城崎遺跡、野畑遺跡、塚畑遺跡、坂本遺跡といった遺跡群から土坑や貯蔵穴、竪穴住居が検出された。汐入遺跡、碓遺跡、道蔵遺跡からも竪穴住居や土坑が検出されており、それぞれの台地上に集落が展開したようである。前期末には、今泉遺跡で竪穴住居 20 軒と土坑 23 基が馬蹄状に配置された。また、中期初頭の遺構としては、庄屋野遺跡の台地北端を廻る大溝があり、環濠集落の存在が推測される。中期前半では、東鳥遺跡で 22 軒の竪穴住居が確認された。他にも、酢正免遺跡や安武三反野遺跡、道蔵遺跡で土坑が検出されている。中期後半では、道蔵遺跡で溝や土坑、筒川遺跡で土坑が検出された。後期に入ると、塚畑遺跡と道蔵遺跡で環濠を伴う集落が営まれる。道蔵遺跡は、大正 3 年（1914）に出土したとされる広形銅戈や韓式土器、青銅製ヤリガンナ等の出土遺物から拠点集落と考えられている。他にも上野遺跡と庄屋野遺跡で竪穴住居、押方遺跡で竪穴住居と掘立柱建物、碓遺跡の掘立柱建物や溝、井戸、土坑群などがある。安武三反野遺跡では 39 棟の掘立柱建物と大溝が検出されており、塚畑遺跡を中心とした集落域の南限を示すものと考えられる。前期末から終末期にかけ、野畑遺跡で掘立柱建物と土坑が分布し、塚畑遺跡の大溝と同

II. 位置と環境

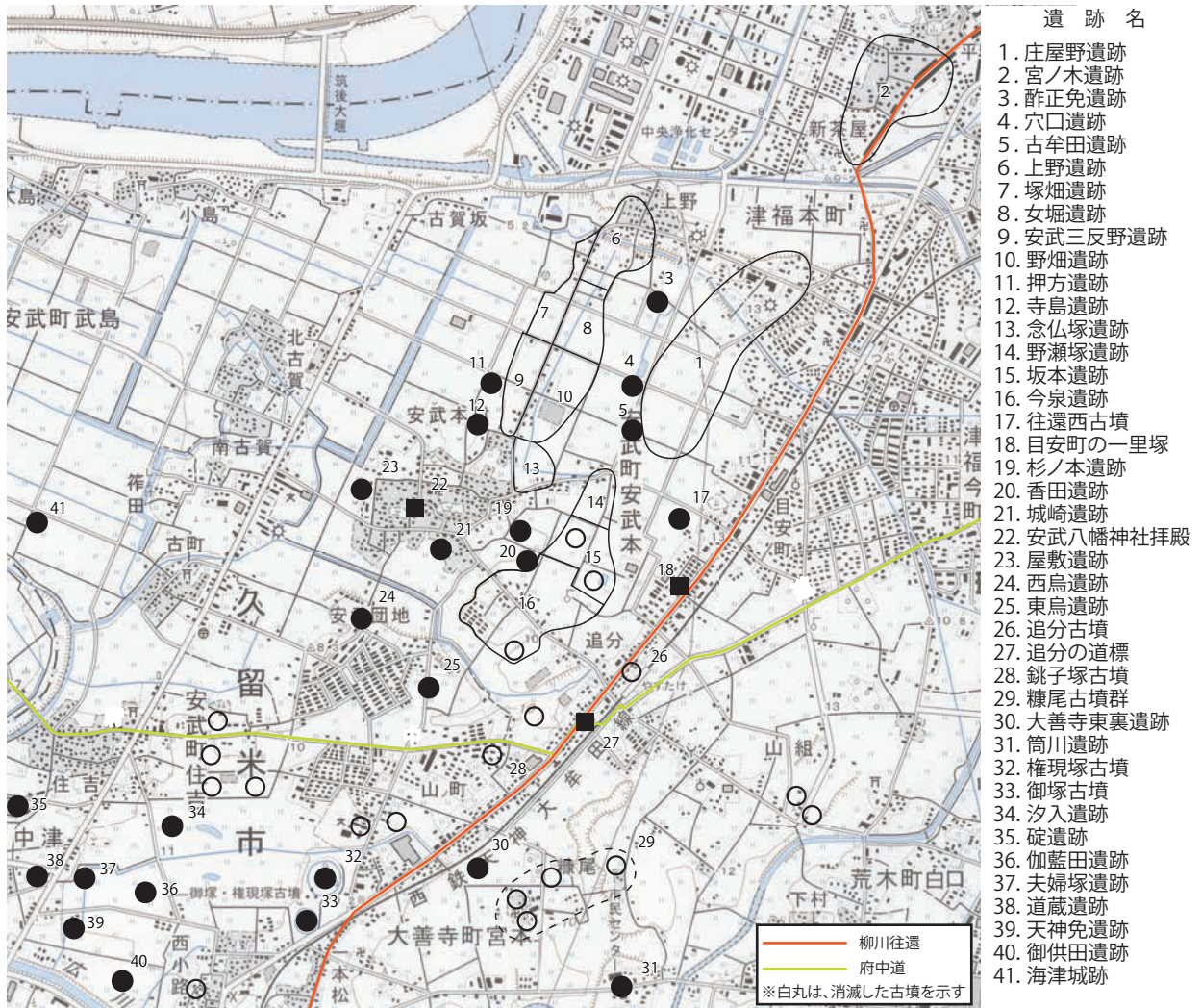
方向の溝が検出されている。

弥生時代の墓域としては、前期の酢正免遺跡の土壙墓や前期末の安武三反野遺跡の壺棺墓群、汐入遺跡の木棺墓や土壙墓などが挙げられる。中期では、安武三反野遺跡や汐入遺跡、筒川遺跡、道蔵遺跡、東烏遺跡で甕棺墓が確認されている。特に汐入遺跡では計 27 基の甕棺墓が集落を囲むように台地周縁部を囲う様相がみられた。後期の墓域としては、中期から継続して安武三反野遺跡で甕棺墓や石蓋土壙墓が確認され、特に裏面に「+」字形が複数線刻された石蓋が目される。

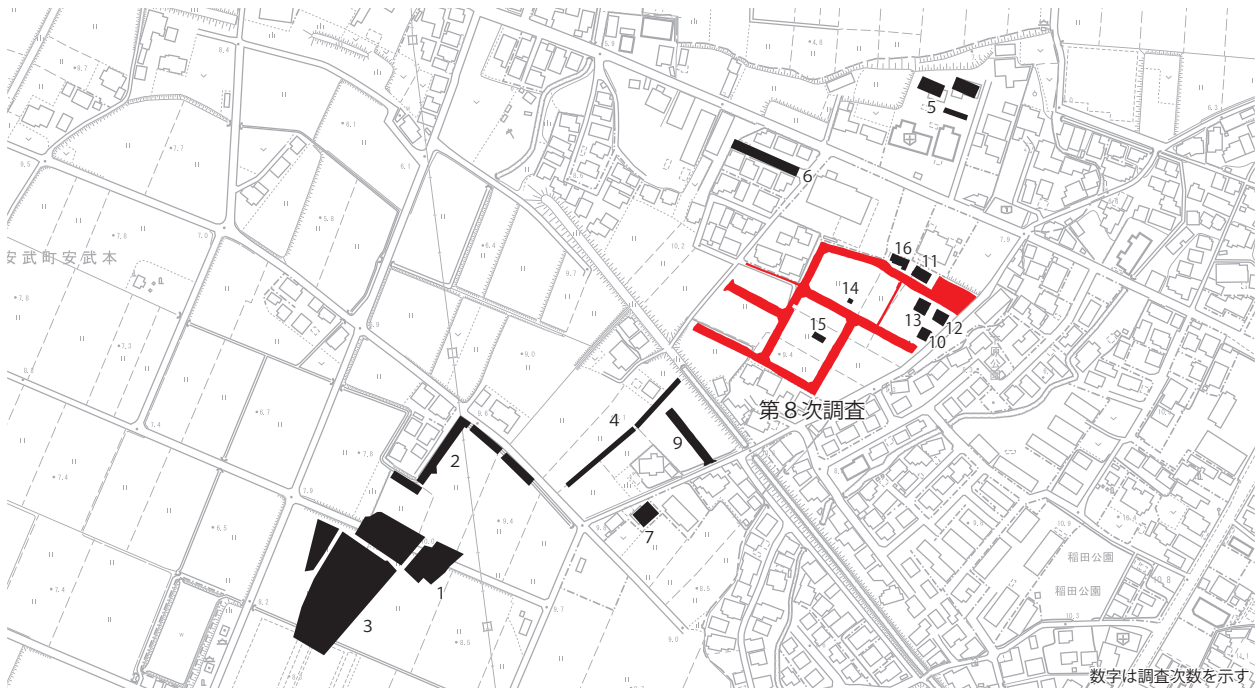
古墳時代になると、『日本書紀』に登場する水沼君の奥津城とされる国指定史跡「御塚・権現塚古墳」の築造を契機として、数多くの古墳が築造されたが、追分古墳、往還西古墳、糠尾古墳群以外の大半は調査を経ずに大正時代の耕地整理により消滅した。先述した 5 世紀後半の全長 78 m の帆立貝式古墳である御塚古墳、6 世紀前半の径 50 m の円墳である権現塚古墳、そして 6 世紀前半以降の前方後円墳と伝わる銚子塚古墳が首長墓だと考えられている。古墳以外の墳墓については、坂本遺跡で土壙墓 23 基と石棺墓 1 基、汐入遺跡で鉄鏃を副葬した土壙墓が検出された。庄屋野遺跡周辺の古墳時代の集落としては、宮ノ木遺跡の 6 世紀代の溝などが挙げられる。

律令期の安武町一帯は『倭名類聚抄』によると筑後国三潞郡にあたり、「田家郷」に比定される。道蔵遺跡では正方位に配置された 8 世紀後半～9 世紀の建物群や 8 世紀末～9 世紀後半の道路遺構が検出され、越州窯系青磁碗や緑釉陶器、陶硯、「三万」「三万領」「大領」と書かれた墨書土器なども出土したことから、三潞郡衙の可能性が指摘されている。野畑遺跡から今泉遺跡にかけて、8 世紀～9 世紀の官衙関連施設や工房、在地有力者の居宅等様々な性格が想定される建物群が存在する。野畑遺跡では総柱建物を伴う 30 棟近い建物群が検出され、土坑から「大印」「小印」と記した刻書土器が出土した。念仏塚遺跡では正方位の建物群や多重の耳皿、「大印」「南宅氏」と記した墨書土器が出土した。今泉遺跡では 8 世紀後半～9 世紀初頭の掘立柱建物と目隠し塀、井戸を検出した。野瀬塚遺跡では、二彩陶器や「三万大領」「因領」「三万少」と書かれた墨書土器、鞆羽口が出土した。庄屋野遺跡はこれらの遺跡群から北へ約 600～900 m のところに位置しており、1・2 次調査では雨落ち溝を有する 2 間×3 間の東西棟建物を検出し、8 世紀後半を中心とした遺物や見込みに「主」と刻書された土師器が出土した。この他にも 8 世紀から 10 世紀にかけて天神免遺跡で館跡、宮ノ木遺跡や酢正免遺跡、寺島遺跡、杉ノ本遺跡、夫婦塚遺跡、伽藍田遺跡、御供田遺跡で遺構が見つかった。なお、念仏塚遺跡では焼土・炭を含む 9 世紀～10 世紀代の遺構や鉄滓や鞆羽口が出土しており、鍛冶が行われたと推定されている。

『日本書紀』巻第二十九には、天武天皇七年(678)12月に筑紫国で大地震、いわゆる「筑紫大地震」が発生したと記されている。これは、耳納山地北麓の水縄断層が活動したことによるもので、安武町一帯でも、庄屋野遺跡や女堀遺跡、城崎遺跡、西烏遺跡、東烏遺跡、碓遺跡で地割れ痕跡や噴砂痕が検出されている。特に東烏遺跡では、埋没した弥生時代の竪穴住居から地割れが確認され、伏せて埋まった弥生土器が地割れによって二分された状態で出土した。



第1図 調査地点と周辺の遺跡分布図 (1/25,000)



第2図 調査地点の位置と周辺地形図 (1/5,000)

Ⅲ. 調査の記録

1. 検出遺構

調査地は台地の東斜面に位置し、南西方向から北東方向へ向かって傾斜する。東側は谷に面している。標高は、9.0 m～9.9 mである。遺構面までの深さは0.2～1.0 mで、Ⅲ区の西壁が最も深い。

主な検出遺構は、柵列、掘立柱建物、井戸、土坑である。

柵列

S A 701 (第9図、図版3)

Ⅱ区西部で検出した柵列である。南北3間(5.3 m)であるが、南側へさらに延びる可能性がある。柱間は1.7～1.8 mである。柱掘方の平面形は円形もしくは楕円形を成し、直径0.4 m、深さ0.4～0.5 mを測る。P 2・3は柱痕があり、直径10～20cmである。主軸方位はN-12.7°-Wである。なお、西側のⅣ区に対応するピットはなかったものの、東側にあるピットと対応し、掘立柱建物を構成する可能性はある。遺物は、P 1・2・4から土師器の甕が出土している。

掘立柱建物

S B 573 (第9図、図版3)

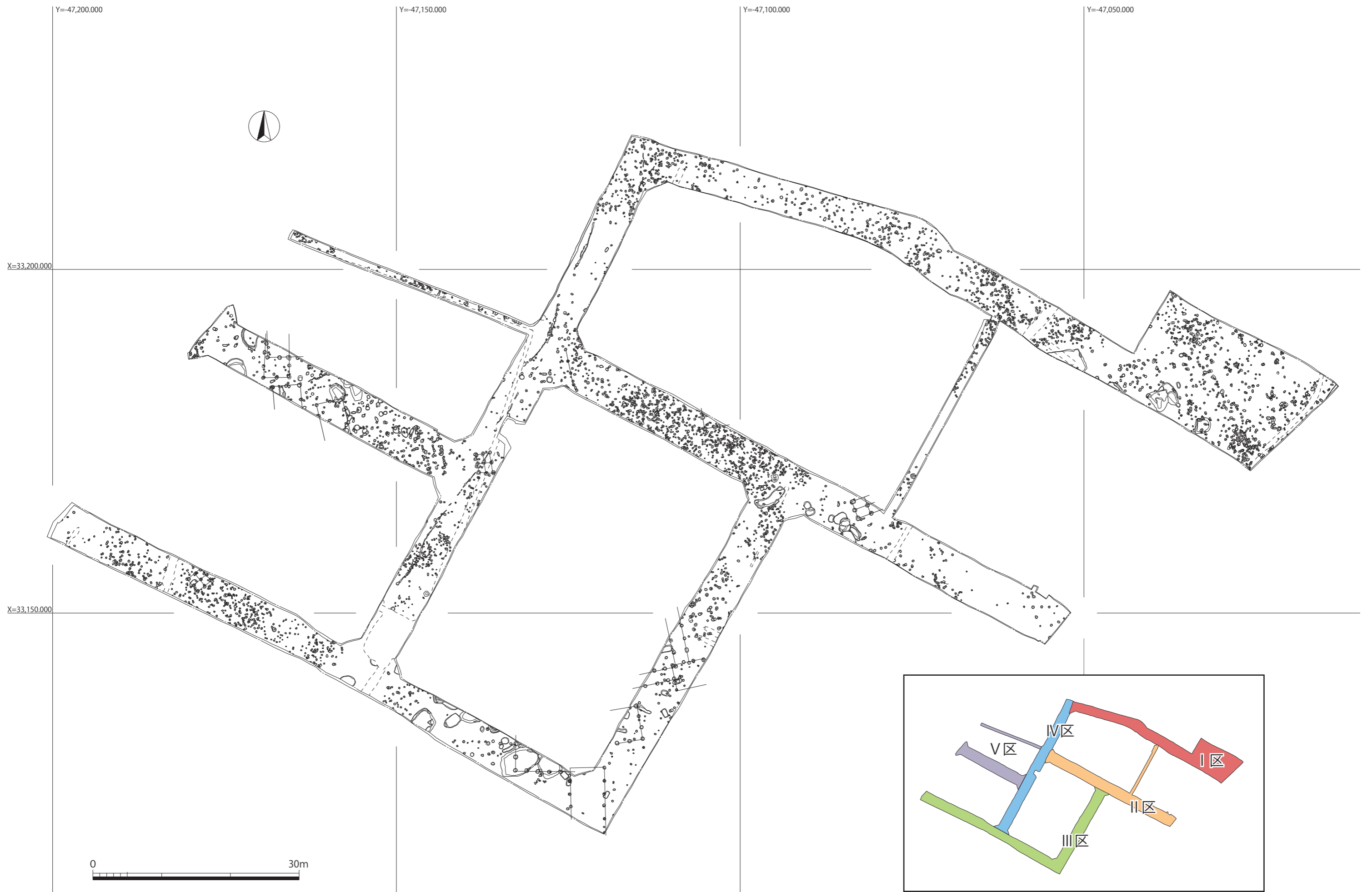
Ⅱ区東部で検出した総柱建物である。南北2間(2.6 m)、東西1間(2.0 m)以上の規模を有する。柱間は南北1.3 m等間、東西2.0 m等間である。柱掘方の平面形は円形・不整形円形・隅丸長方形を成し、直径0.6～0.8 m、深さ0.4～0.6 mを測る。主軸方位はN-20.4°-Wである。遺物は、P 1から土師器の坏・甕、須恵器の坏、刀子、P 2・3・5から土師器の坏・甕、P 4から土師器の坏・埴・甕が出土している。

S B 702 (第9図)

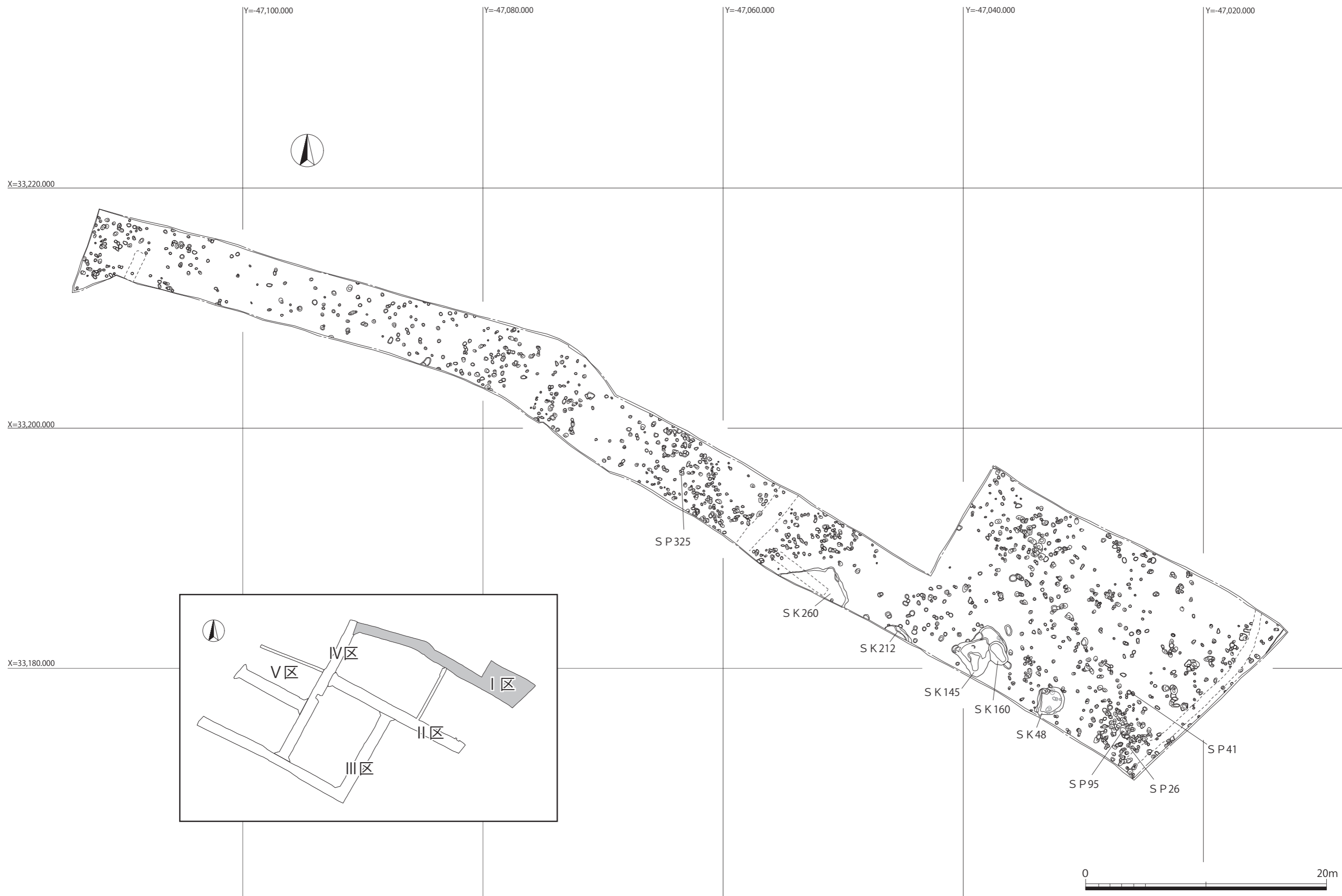
Ⅱ区西部で検出した掘立柱建物である。南北1間(1.6 m)以上、東西1間(1.5 m)以上の規模を有する。柱掘方は円形を成し、直径0.5～0.6 m、深さ0.5 mを測る。主軸方位はN-8.7°-Wである。遺物は、P 1・2から土師器の甕が出土している。

S B 804 (第10図、図版3)

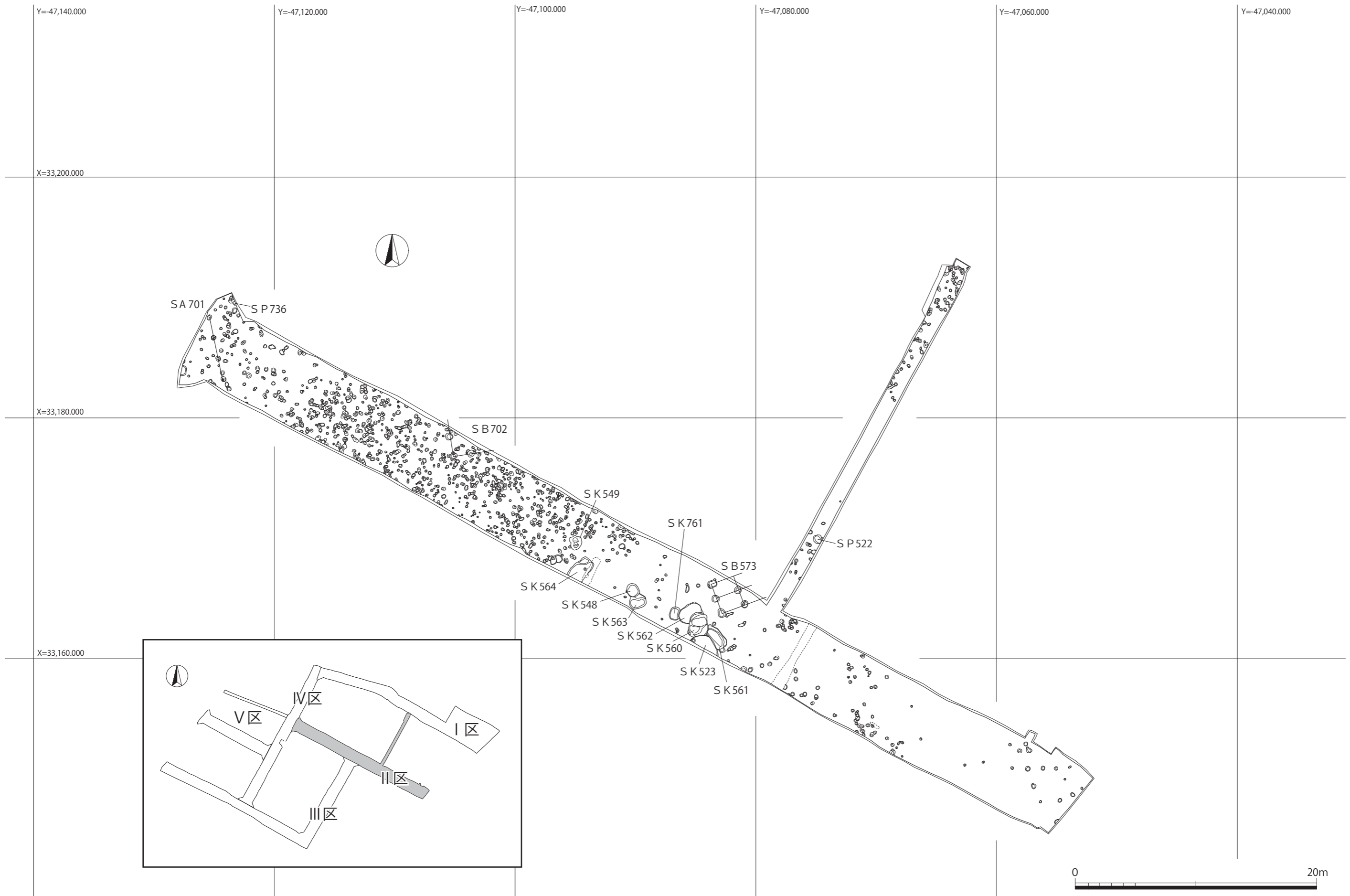
Ⅲ区東部で検出した掘立柱建物である。南・東側に廂もしくは目隠し塀がつくものとみられる。身舎の規模は、南北2間(4.0 m)以上、東西2間(3.3 m)以上であり、柱間は南北2.0 m等間、東西1.6～1.7 mである。柱掘方は円形を成し、直径0.4～0.5 m、深さ0.1～0.5 mを測る。P 1・3で柱痕を確認しており、直径0.1～0.2 mである。廂もしくは目隠し塀の規模は南北3間(5.6 m)以上、東西3間(5.3 m)以上であり、柱間は南北1.6～2.0 m、東西1.7～1.8 mである。柱掘方の平面形は円形もしくは隅丸長方形を成し、直径0.4～0.6 m、深さ0.2～0.4 mを測る。P 1・3・6～8・12・13で柱痕を確認しており、直径10～20cmである。主軸方位はN-10.9°-Wである。S B 805と重複関係にあり、S B 805に後出する。P 1柱痕から土師器の坏・甕、P 2掘方から



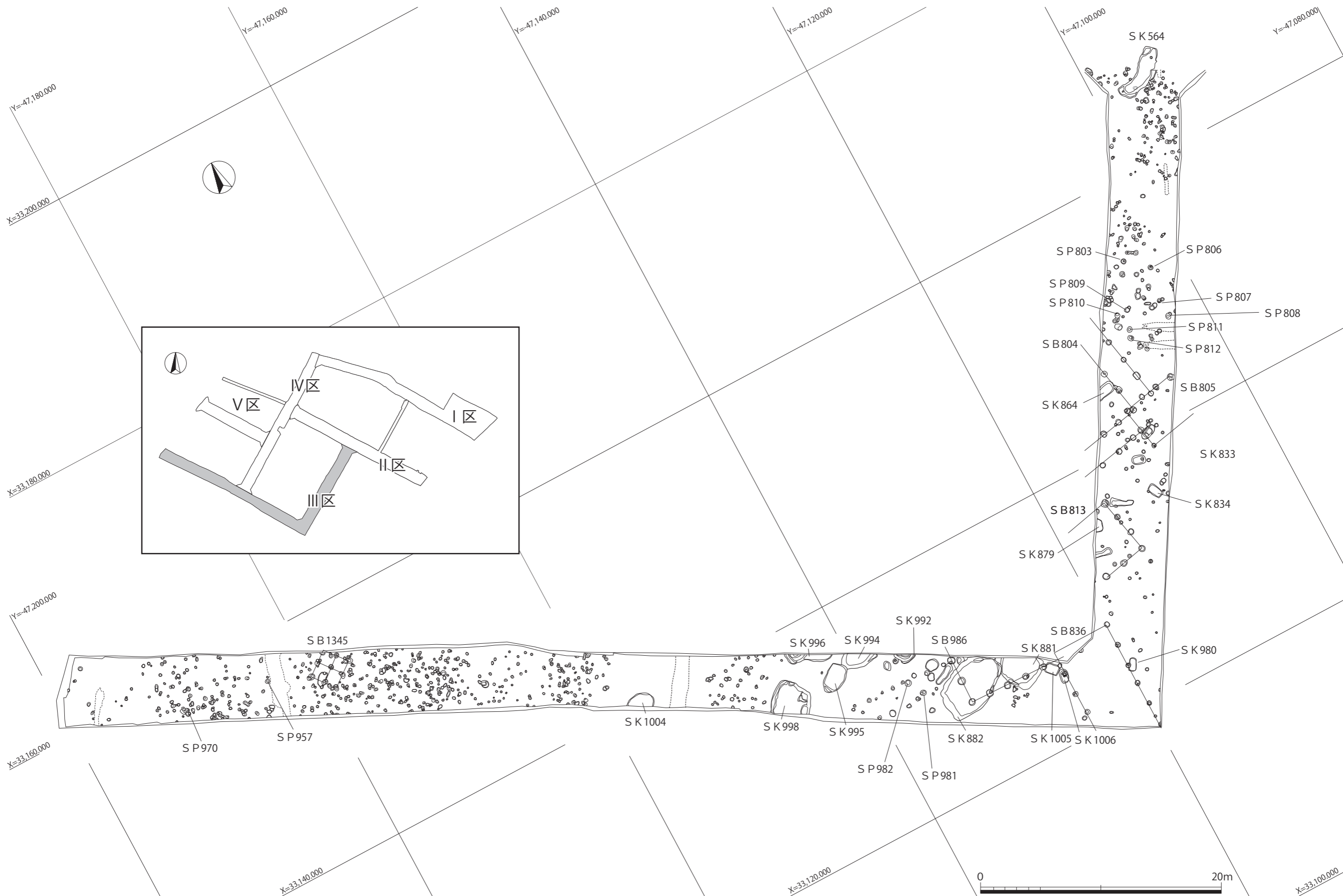
第3図 遺構配置図(1/500)



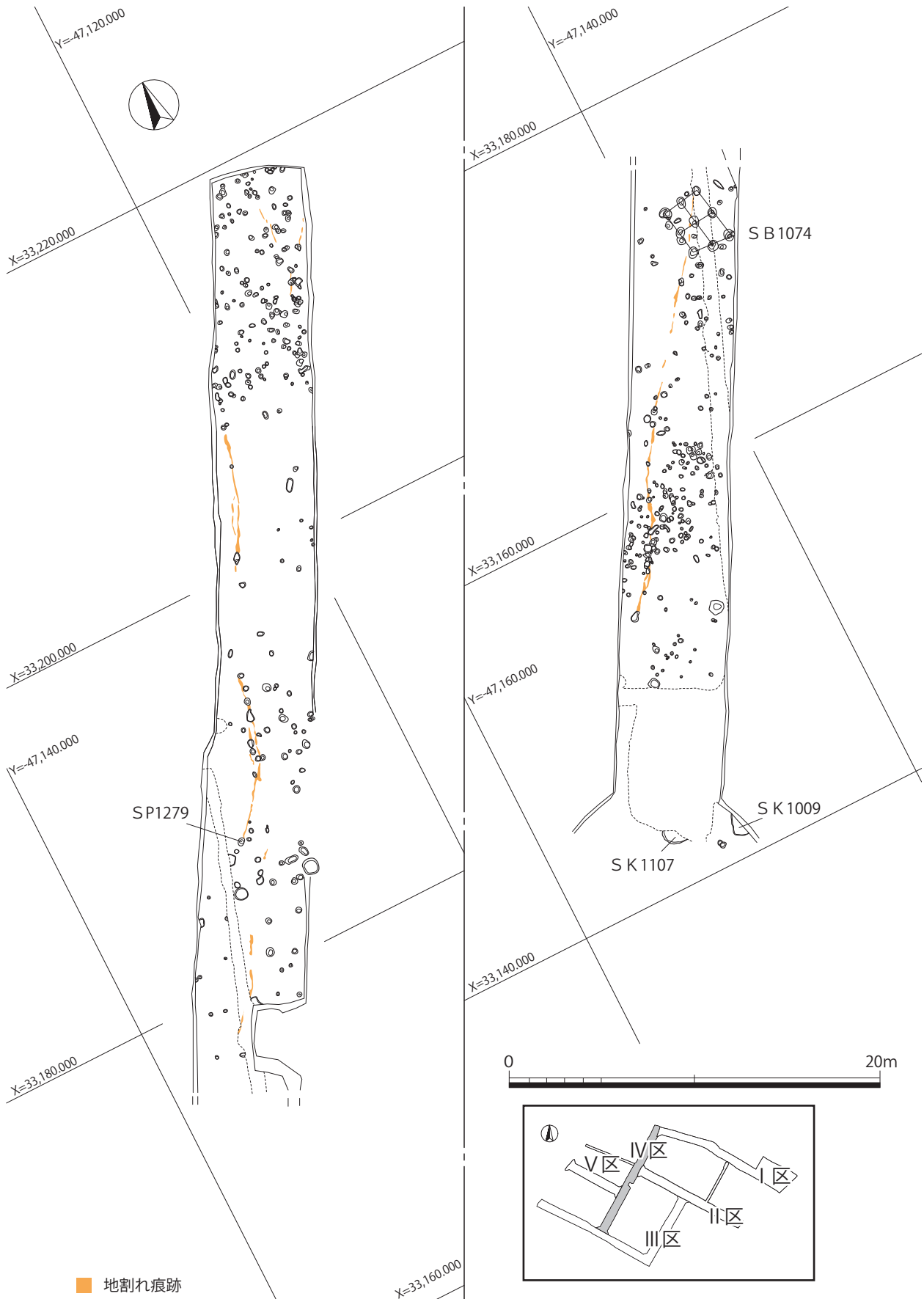
第4図 I区遺構配置図(1/300)



第5図 II区遺構配置図(1/300)

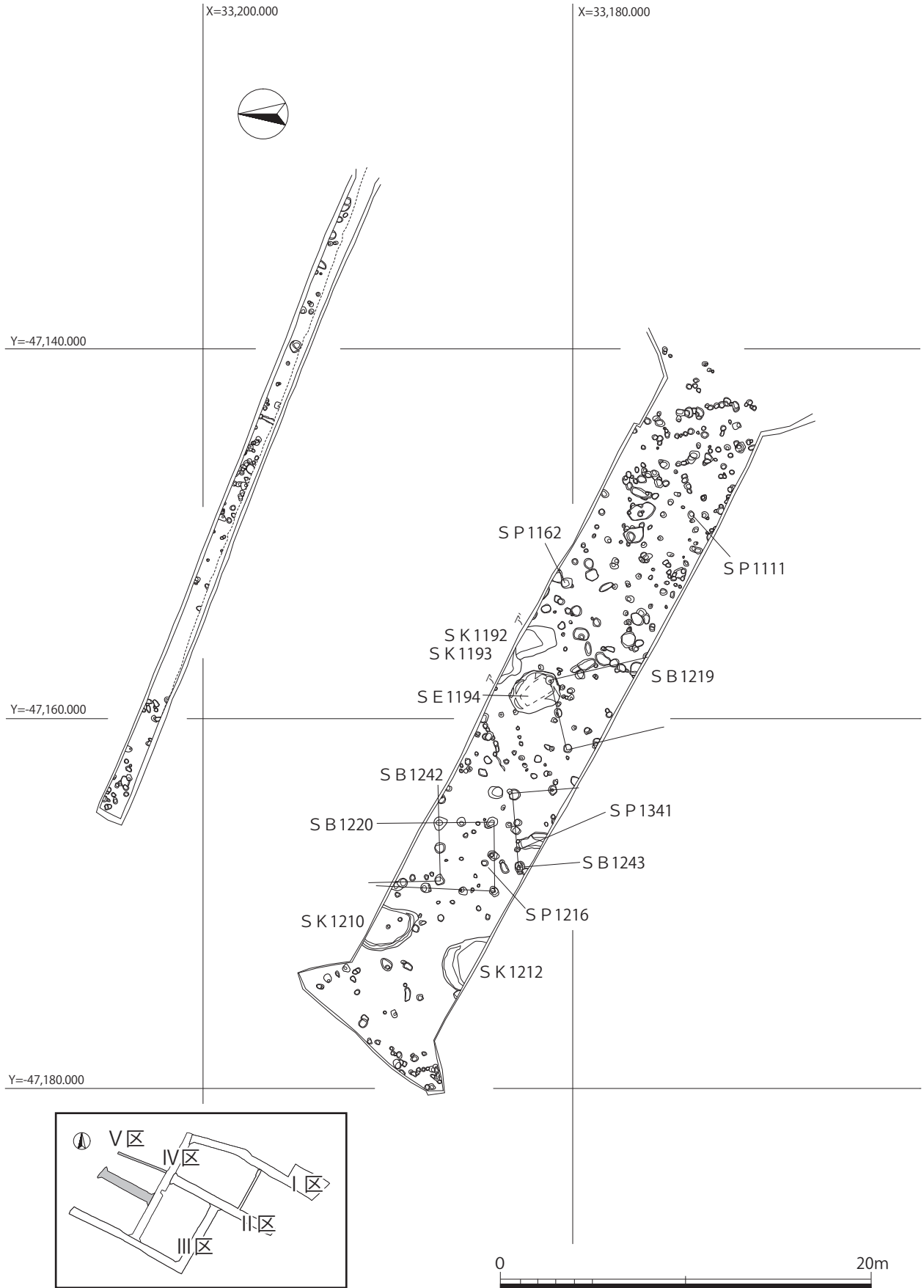


第6図 Ⅲ区遺構配置図(1/300)

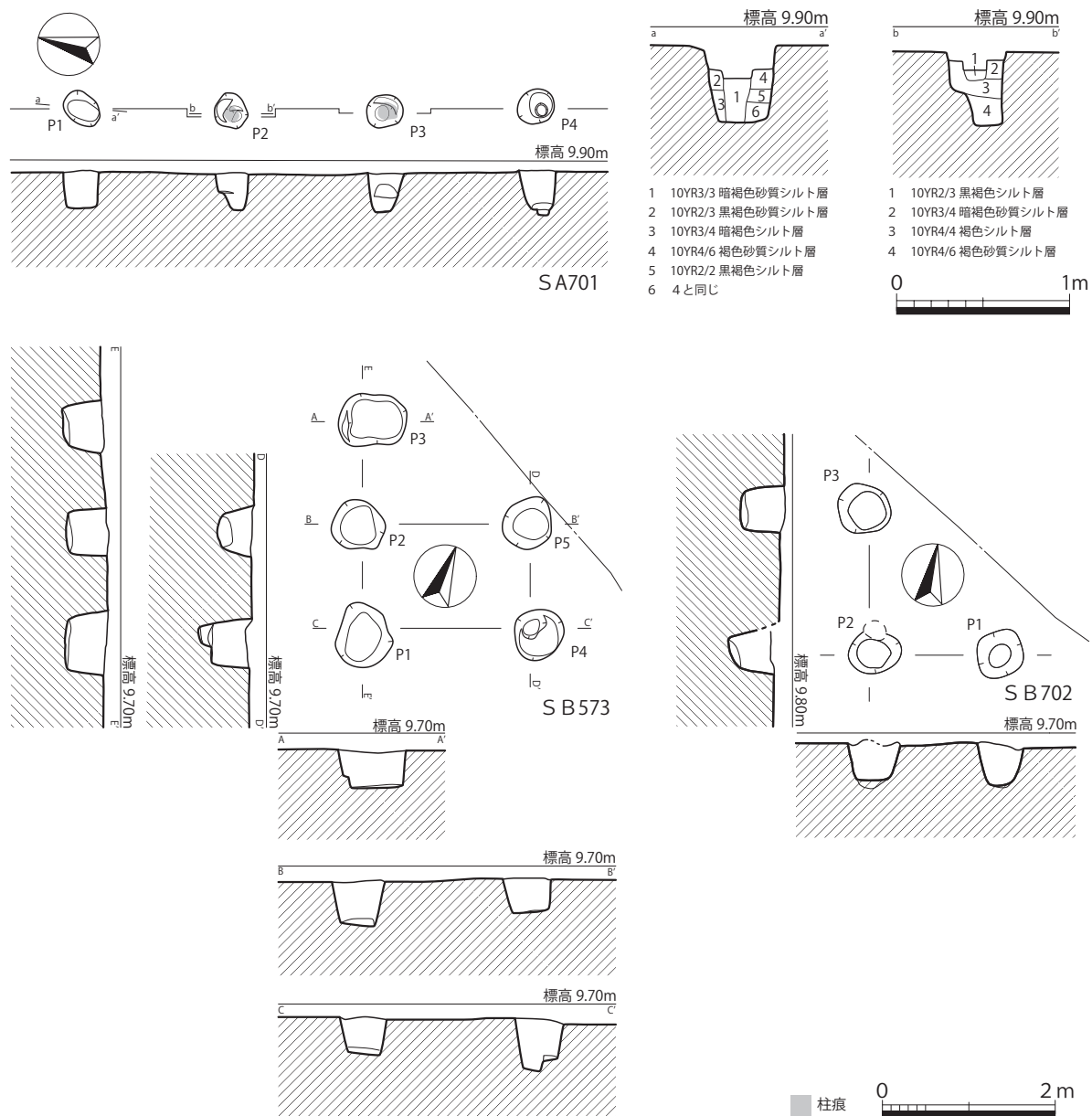


第7図 IV区遺構配置図 (1/300)

Ⅲ. 調査の記録



第8図 V区遺構配置図 (1/300)



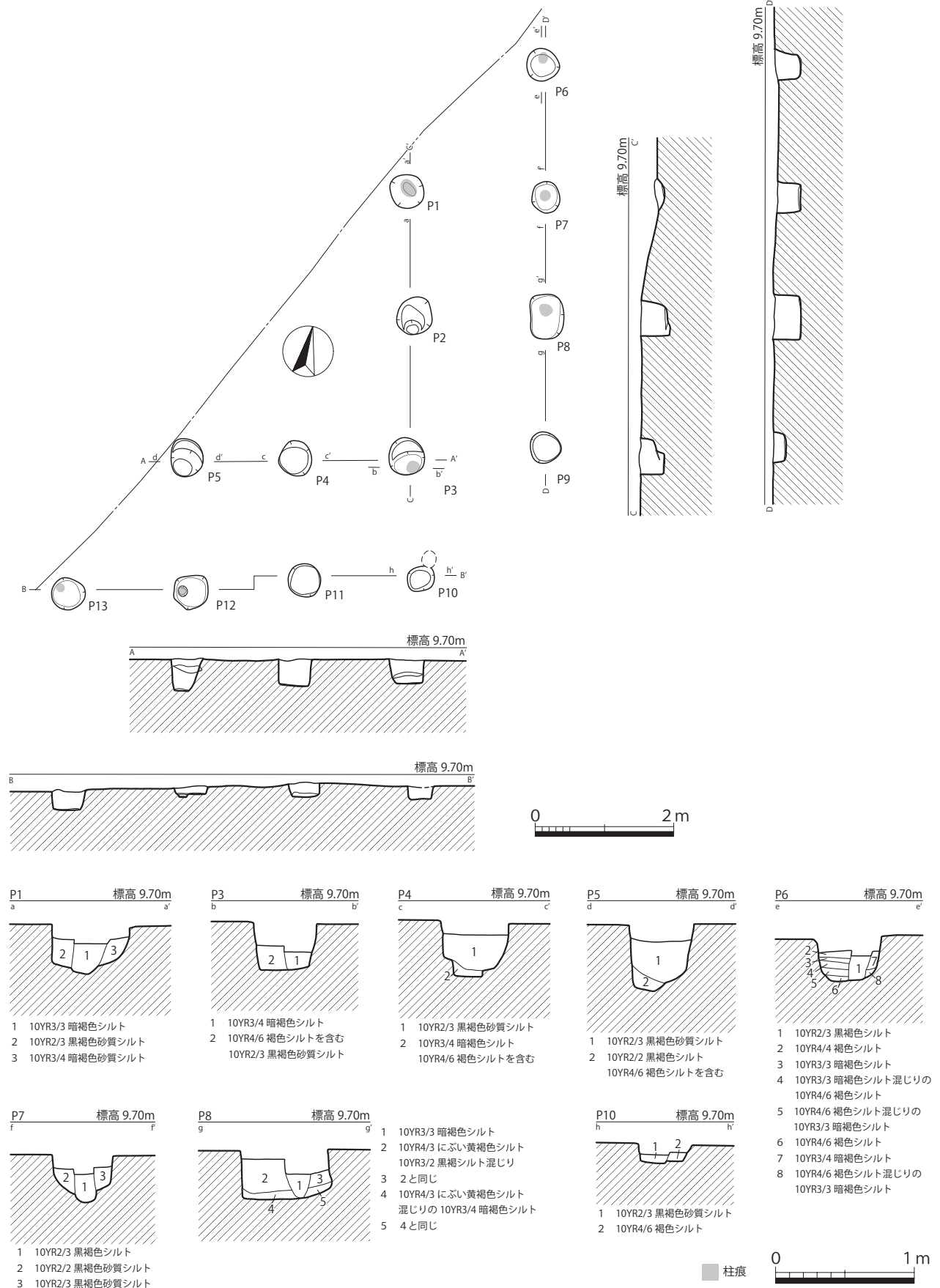
第9図 S A 701、S B 573・702 実測図 (1/80、土層断面図は 1/40)

土師器の坏・埴・甕、須恵器の蓋・甕、粘土塊、P 2から土師器の坏・甕、須恵器の蓋・甕、粘土塊、P 3・P 7掘方・P 8掘方・P 12から土師器の坏・甕、P 4から土師器の坏・甕、須恵器の蓋、P 6柱痕から土師器の甕、P 6掘方から土師器の蓋・坏・甕、P 9から土師器の甕、P 11から土師器の甕、須恵器の坏、P 13から土師器の蓋・坏・甕、須恵器の甕が出土している。

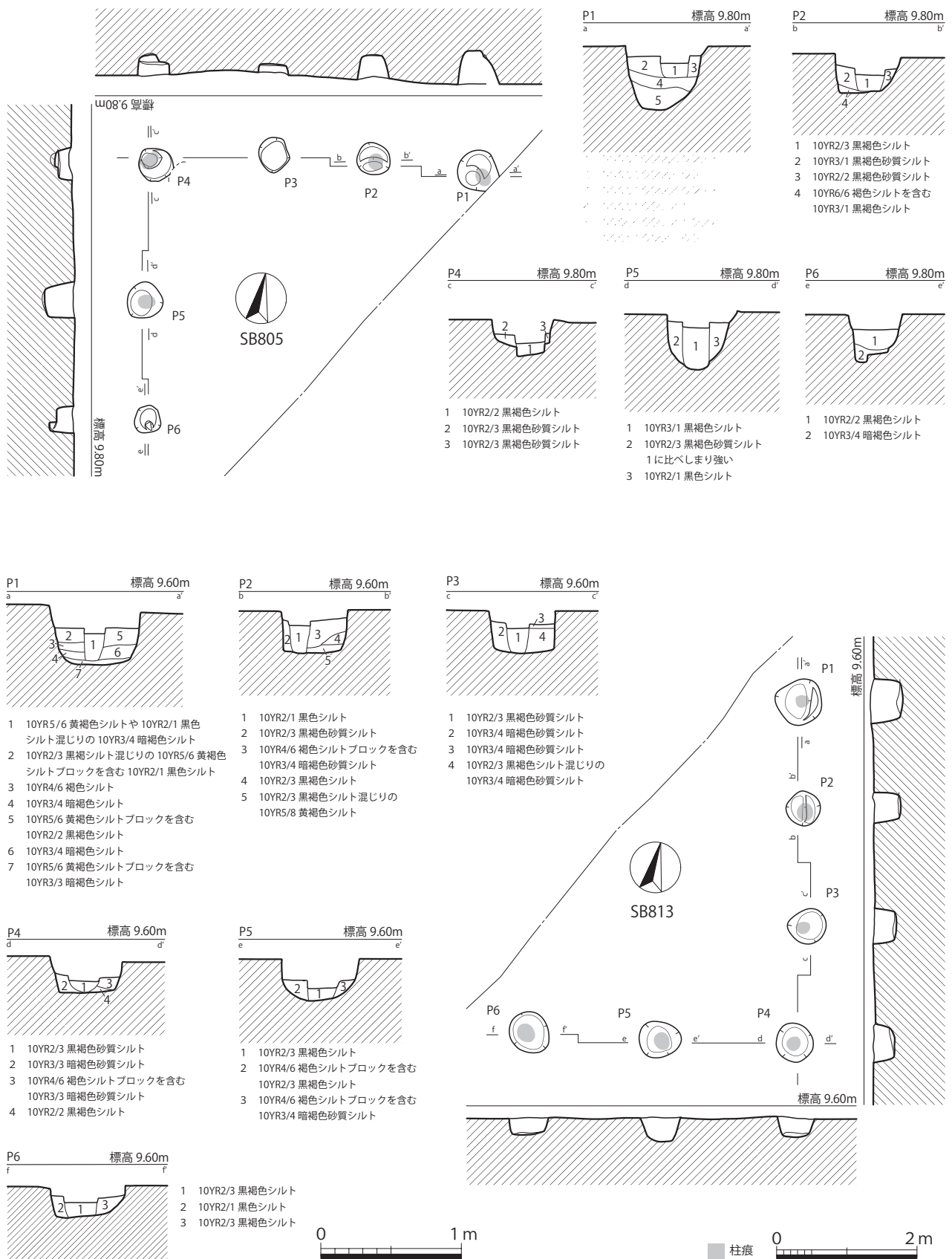
S B 805 (第11図、図版3・4)

Ⅲ区東部で検出した掘立柱建物である。南北2間(3.6 m)、東西3間(4.8 m)以上の規模を有し、東西棟とみられる。柱間は南北1.6～2.0 m、東西1.5～1.8 mである。柱掘方の平面形は円形を成し、直径0.4～0.6 m、深さ0.1～0.5 mを測る。P 1・2・4・5で柱痕を確認しており、直径20～30 cmである。主軸方位はN-100.3°-Wである。S B 804と重複関係にあり、S B 804に先行する。遺物は、P 1柱痕・P 4から土師器の坏・甕、P 1掘方から土師器の甕、P 2掘方から

III. 調査の記録

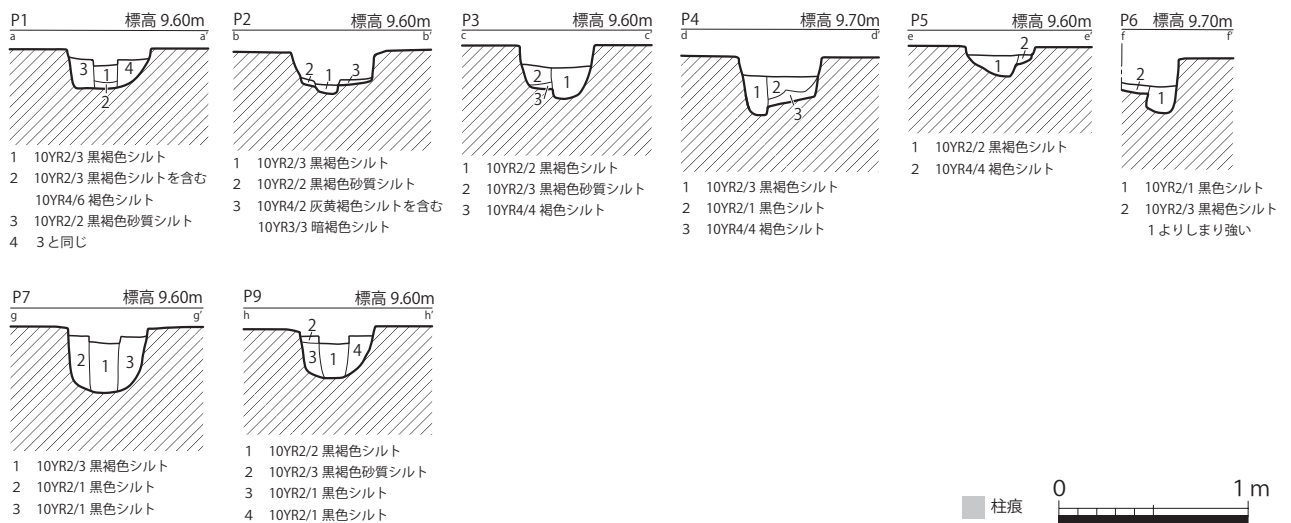
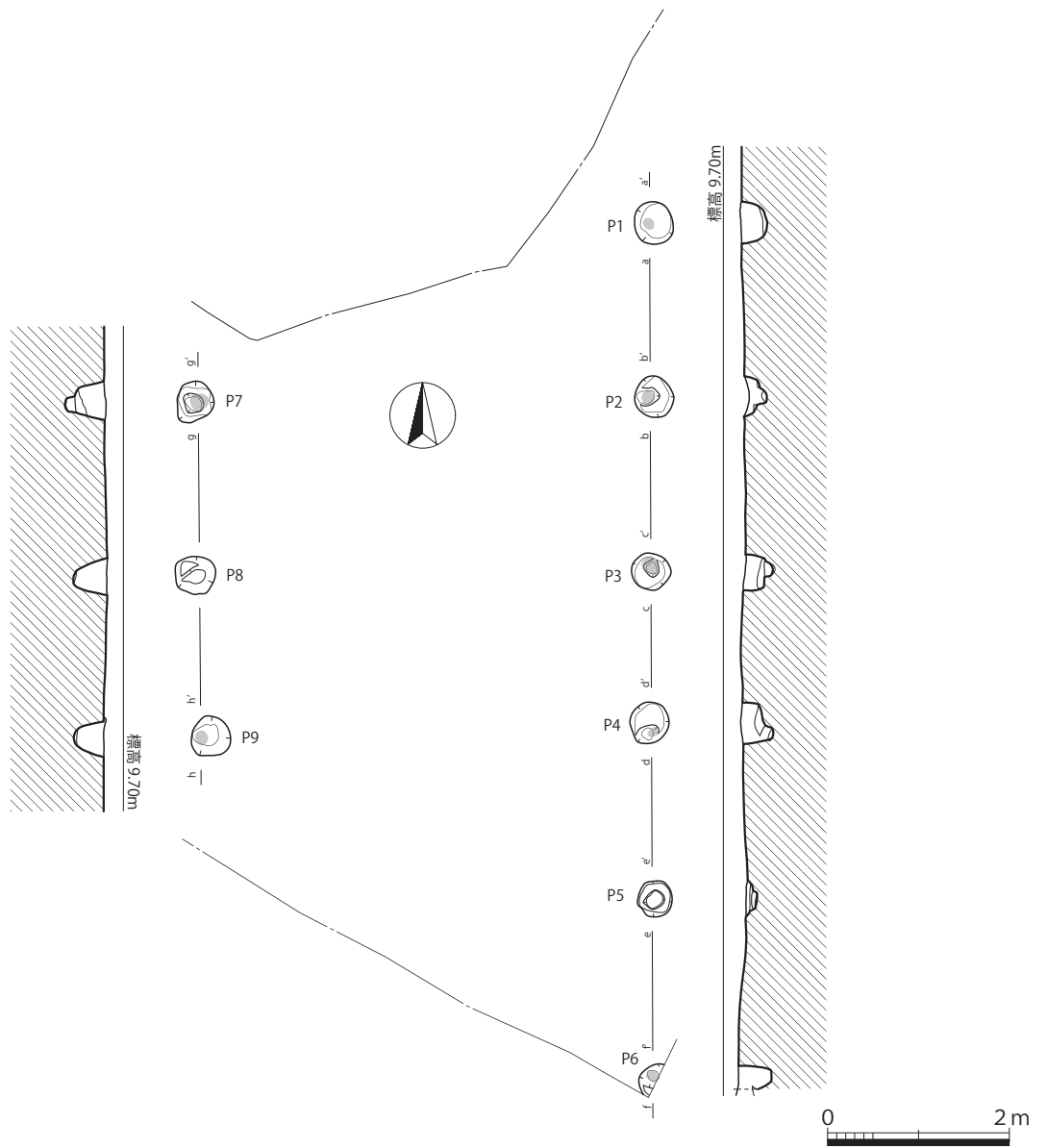


第10図 S B 804 実測図 (1/80、土層断面図は 1/40)

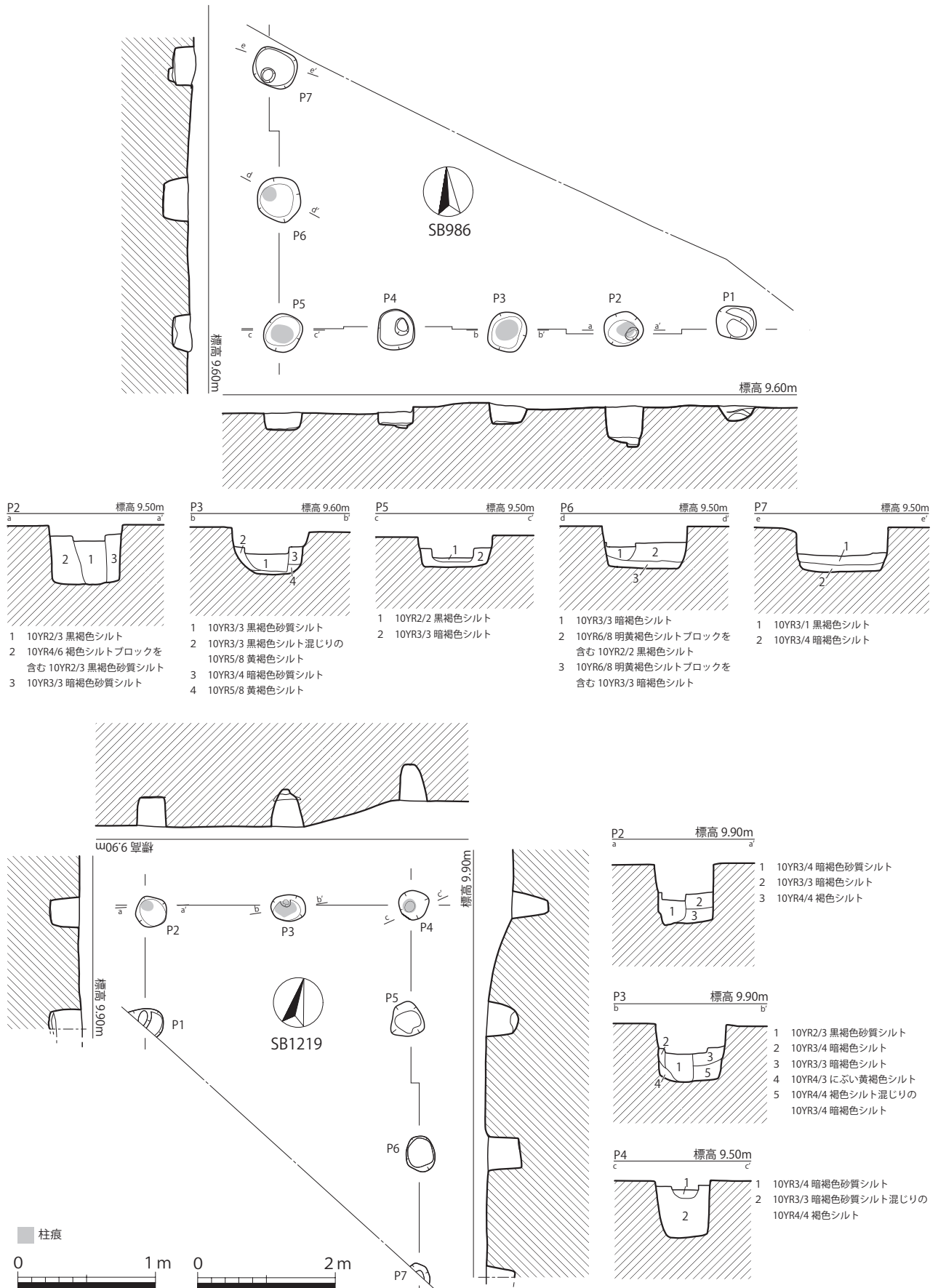


第 11 図 S B 805・813 実測図 (1/80、土層断面図は 1/40)

Ⅲ. 調査の記録

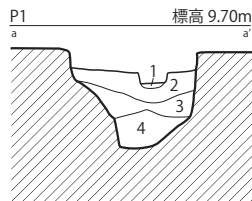
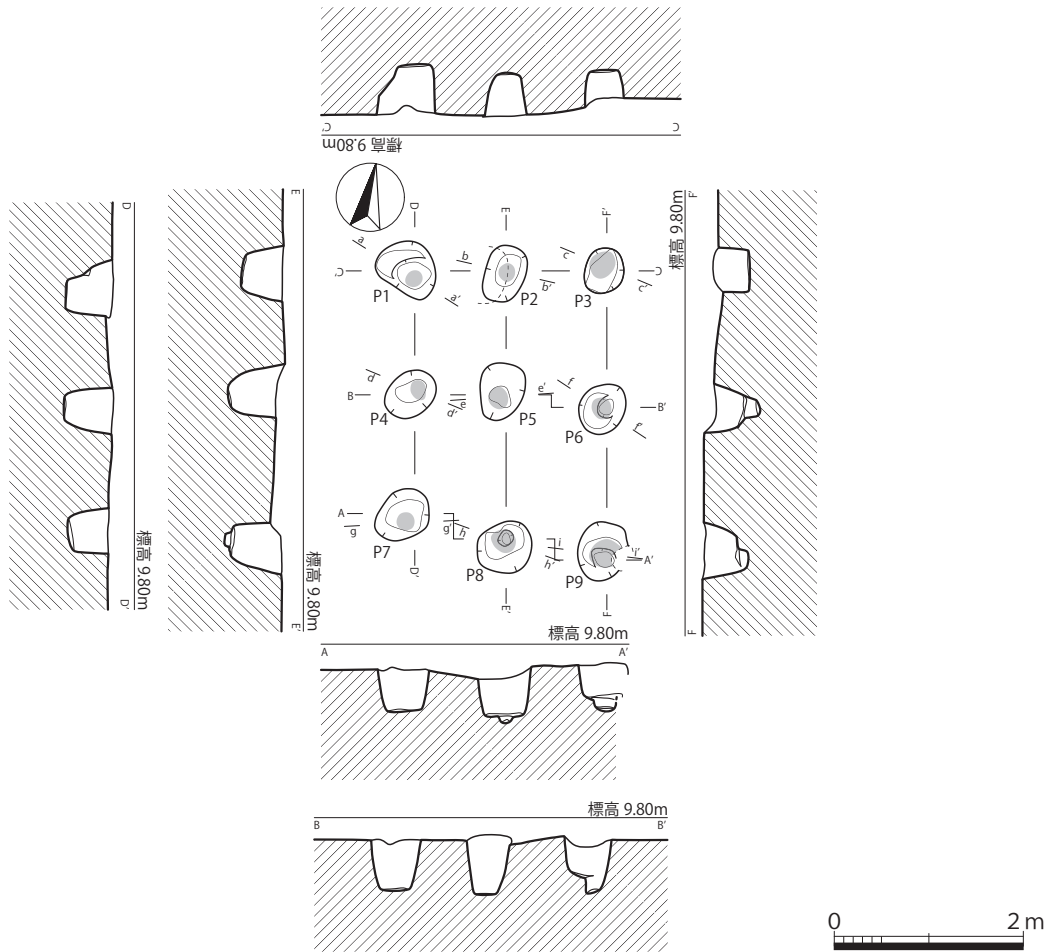


第12図 S B 836 実測図 (1/80、土層断面図は 1/40)

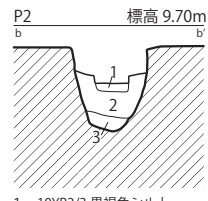


第 13 図 S B 986・1219 実測図 (1/80、土層断面図は 1/40)

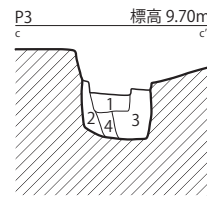
III. 調査の記録



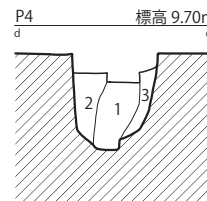
- 1 10YR2/2 黒褐色シルト
- 2 10YR3/4 暗褐色シルトブロック
混じりの 10YR2/3 黒褐色シルト
- 3 10YR3/3 暗褐色シルト
- 4 10YR2/3 黒褐色砂質シルト



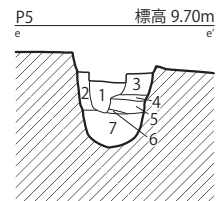
- 1 10YR2/3 黒褐色シルト
- 2 10YR3/3 暗褐色シルト混じりの
10YR4/3 にぶい黄褐色シルト
- 3 10YR4/4 褐色砂質シルト



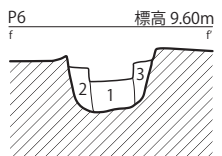
- 1 10YR3/4 暗褐色シルト
- 2 10YR4/6 褐色砂質シルト
- 3 10YR2/3 黒褐色シルト
- 4 10YR3/4 暗褐色砂質シルト



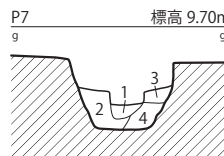
- 1 10YR2/3 黒褐色シルト混じりの
10YR4/6 褐色砂質シルト
- 2 10YR3/4 暗褐色シルト
- 3 10YR3/4 暗褐色砂質シルト



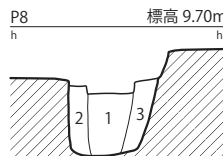
- 1 10YR2/3 黒褐色シルト
- 2 10YR3/4 暗褐色シルト混じりの
10YR4/6 褐色シルト
- 3 10YR3/4 暗褐色シルト
- 4 10YR4/6 褐色シルト
- 5 10YR3/4 暗褐色シルト
- 6 10YR4/6 褐色シルト
- 7 10YR4/6 褐色シルト混じりの
10YR3/4 暗褐色シルト



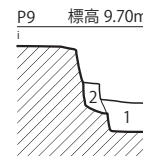
- 1 10YR3/3 暗褐色シルト
- 2 10YR4/6 褐色シルトブロック
混じりの 10YR2/3 黒褐色シルト
- 3 10YR2/3 黒褐色シルト



- 1 10YR3/4 暗褐色砂質シルト
- 2 10YR3/4 暗褐色シルト
- 3 10YR4/6 褐色シルト混じりの
10YR3/3 暗褐色シルト
- 4 10YR4/6 褐色シルト



- 1 10YR3/4 暗褐色シルト
- 2 10YR4/6 褐色シルトブロックを
含む 10YR3/3 暗褐色シルト
- 3 10YR4/6 褐色シルトブロックを
含む 10YR3/4 暗褐色砂質シルト

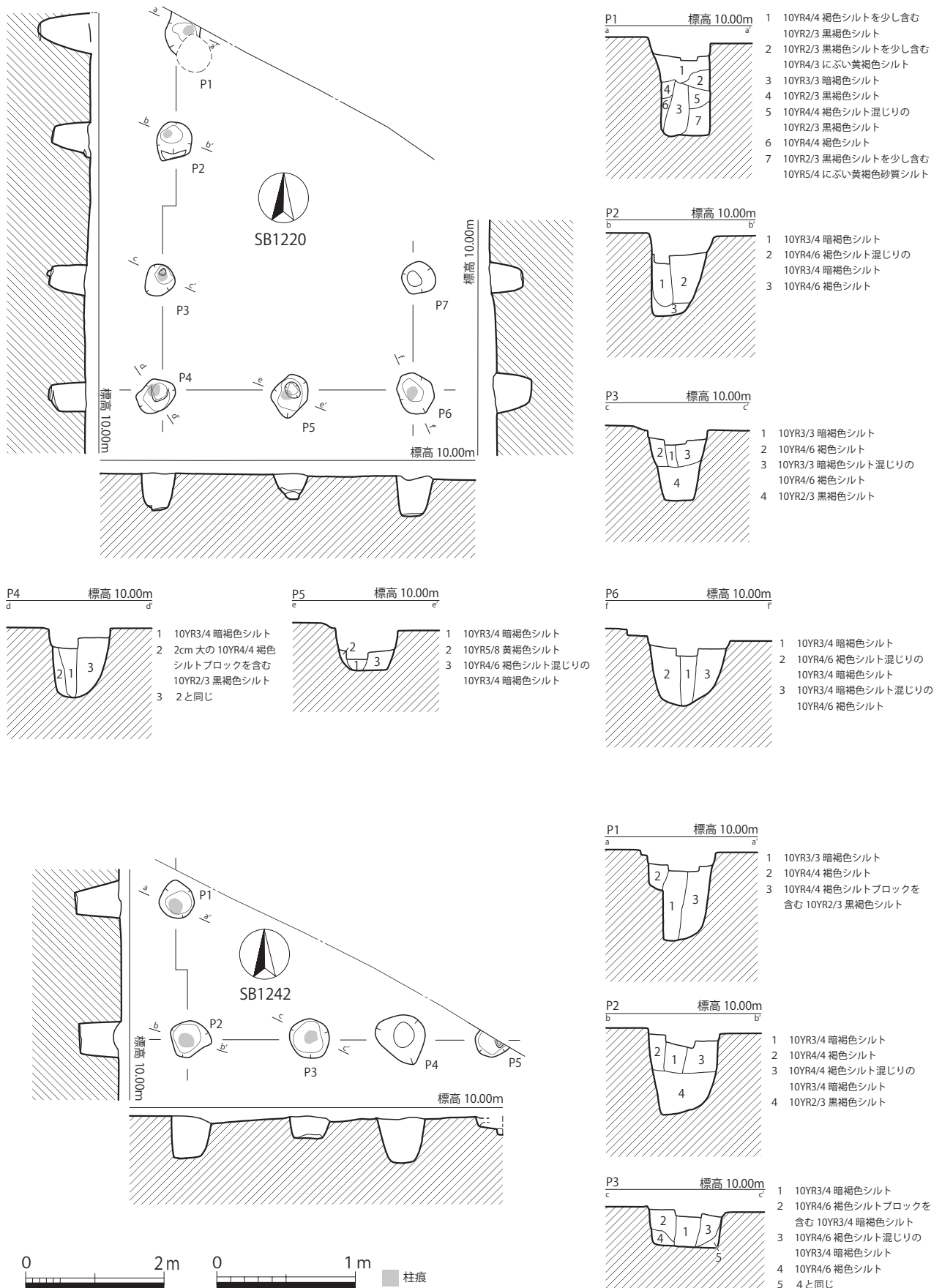


- 1 10YR2/3 黒褐色シルト
- 2 10YR3/4 暗褐色シルト



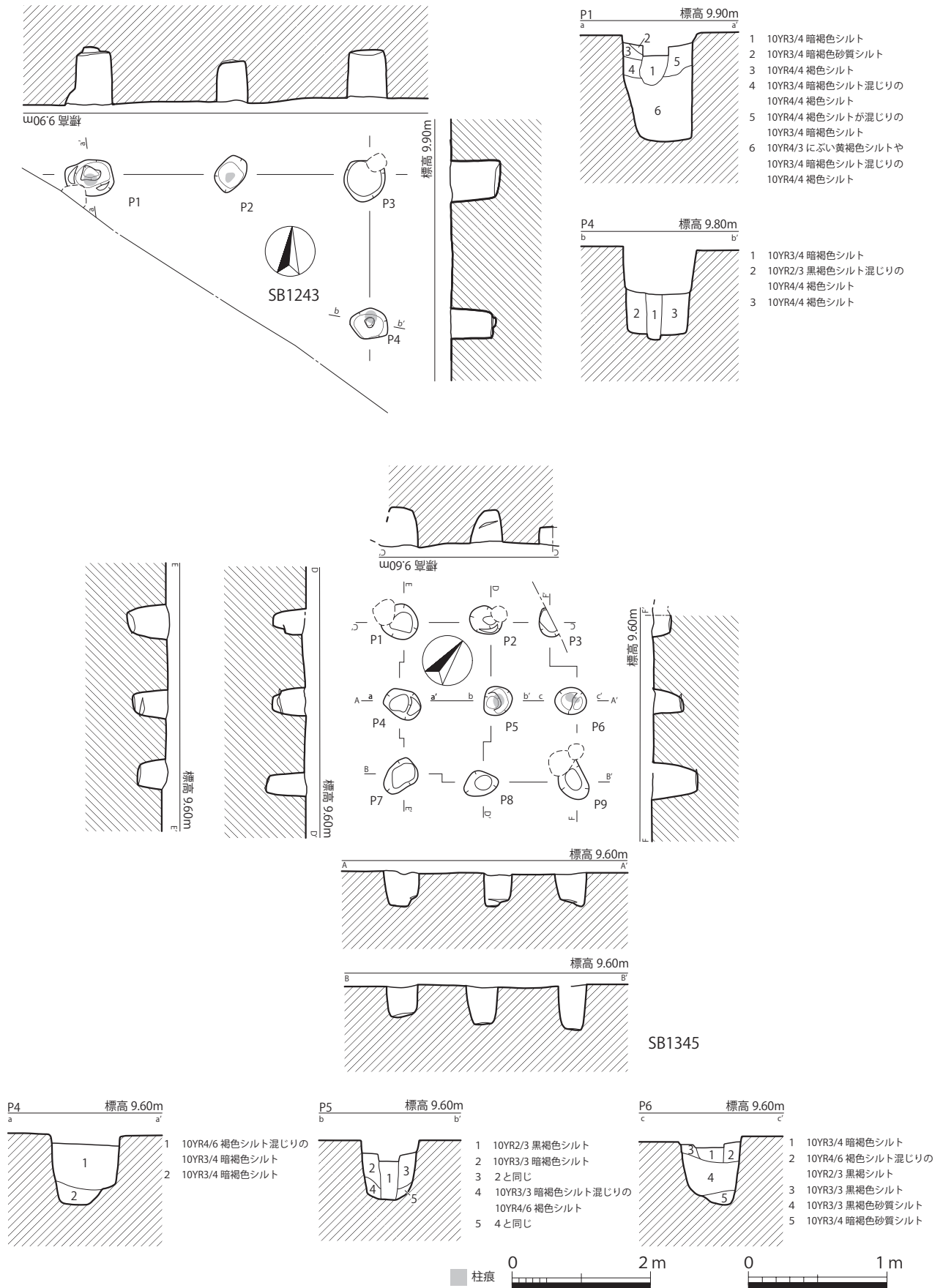
第 14 図 S B 1074 実測図 (1/80、土層断面図は 1/40)

III. 調査の記録



第 15 図 S B 1220・1242 実測図 (1/80、土層断面図は 1/40)

III. 調査の記録



第 16 図 S B 1243・1345 実測図 (1/80、土層断面図は 1/40)

土師器の坏・甕、須恵器の坏、P 5から土師器の坏・埴・甕、須恵器の蓋・坏、粘土塊、P 6 柱痕・掘方から土師器の甕が出土している。

S B 813 (第 11 図、図版 4)

Ⅲ区東部で検出した掘立柱建物である。南北3間(4.9 m)以上、東西2間(3.8 m)以上の規模を有する。柱間は南北1.6～1.7 m、東西1.9 m等間である。柱掘方の平面形は円形を成し、直径0.5～0.6 m、深さ0.2～0.4 mを測る。全ての柱穴で柱痕を確認しており、直径20cmである。主軸方位はN 11.8°-Wである。遺物は、P 1・6から土師器の坏・甕、P 4・5から土師器の甕が出土した。

S B 836 (第 12 図、図版 4・5)

Ⅲ区東部で検出した掘立柱建物である。南北5間(9.3 m)以上の規模を有し、南北棟とみられるが、妻柱列を検出できていないため、平行関係にある2条の柵列である可能性もある。なお、側柱列間の心々距離は5 mである。柱間は南北1.8～1.9 mである。柱掘方の平面形は円形を成し、直径0.4 m、深さ0.1～0.4 mを測る。P 1～4・6～7・9で柱痕を確認しており、直径10～20cmである。主軸方位はN-0.2°-Eである。遺物は、P 2から土師器の坏、P 7掘方から土師器の坏・甕、須恵器の坏、P 8・9から土師器の甕が出土した。

S B 986 (第 13 図、図版 5)

Ⅲ区東部で検出した掘立柱建物である。南北2間(3.7 m)以上、東西4間(6.7 m)以上の規模を有し、東西棟建物とみられる。柱間は南北1.7～2.0 m、東西1.5～1.8 mである。柱掘方の平面形は円形もしくは隅丸長方形を成し、直径0.6 m、深さ0.2～0.6 mを測る。P 2・3・5・6で柱痕を確認しており、直径20～30cmである。主軸方位はN-93.7°-Eである。S K 882と重複関係にあり、S K 882に後出する。遺物は、P 2から土師器の蓋・坏・甕、須恵器の蓋、P 3から土師器の蓋・坏・埴・甕、須恵器の蓋、P 4掘方から土師器の蓋・坏・埴・甕、須恵器の蓋、刀子、P 5から土師器の坏・甕、P 6柱痕から土師器の蓋・坏、P 6掘方から土師器の坏・甕、須恵器の坏、P 7柱痕・掘方から土師器の坏、P 8柱痕から土師器の坏、P 8掘方から土師器の蓋・坏・高坏・甕、須恵器の蓋が出土した。

S B 1074 (第 14 図、図版 5)

Ⅳ区中央部で検出した総柱建物である。南北2間(2.6～3.1 m)、東西2間(2.0 m)の規模を有する。柱間は南北1.2～1.6 m、東西0.8～1.2 mである。柱掘方の平面形は円形もしくは楕円形を成し、直径0.5～0.7 m、深さ0.4～0.6 mを測る。全ての柱穴で柱痕を確認しており、直径20～30cmである。主軸方位はN-9.4°-Wである。遺物は、P 3柱痕から須恵器の甕、P 5から土師器の甕、須恵器の蓋、P 8から土師器の坏・甕が出土した。

S B 1219 (第 13 図、図版 5)

Ⅴ区中央部で検出した掘立柱建物である。南北3間(5.4 m)以上、東西2間(3.8 m)の規模を有し、南北棟建物とみられる。柱間は南北1.7～1.9 m、東西1.8～2.0 mである。柱掘方の平面形は円

Ⅲ. 調査の記録

形もしくは楕円形を成し、直径0.4～0.5 m、深さ0.4～0.5 mを測る。P 2～4で柱痕を確認しており、直径10～30cmである。主軸方位はN-13.1°-Wである。S E 1194と重複関係にあり、S E 1194に後出する。遺物は、P 1から土師器の坏・甕、P 2から土師器の坏、P 3柱痕から土師器の甕、P 3掘方から土師器の坏・甕が出土した。

S B 1220 (第15図、図版5・6)

V区中央部で検出した掘立柱建物である。南北3間(5.3 m)以上、東西2間(3.7 m)の規模を有し、南北棟建物とみられる。柱間は南北1.6～2.1 m、東西1.8～1.9 mである。柱掘方の平面形は円形もしくは楕円形を成し、直径0.5～0.6 m、深さ0.4～0.7 mを測る。P 1～P 6で柱痕を確認しており、直径10～20cmである。主軸方位はN-1.0°-Wである。S B 1242と重複関係にあり、S B 1242に先行する。遺物は、P 1掘方・P 2・P 6から土師器の坏、P 3柱痕・掘方から土師器の甕、P 4掘方から土師器の甕、P 5掘方から土師器の坏が出土した。

S B 1242 (第15図)

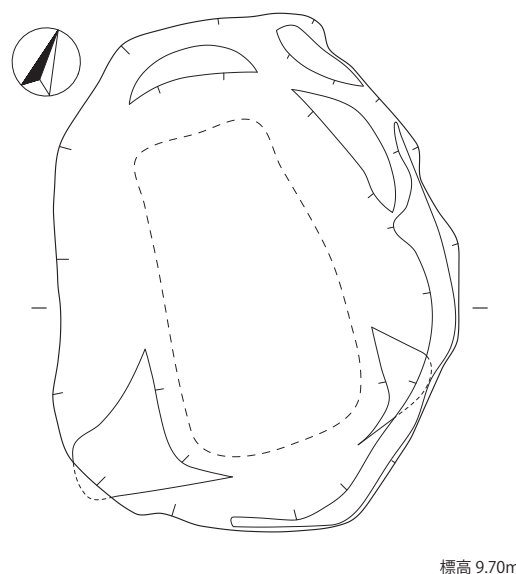
V区中央部で検出した掘立柱建物である。南北1間(1.9 m)以上、東西3間(4.5 m)以上の規模を有する。柱間は東西1.3～1.8 mである。柱掘方の平面形は円形もしくは不整形円形を成し、直径0.5～0.6 m、深さ0.2～0.6 mを測る。P 1～3・5で柱痕を確認しており、直径20cmである。主軸方位はN-0.8°-Wである。S B 1220と重複関係にあり、S B 1220に後出する。遺物は、P 1掘方・P 3～5から土師器の坏が出土した。

S B 1243 (第16図、図版6)

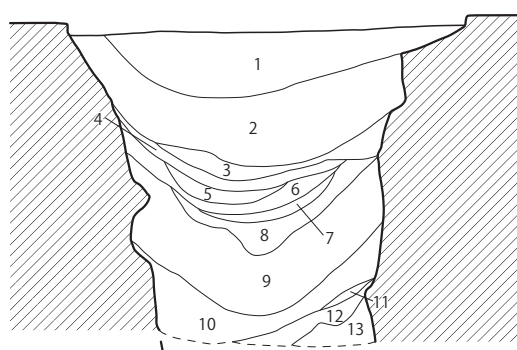
V区中央部で検出した掘立柱建物である。南北1間(2.0 m)以上、東西2間(4.0 m)以上の規模を有する。柱間は東西2.0 m等間である。柱掘方の平面形は円形もしくは楕円形を成し、直径0.4～0.7 m、深さ0.6～0.8 mを測る。P 1・2・4で柱痕を確認しており、直径20cmである。主軸方位はN-4.7°-Wである。遺物は、P 4から土師器の坏・甕、P 5から土師器の甕が出土した。

S B 1345 (第16図、図版6)

Ⅲ区西部で検出した総柱建物である。南北2間(2.2



標高 9.70m



- 1 10YR3/4 暗褐色シルト混じりの 10YR2/2 黒褐色シルト
- 2 10YR2/3 黒褐色シルト
- 3 10YR4/4 褐色粒子を含む 10YR3/4 暗褐色シルト
- 4 10YR4/4 褐色粒子を含む 10YR2/2 黒褐色シルト
- 5 10YR3/4 暗褐色シルト
- 6 10YR2/3 黒褐色シルト
- 7 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト
- 8 10YR2/3 黒褐色シルト
- 9 10YR2/3 黒褐色シルト混じりの 10YR4/4 褐色シルト
- 10 10YR2/3 黒褐色砂質シルト
- 11 10YR4/4 褐色シルト
- 12 10YR2/2 黒褐色シルト
- 13 10YR5/6 黄褐色砂質シルト



第17図 S E 1194 土層断面図 (1/40)

m)、東西2間(2.4～2.5 m)の規模を有する。柱間は南北1.0～1.2 m、東西0.9～1.5 mである。柱掘方の平面形は円形もしくは楕円形を成し、直径0.4～0.5 m、深さ0.3～0.6 mを測る。P 5・P 6で柱痕を確認しており、直径20cmである。主軸方位はN-37.5°-Wである。遺物は出土していない。

井戸

SE 1194 (第17図、図版6)

V区中央部で検出した素掘りの井戸である。平面形は楕円形を呈し、長軸2.7 m、短軸2.1 mを測る。人力で1.6 mまで掘削し、その後重機で断ち割ろうと試みたが、湧水が激しく掘削できなかった。水位の上下によるものか、壁が抉れている個所が2箇所ほどあった。SB 1219に先行する。遺物は、土師器の蓋・坏・甕・把手・脚部、須恵器の蓋・坏・甕・壺、粘土塊が出土した。

土坑

SK 48 (第18図、図版6)

I区東部で検出した平面形が不整形の土坑である。長軸2.3 m、短軸2.2 m、深さ0.6 mを測る。西側に幅0.1～0.2 m、深さ0.1 mほどの段を有する。遺物は、土師器の蓋・坏・皿・甕・把手、須恵器の蓋・坏・皿・甕が出土した。

SK 145 (第19図、図版7)

I区東部で検出した平面形が不整形の土坑である。長軸3.8 m、短軸2.4 m、深さ0.6 mを測る。底面はフラットではなく、いくつかの段を有する。SK 160に先行する。遺物は、土師器の蓋・坏・皿・高坏・甕、須恵器の蓋・坏・高坏・甕・壺、粘土塊が出土した。

SK 160 (第18図)

I区東部で検出した平面形が楕円形の土坑である。長軸2.0 m、短軸1.4 m、深さ0.5 mを測る。SK 145に後出する。遺物は、土師器の坏・皿・高坏・甕、須恵器の蓋・坏が出土した。

SK 212 (第18図、図版7)

I区東部で検出した平面形が楕円形とみられる土坑である。南部は調査区外へ延びるため、正確な規模は不明であるが、長軸2.1 m、短軸0.7 m以上、深さ0.4 mを測る。底面付近から土師器の坏が2点出土した。他に、土師器の蓋・皿・高坏・甕・把手、須恵器の蓋・甕が出土した。

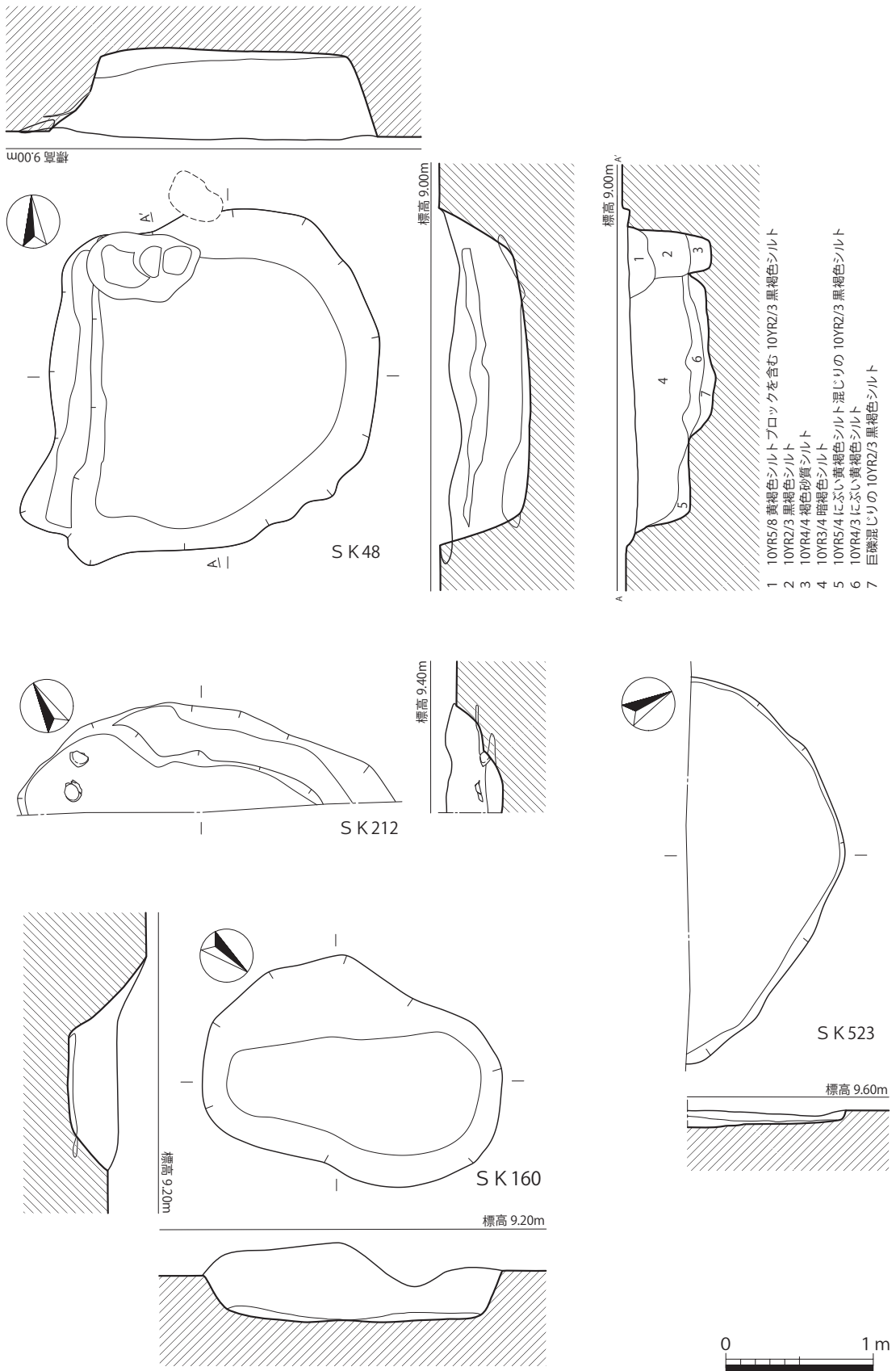
SK 260 (第20図、図版7)

I区中央部で検出した平面形が方形とみられる土坑である。東部は調査区外へ延びるため、正確な規模は不明であるが、長辺4.7 m以上、短辺3.0 m以上、深さ0.3 mを測る。2層から3層にかけて土師器の坏や須恵器の蓋・坏などが投棄されていた。遺物は、土師器の蓋・坏・皿・埴・高坏・鉢・甕・壺・甑・把手、須恵器の蓋・坏・皿・甕・壺、土錘、粘土塊、鉄製鋤先が出土した。

SK 523 (第18図、図版7)

II区中央部で検出した平面形が円形とみられる土坑である。南部は調査区外へ延びるため、正確な規模は不明であるが、長軸2.6 m、短軸1.1 m以上、深さ0.1 mを測る。SK 560・561に後出

Ⅲ. 調査の記録



第 18 図 S K 48・160・212・523 実測図 (1/40)

する。遺物は、土師器の坏・甕・甑、須恵器の坏・甕、粘土塊が出土した。

S K 548 (第 21 図、図版 7)

II 区中央部で検出した平面形が円形の土坑である。長軸 1.1 m、短軸 1.0 m、深さ 0.2 m を測る。S K 563 に後出する。遺物は、土師器の坏・埴・甕、須恵器の甕、鉄釘が出土した。

S K 549 (第 21 図、図版 8)

II 区中央部で検出した平面形が不整形の土坑である。長軸 1.2 m、短軸 0.9 m、深さ 0.6 m を測る。底面の北側と南側に幅 10 ~ 30cm 程の段を有する。遺物は、土師器の坏・埴・甕、須恵器の蓋・甕、粘土塊、刀子が出土した。

S K 560 (第 21 図、図版 8)

II 区中央部で検出した平面形が楕円形の土坑である。長軸 2.1 m、短軸 1.6 m、深さ 0.7 m を測る。南側に 2 段の、北側に 1 段のテラスを有する。S K 523 に先行し、S K 561・562 に後出する。遺物は、土師器の蓋・坏・皿・埴・高坏・甕・把手、須恵器の蓋・坏・甕、粘土塊、刀子が出土した。

S K 561 (第 22 図、図版 8)

II 区中央部で検出した平面形が隅丸長方形の土坑である。長軸 2.2 m、短軸 1.1 m、深さ 0.6 m を測る。S K 523・560 に先行する。遺物は、土師器の蓋・坏・皿・埴・高坏・甕・把手、須恵器の蓋・坏・甕、粘土塊、刀子が出土した。

S K 562 (第 22 図、図版 8)

II 区中央部で検出した平面形が楕円形の土坑である。長軸 2.0 m、短軸 1.3 m、深さ 0.5 m を測る。S K 560 に先行し、S K 761 に後出する。遺物は、土師器の蓋・坏・埴・甕・把手・脚部、須恵器の蓋・坏・甕、粘土塊が出土した。

S K 563 (第 22 図、図版 8)

II 区中央部で検出した平面形が不整形の土坑である。長軸 1.4 m、短軸 1.1 m、深さ 0.2 m を測る。北側に深さ 0.1 m の段を有する。南側の下端に沿って焼土塊を検出し、何らかの物質を焼成したと考えられる。S K 548 に先行する。遺物は、土師器の蓋・坏・甕、須恵器の蓋・坏・甕、粘土塊、炭化物が出土した。

S K 564 (第 22 図、図版 8)

II 区中央部・III 区北部で検出した溝状の土坑である。長さ 4.5 m、幅 1.5 m、深さ 0.3 m を測る。遺物は、土師器の坏・埴・高坏・甕・把手、須恵器の蓋・坏・甕・壺、粘土塊が出土した。

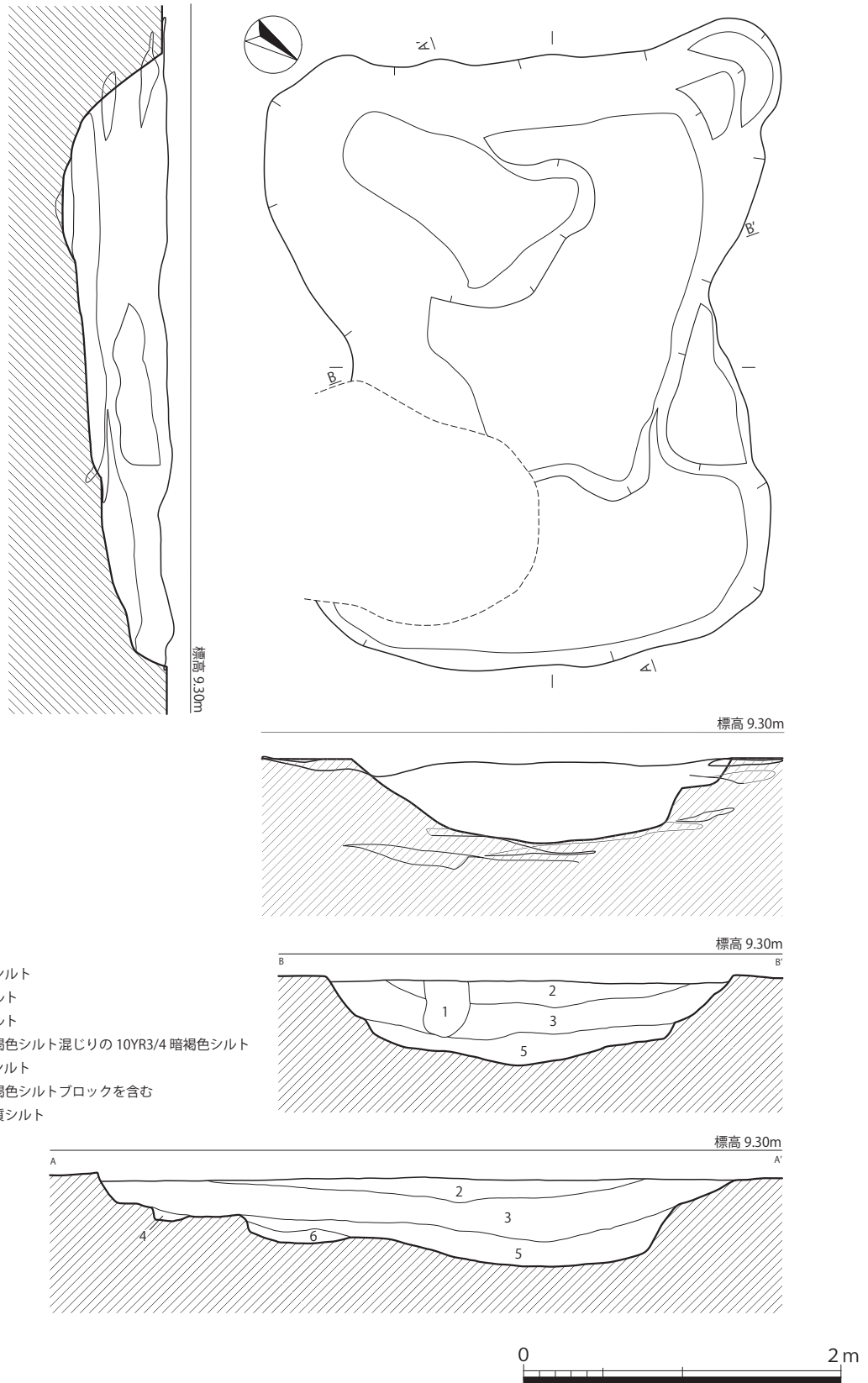
S K 761 (第 22 図、図版 8)

II 区中央部で検出した平面形が隅丸長方形の土坑である。長軸 1.1 m、短軸 0.7 m、深さ 0.3 m を測る。S K 562 に先行する。遺物は、土師器の坏・高坏・甕、粘土塊が出土した。

S K 833 (第 23 図、図版 9)

III 区東部で検出した平面形が隅丸長方形の土坑である。長軸 1.1 m、短軸 0.7 m、深さ 0.6 m を測る。遺物は出土していないが、平面形と埋土が暗褐色を呈することから落とし穴状遺構と判断した。

Ⅲ. 調査の記録



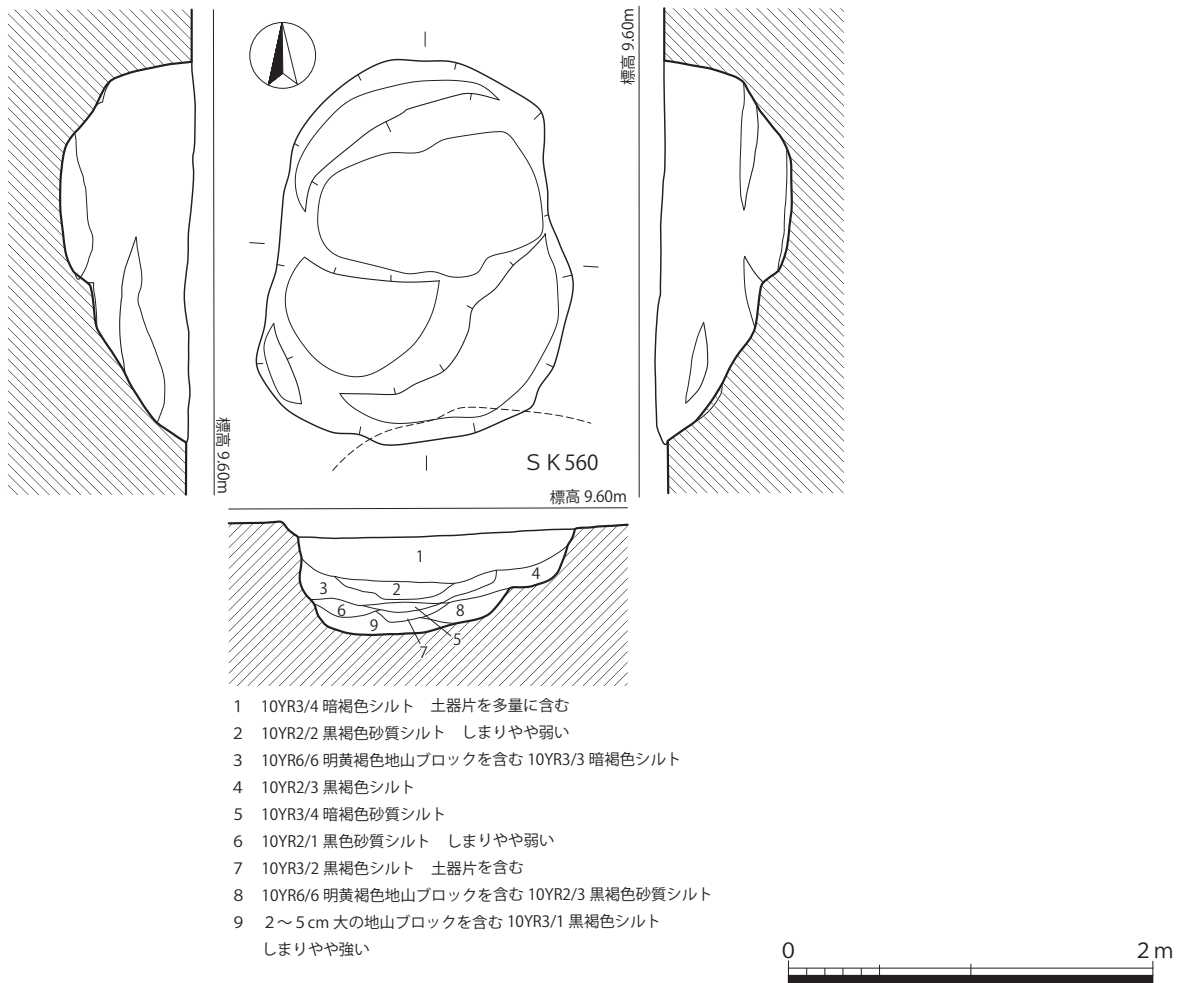
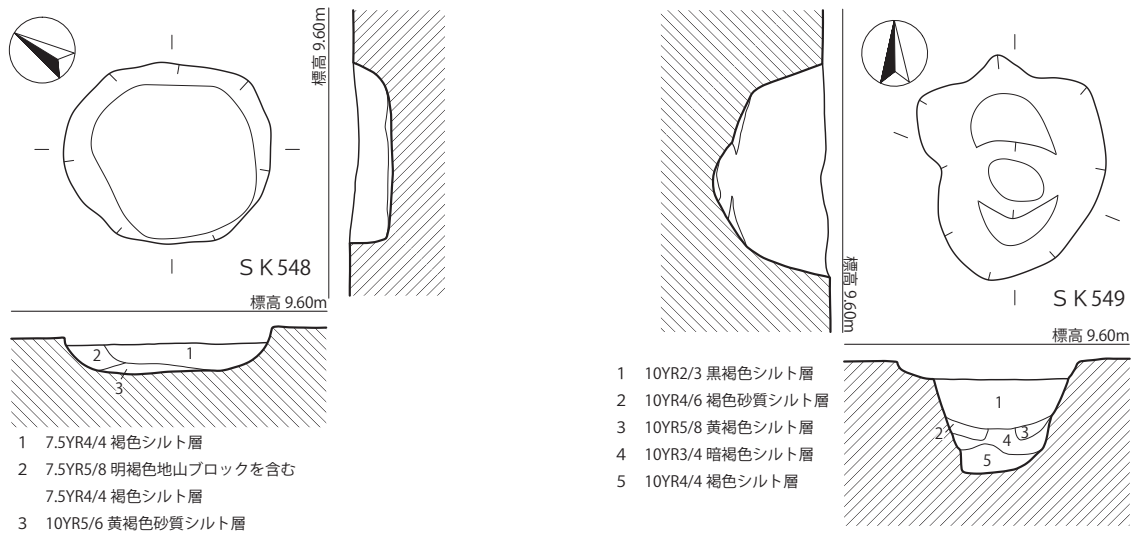
- 1 10YR4/4 褐色砂質シルト
- 2 10YR2/3 黒褐色シルト
- 3 10YR3/4 暗褐色シルト
- 4 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト混じりの 10YR3/4 暗褐色シルト
- 5 10YR4/2 灰黄褐色シルト
- 6 10YR5/4 にぶい黄褐色シルトブロックを含む
10YR3/4 暗褐色砂質シルト

第 19 図 S K 145 実測図 (1/40)

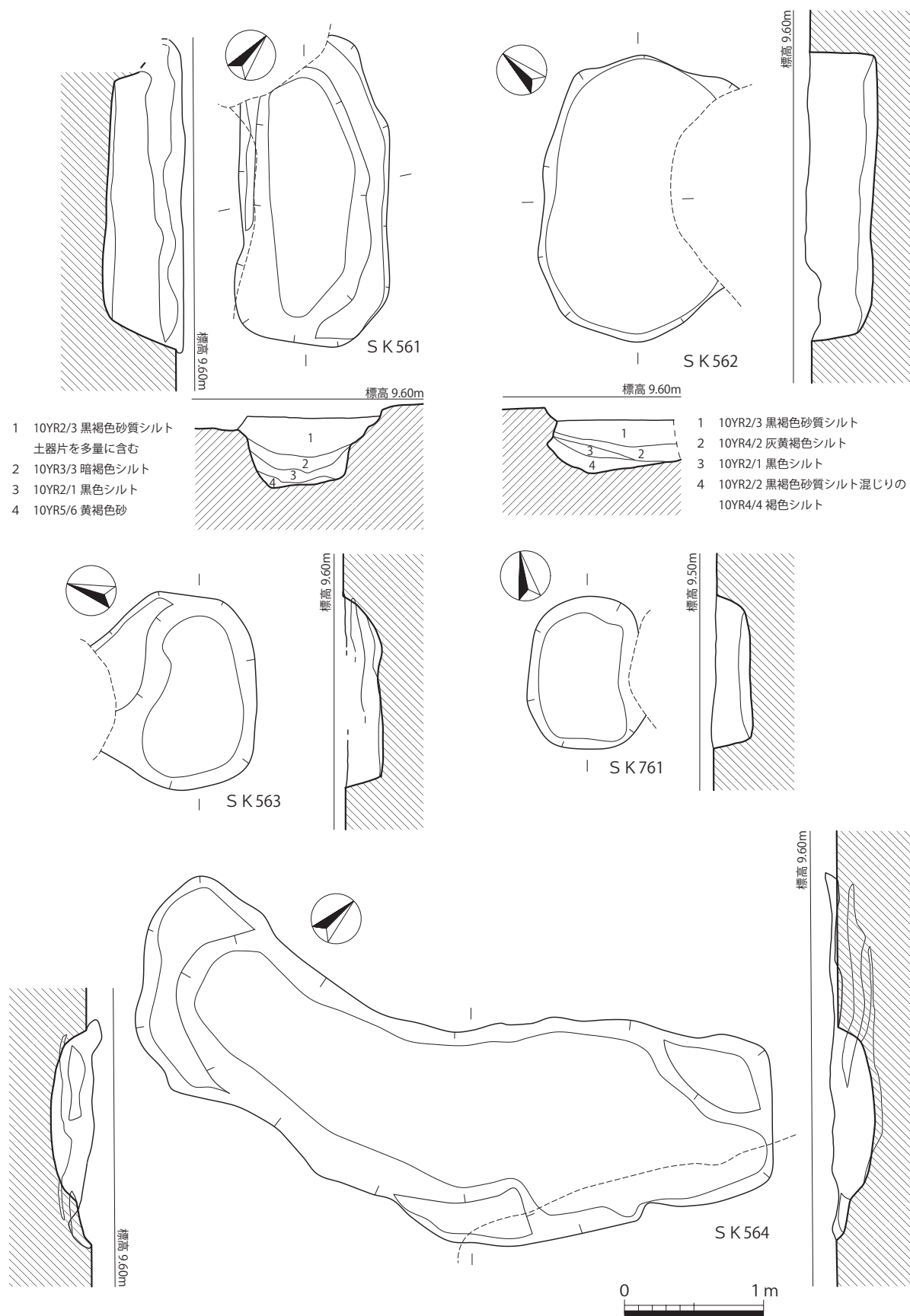


第 20 図 S K 260 実測図 (1/40)

Ⅲ. 調査の記録

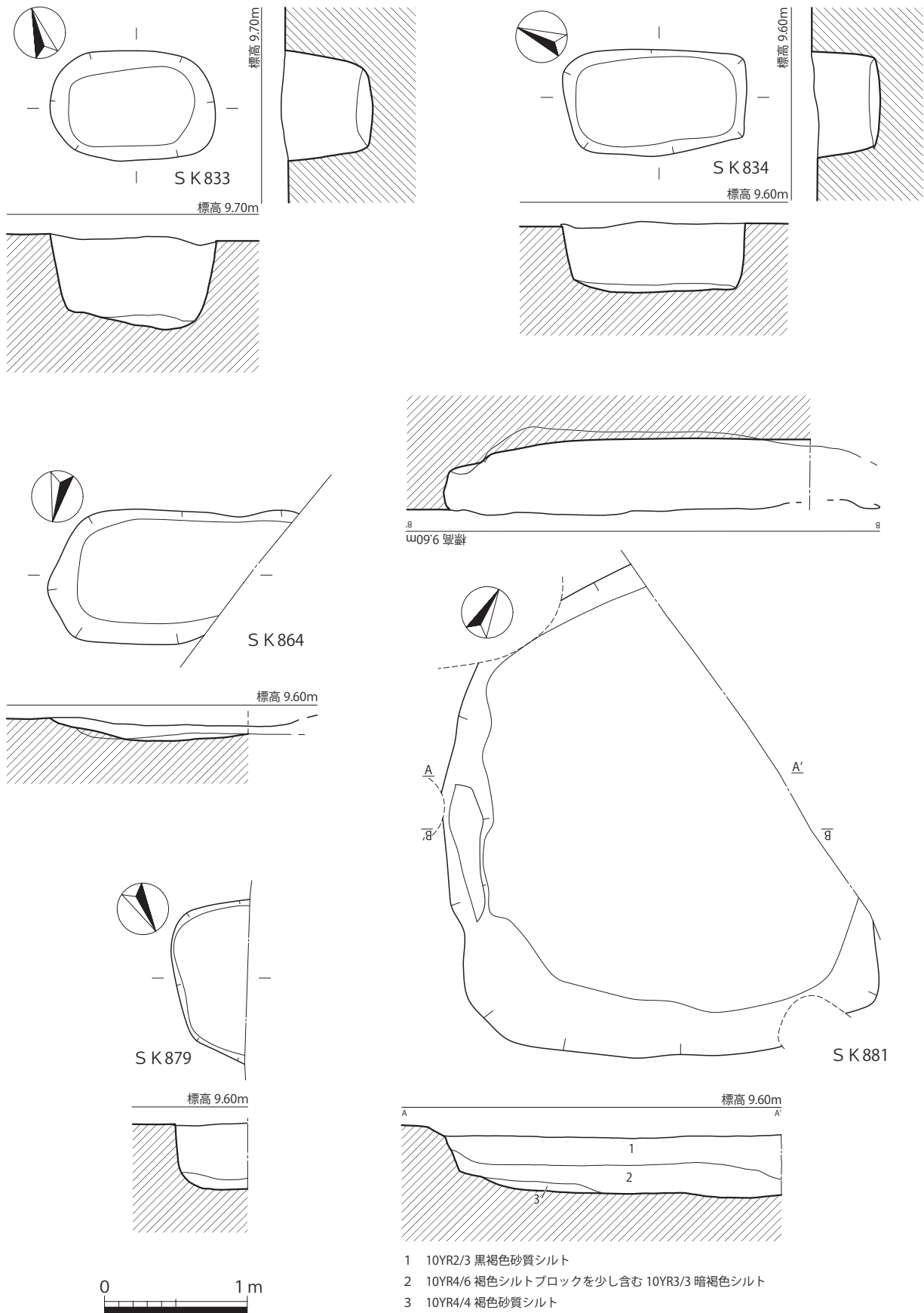


第 21 図 S K 548・549・560 実測図 (1/40)

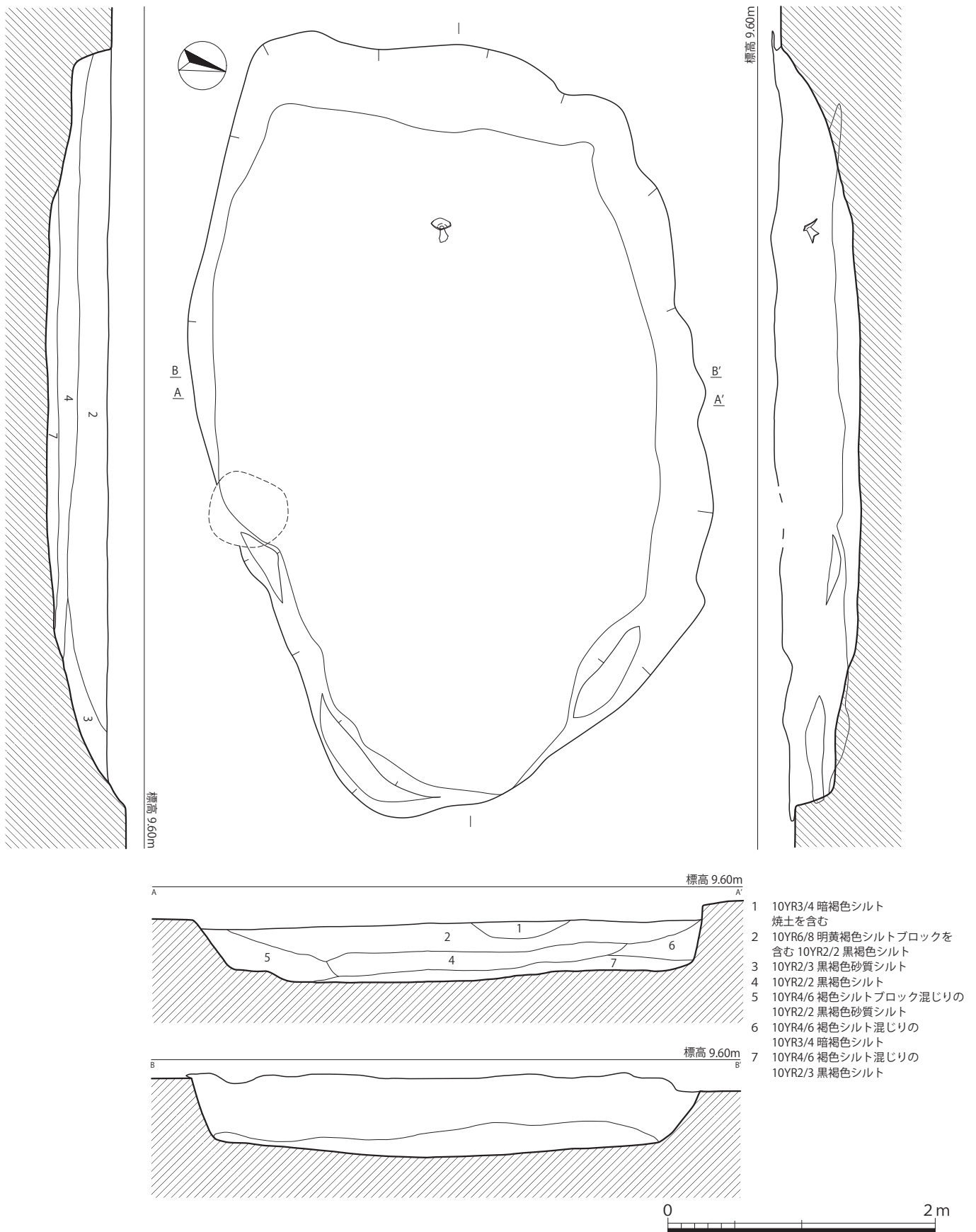


第 22 図 S K 561・562・563・564・761 実測図 (1/40)

Ⅲ. 調査の記録

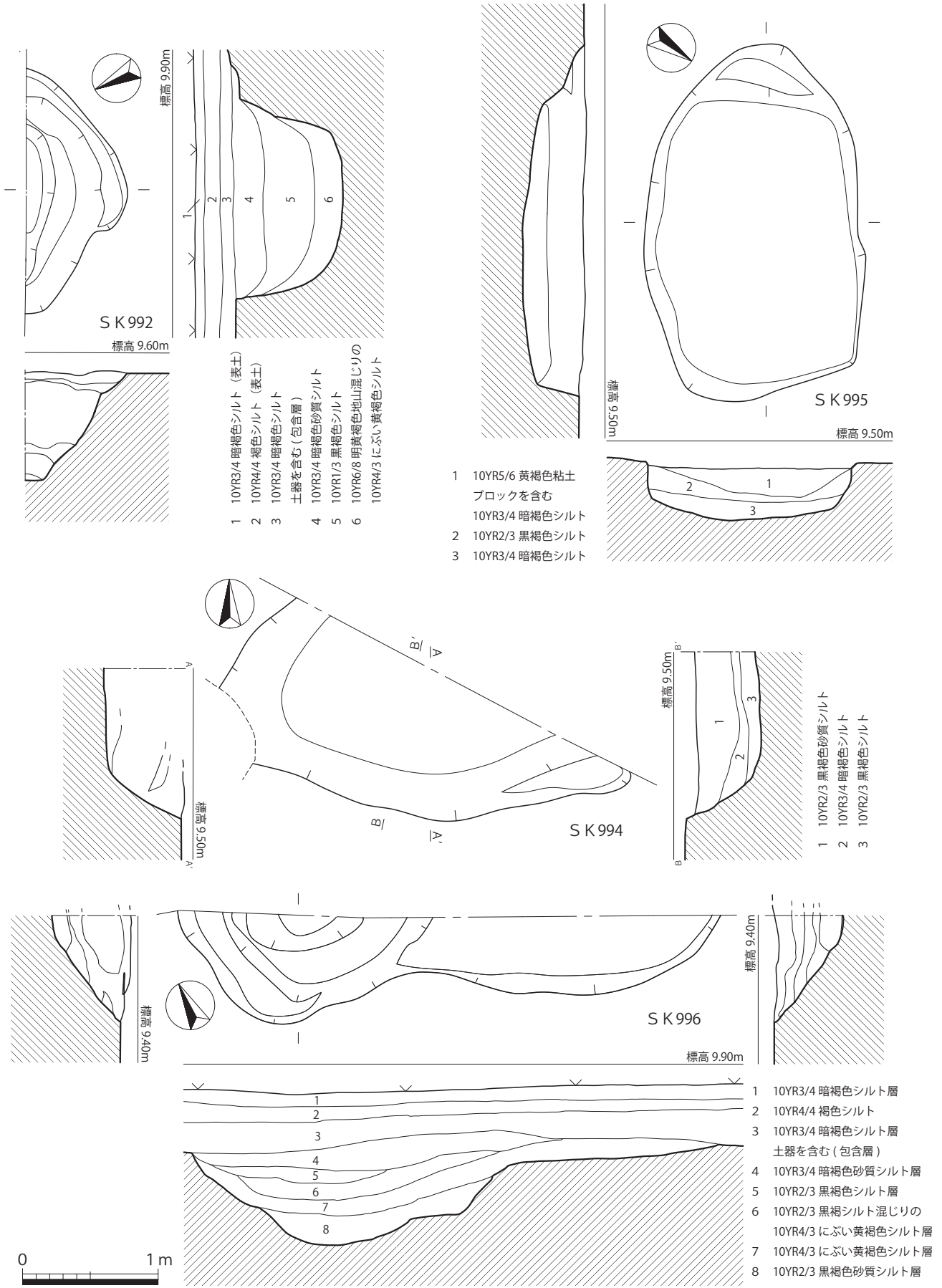


第 23 図 S K 833・834・864・879・881 実測図 (1/40)

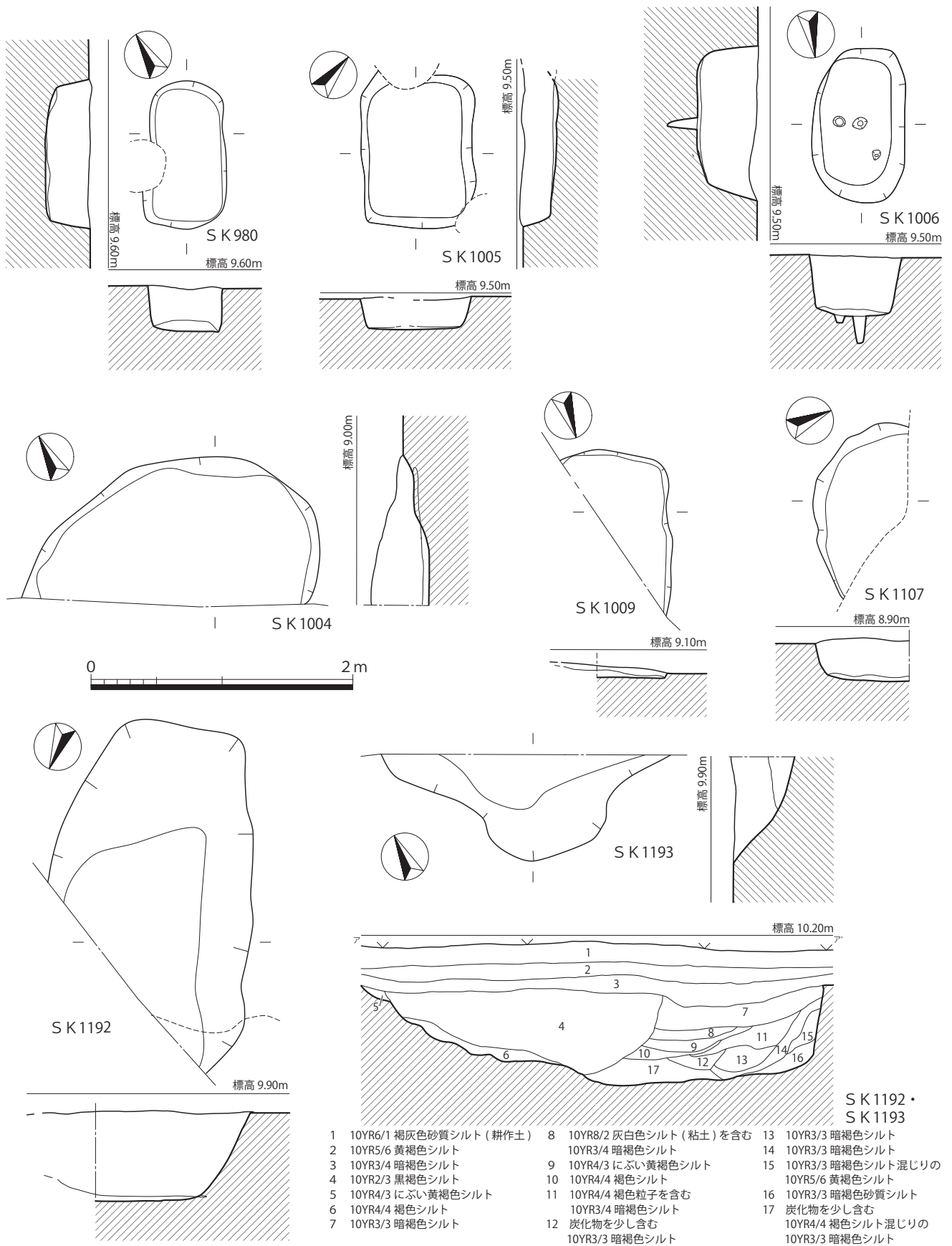


第 24 図 S K 882 実測図 (1/40)

III. 調査の記録

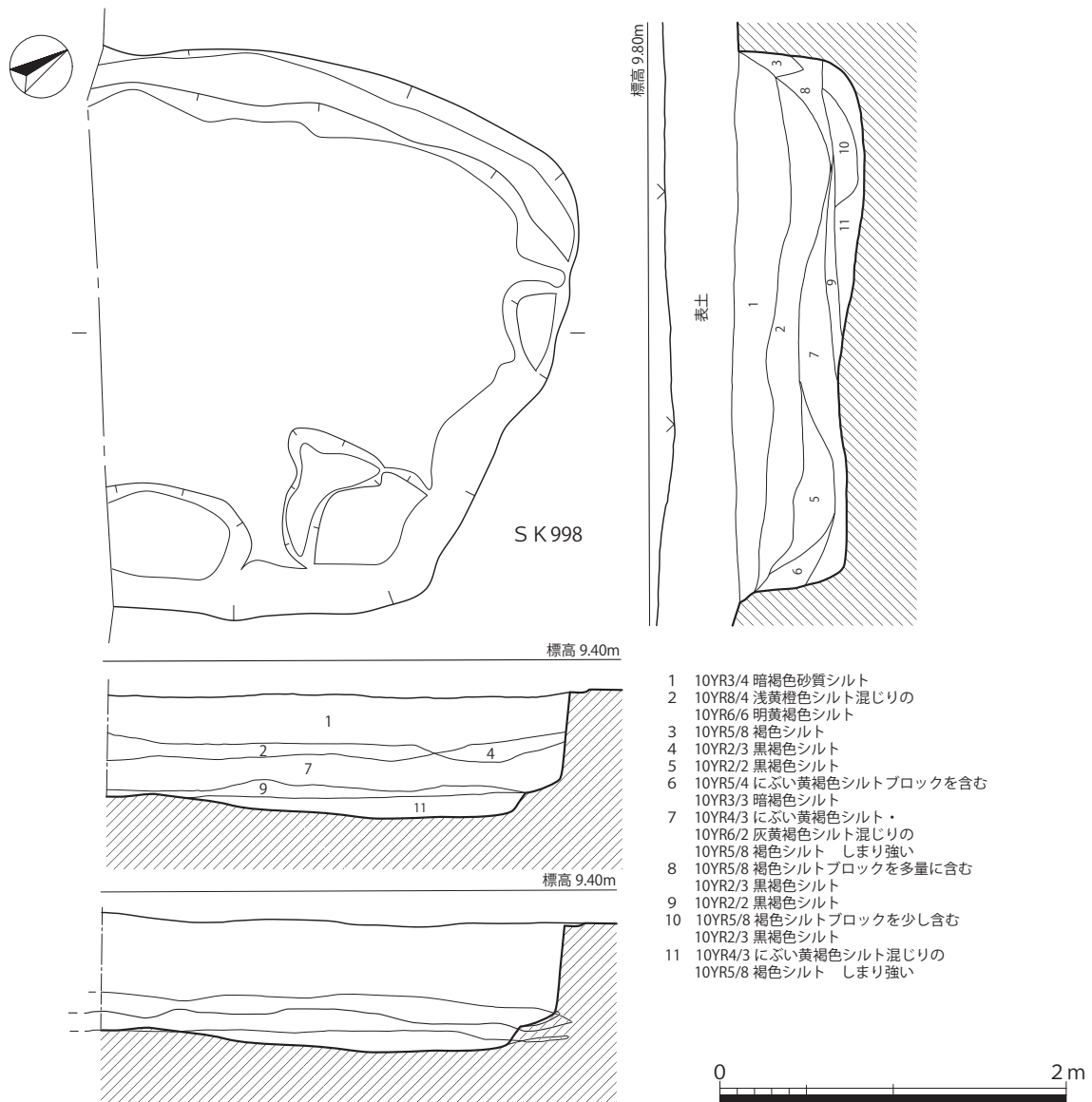


第 25 図 S K 992・994・995・996 実測図 (1/40)



第 26 図 S K 980・1004・1005・1006・1009・1107・1192・1193 実測図 (1/40)

Ⅲ. 調査の記録



第 27 図 S K 998 実測図 (1/40)

S K 834 (第 23 図、図版 9)

Ⅲ区東部で検出した平面形が長方形の土坑である。長軸 1.3 m、短軸 0.7 m、深さ 0.5 m を測る。遺物は出土していないが、平面形と埋土がにぶい黄褐色を呈することから落とし穴状遺構と判断した。

S K 864 (第 23 図)

Ⅲ区東部で検出した平面形が長方形の土坑である。西部が調査区外へ延びるため、正確な規模は不明であるが、長軸 1.4 m 以上、短軸 0.9 m、深さ 0.1 m を測る。遺物は、土師器の蓋・坏・甕、粘土塊が出土した。

S K 879 (第 23 図)

Ⅲ区東部で検出した平面形が方形の土坑とみられる。西部が調査区外へ延びるため、正確な規模は不明であるが、長軸 1.1 m、短軸 0.5 m 以上、深さ 0.4 m を測る。遺物は、土師器の坏・甕が出土した。

S K 881 (第 23 図、図版 9)

Ⅲ区東部で検出した平面形が不整形の土坑とみられる。北部が調査区外へ延びるため、正確な規模は不明であるが、長軸 3.4 m、短軸 2.9 m、深さ 0.5 mを測る。S B 986・S K 882 に先行する。遺物は、土師器の蓋・坏・皿・埴・高坏・甕・壺・脚部・把手、須恵器の蓋・坏・甕・壺、土錘、粘土塊が出土した。

S K 882 (第 24 図、図版 9)

Ⅲ区東部で検出した平面形が不整形の土坑である。長軸 5.7 m、短軸 3.8 m、深さ 0.6 mを測る。平面の規模は、今回の調査で検出した土坑の中で最も大きい。S B 986 に先行し、S K 881 に後出する。遺物は、土師器の蓋・坏・皿・埴・高坏・鉢・甕・壺・把手、須恵器の蓋・坏・甕・壺、土錘、粘土塊、石鏃、鉄滓が出土した。

S K 980 (第 26 図、図版 9)

Ⅲ区東部で検出した平面形が隅丸長方形の土坑である。長軸 1.1 m、短軸 0.5 m、深さ 0.3 mを測る。S B 836 に先行する。遺物は出土していないが、平面形と埋土が暗褐色を呈することから落とし穴状遺構と判断した。

S K 992 (第 25 図、図版 10)

Ⅲ区東部で検出した平面形が円形の土坑とみられる。北部は調査区外へ延びるため、正確な規模は不明であるが、長軸 1.8 m、短軸 0.7 m以上、深さ 0.8 mを測る。2段のテラスを有し、1段目は 0.2 m、そこから2段目までは 0.6 mあり、播鉢状の断面を呈する。遺物は、土師器の蓋・坏・皿・埴・高坏・甕・把手・脚部、須恵器の蓋・坏・甕、土錘、粘土塊、鉄滓が出土した。

S K 994 (第 25 図、図版 10)

Ⅲ区東部で検出した平面形が楕円形の土坑とみられる。西端部を S K 995 に切られ、北東部は調査区外へ延びるため、正確な規模は不明であるが、長軸 2.8 m、短軸 1.1 m以上、深さ 0.5 mを測る。S K 995 に先行する。遺物は、土師器の坏・皿・埴・高坏・鉢・甕・把手・脚部、須恵器の蓋・坏・高坏・甕、土錘、粘土塊が出土した。

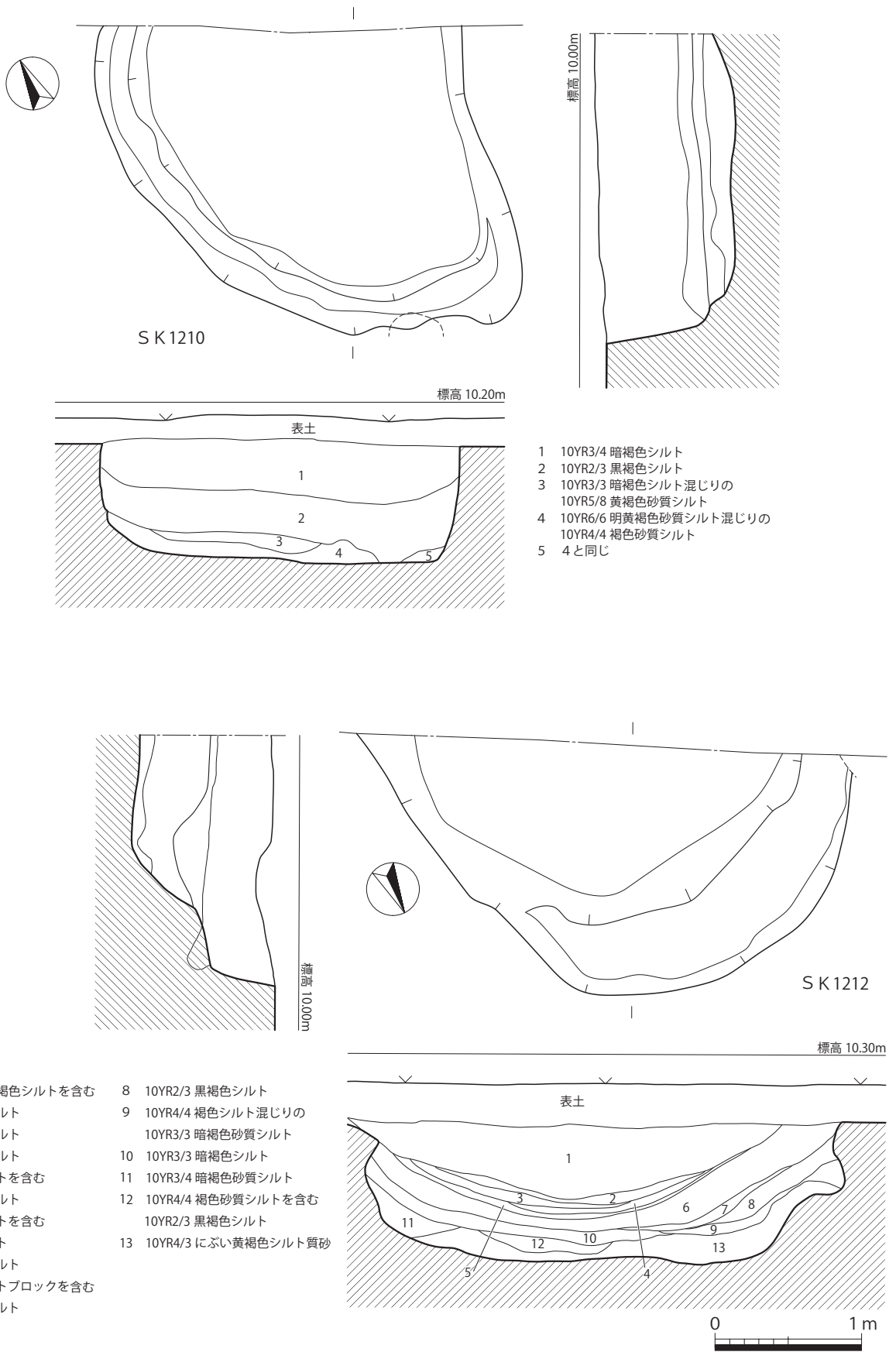
S K 995 (第 25 図、図版 10)

Ⅲ区東部で検出した平面形が楕円形の土坑である。長軸 2.6 m、短軸 1.6 m、深さ 0.4 mを測る。西部に段を有する。S K 994 に後出する。遺物は、土師器の坏・埴・高坏・甕・把手、須恵器の蓋・坏・甕、粘土塊が出土した。

S K 996 (第 25 図)

Ⅲ区東部で検出した平面形が不整形の土坑とみられる。北部は調査区外へ延びるため、正確な規模は不明であるが、長軸 4.0 m、短軸 0.8 m以上、深さ 0.6 mを測る。東側にテラスを有し、西側へ向かって緩やかに傾斜する。遺構検出時、西側の円形部分と東側の楕円形部分で切り合い関係があると考えていたが、北壁土層の観察の結果、1つの遺構であると推定した。遺物は、土師器の蓋・坏・埴・高坏・甕・把手、須恵器の蓋・坏・甕、粘土塊が出土した。

III. 調査の記録



第 28 図 S K 1210・1212 実測図 (1/40)

S K 998 (第 27 図、図版 10)

Ⅲ区東部で検出した平面形が方形の土坑とみられる。南部は調査区外へ延びるため、正確な規模は不明であるが、長軸 3.2 m 以上、短軸 2.6 m、深さ 0.7 m を測る。2・7・11 層は地山の色調に近く、しまりが強いいため、何らかの理由で地山を掘削した土で埋め立てたと推測した。しかし、遺構の性格については分からなかった。遺物は、土師器の蓋・坏・皿・埴・高坏・甕、須恵器の蓋・坏・皿・高坏・甕、粘土塊が出土した。

S K 1004 (第 26 図)

Ⅲ区西部で検出した平面形が円形の土坑とみられる。南部が調査区外へ延びるため、正確な規模は不明であるが、長軸 2.2 m、短軸 1.1 m 以上、深さ 0.4 m を測る。遺物は、土師器の蓋・坏・皿・埴・高坏・甕・脚部、須恵器の蓋・皿・甕が出土した。

S K 1005 (第 26 図、図版 11)

Ⅲ区東部で検出した平面形が方形の土坑である。長軸 1.1 m、短軸 0.8 m、深さ 0.2 m を測る。S B 986 に先行する。遺物は出土していないが、平面形から落とし穴状遺構と判断した。

S K 1006 (第 26 図、図版 11)

Ⅲ区南東部で検出した平面形が隅丸長方形の土坑である。長軸 1.2 m、短軸 0.7 m、深さ 0.5 m を測る。遺構の底面に 3 基のピットを検出し、直径 8～12cm、深さ 6～20cm を測る。S B 836 に先行する。遺物は土師器の坏が出土したが、後出する S B 836 からの混入とみられる。平面形から落とし穴状遺構と判断した。

S K 1009 (第 26 図、図版 11)

Ⅳ区西部で検出した平面形が方形の土坑とみられる。北部が調査区外へ延びるため、正確な規模は不明であるが、長軸 1.2 m 以上、短軸 0.5 m 以上、深さ 0.1 m を測る。遺物は、土師器の蓋・坏・埴・高坏・甕・脚部、須恵器の坏・高坏・甕は出土した。特に、須恵器の甕胴部片は遺構の残存状況が劣悪にも関わらず、大振りな破片が目立った。

S K 1107 (第 26 図)

Ⅳ区西部で検出した平面形が楕円形の土坑とみられる。南東部が攪乱によって破壊されているため正確な規模は不明であるが、長軸 1.2 m 以上、短軸 0.7 m 以上、深さ 0.3 m を測る。遺物は、土師器の坏・埴・鉢・甕、須恵器の蓋・埴・甕が出土した。

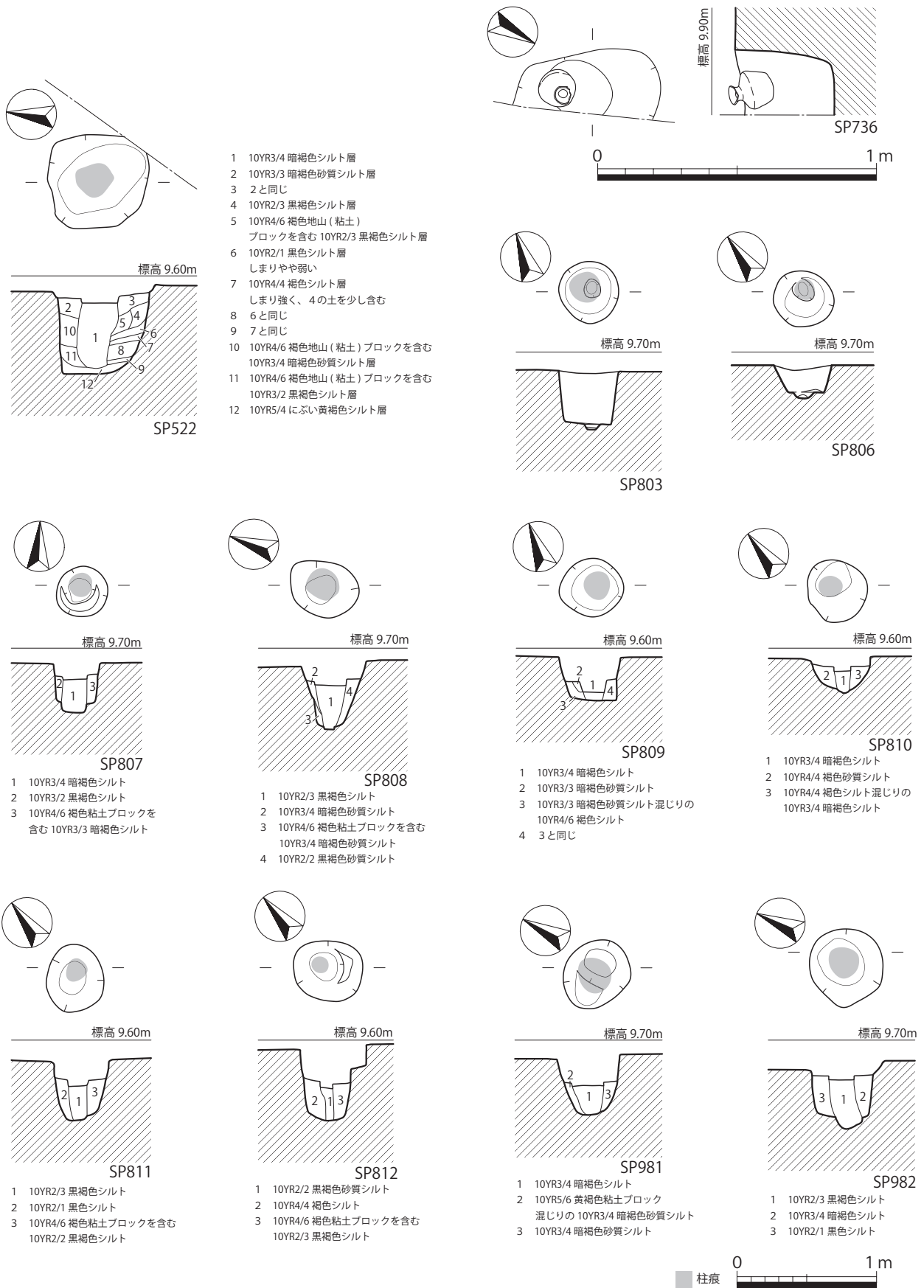
S K 1192 (第 26 図、図版 11)

V区中央部で検出した平面形が長方形の土坑とみられる。北部が調査区外へ延びるため、正確な規模は不明であるが、長軸 2.6 m、短軸 1.5 m 以上、深さ 0.7 m を測る。S K 1193 に先行する。遺物は、土師器の蓋・坏・皿・埴・甕・把手・脚部、須恵器の蓋・坏・甕、鉄釘、鉄鎌、不明鉄製品、鉄滓が出土した。

S K 1193 (第 26 図、図版 11)

V区中央部で検出した平面形が不整形の土坑とみられる。北部が調査区外へ延びるため、正確な

Ⅲ. 調査の記録



第 29 図 S P 522・736・803・806～812・981・982 実測図 (1/40、S P 736 は 1/20)

規模は不明であるが、長軸 2.2 m、短軸 0.8 m 以上、深さ 0.5 m を測る。重複関係から S K 1192 に後出する。遺物は、土師器の蓋・坏・甕・把手・脚部、須恵器の蓋・坏・甕、粘土塊が出土した。

S K 1210 (第 28 図、図版 11)

V 区西部で検出した平面形が不整形の土坑とみられる。北部が調査区外へ延びるため、正確な規模は不明であるが、長軸 2.5 m 以上、短軸 2.2 m、深さ 0.9 m を測る。西部から南部にかけて深さ 0.7 m のところで段を有する。遺物は、土師器の坏・皿・埴・高坏・甕・甑・把手・脚部、須恵器の蓋・坏・甕、粘土塊、石製紡錘車、鉄釘、不明鉄製品、鉄滓が出土した。

S K 1212 (第 28 図、図版 12)

V 区西部で検出した平面形が楕円形の土坑とみられる。南部が調査区外へ延びるため、正確な規模は不明であるが、長軸 3.4 m、短軸 1.7 m 以上、深さ 0.9 m を測る。北部に深さ 0.3 m のところで段を有する。遺物は、須恵器の蓋・坏・皿・埴・高坏・甕・把手・脚部・カマド、須恵器の蓋・坏・甕、土錘、粘土塊、鉄滓が出土した。

ピット

S P 522 (第 29 図、図版 12)

II 区中央で検出したピットであり、掘立柱建物を構成する柱穴の一つと考えられる。今回の調査では、同じ建物を構成するピットは確認されていない。平面形は隅丸方形で、一辺 0.7 m、深さ 0.6 m を測る。柱痕の直径は 20cm である。遺物は、柱痕から土師器の坏・皿・甕、掘方から土師器の坏・甕が出土した。

S P 736 (第 29 図、図版 12)

II 区西部で検出したピットである。平面形は楕円形を呈する。長軸 0.5 m、短軸 0.2 m、深さ 0.4 m を測る。ほぼ完形の須恵器の壺が出土した。遺物は他に土師器の甕が出土した。

S P 803 (第 29 図、図版 12)

III 区東部で検出したピットである。平面形は円形を呈し、直径 0.4 m、深さ 0.4 m を測る。柱痕の直径は 20cm である。遺物は、柱痕から土師器の甕、掘方から土師器の坏・甕が出土した。

S P 806 (第 29 図、図版 12)

III 区東部で検出したピットである。平面形は円形を呈し、直径 0.4 m、深さ 0.2 m を測る。柱痕の直径は 10cm である。遺物は、掘方から土師器の坏・甕が出土した。

S P 807 (第 29 図、図版 12)

III 区東部で検出したピットである。平面形は円形を呈し、直径 0.4 m、深さ 0.3 m を測る。柱痕の直径は 20cm である。遺物は出土していない。

S P 808 (第 29 図、図版 12)

III 区東部で検出したピットである。平面形は楕円形を呈し、直径 0.5 m、深さ 0.5 m を測る。柱痕の直径は 20cm である。遺物は、土師器の坏・甕が出土した。

Ⅲ. 調査の記録

S P 809 (第 29 図、図版 12)

Ⅲ区東部で検出したピットである。平面形は円形を呈し、直径 0.4 m、深さ 0.3 m を測る。柱痕の直径は 20cm である。遺物は出土していない。

S P 810 (第 29 図、図版 12)

Ⅲ区東部で検出したピットである。平面形は円形を呈し、直径 0.5 m、深さ 0.2 m を測る。柱痕の直径は 20cm である。遺物は出土していない。

S P 811 (第 29 図、図版 12)

Ⅲ区東部で検出したピットである。平面形は円形を呈し、直径は 0.5 m、深さ 0.4 m を測る。柱痕の直径は 20cm である。遺物は、柱痕から土師器の坏・甕、掘方から須恵器の蓋が出土した。

S P 812 (第 29 図、図版 12)

Ⅲ区東部で検出したピットである。平面形は円形を呈し、直径は 0.5 m、深さ 0.5 m を測る。柱痕の直径は 20cm である。遺物は、土師器の蓋・甕が出土した。

S P 981 (第 29 図、図版 12)

Ⅲ区東部で検出したピットである。平面形は円形を呈し、直径 0.5 m、深さ 0.4 m を測る。柱痕の直径は 20cm である。遺物は、柱痕から土師器の坏・甕、須恵器の蓋・坏、粘土塊、掘方から土師器の蓋・坏・埴・甕、須恵器の蓋・坏、粘土塊が出土した。

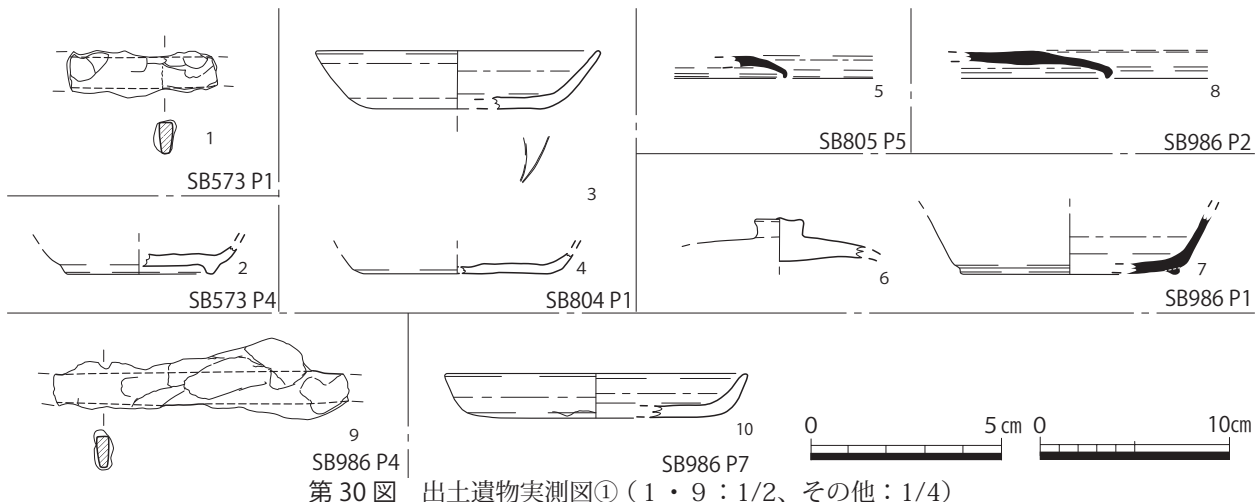
S P 982 (第 29 図、図版 12)

Ⅲ区東部で検出したピットである。平面形は円形を呈し、直径 0.5 m、深さ 0.5 m を測る。柱痕の直径は 20cm である。遺物は、柱痕から土師器の甕、須恵器の蓋、掘方から土師器の甕が出土した。

2. 出土遺物 (第 30 ~ 44 図、図版 13 ~ 35)

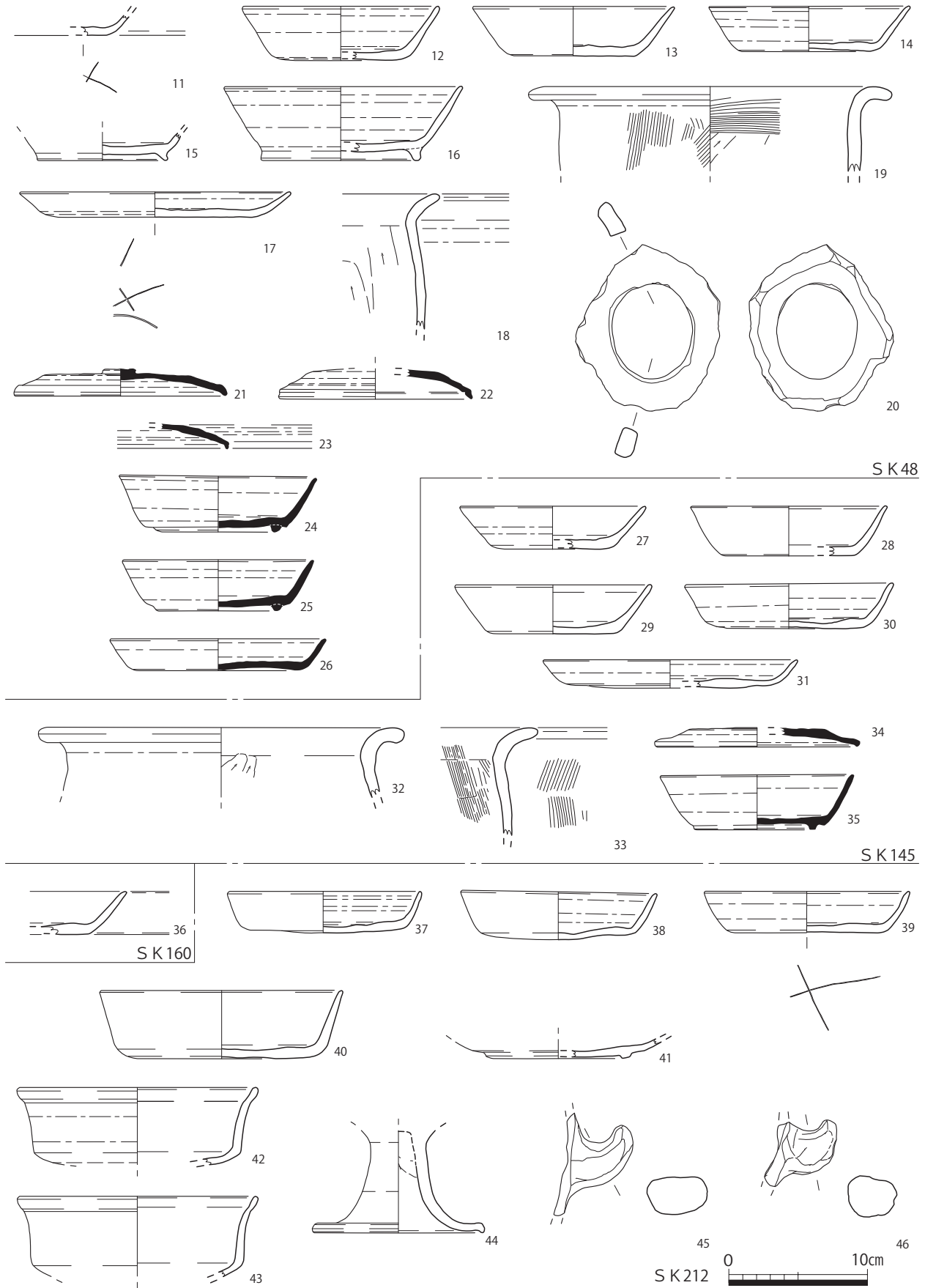
パンコンテナー 29 箱分の遺物が出土した。主に S K 260・882 などの土坑からの出土遺物が多い。以下、個々の遺物について述べるが、詳細については出土遺物観察表を参照されたい。

1 は S B 573 P 1 掘方から出土した刀子である。2 は S B 573 P 4 から出土した土師器の坏である。高台は逆台形を呈し、摩滅のため体部との境は不明瞭である。3・4 は S B 804 P 1 掘方から出土した土師器の坏で、3 は底部にヘラ記号を有する。3・4 共に底部と体部の境を面取りし



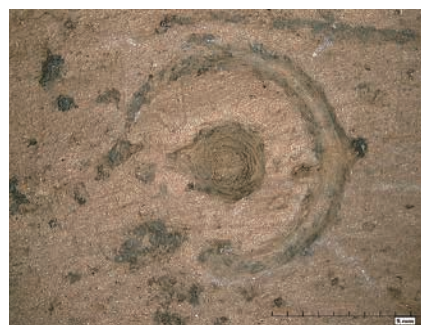
ている。5はS B 805 P 5から出土した須恵器の蓋で、口縁は短く直線的に立ち上がる。6・7はS B 986 P 1から出土した。6は土師器の蓋、7は須恵器の坏で、高台の端部は丸みがありやや外反する。8はS B 986 P 2掘方出土の須恵器の蓋で、口縁断面は三角形を呈する。9はS B 986 P 4出土の刀子である。10はS B 986 P 7掘方出土の土師器の皿で、体部下半から底部にかけ、手持ちヘラケズリ後にナデて調整する。11～26はS K 48から出土した。16の土師器の坏の高台は貼付しており、体部との境にナデがみられる。20は土師器の不明製品である。胎土は精良で、ケズリ後丹念にナデている。中央に6.4cm程の楕円形の穴があり、その周辺にも5ヶ所の穴とみられる部分があるため、甑底部の可能性もある。21～23は須恵器の蓋である。24・25は須恵器の坏で、高台断面は丸みを帯びた台形である。27～35はS K 145から出土した。27～30は土師器の坏で、27はヘラ切り後ナデて仕上げるが、28～30はヘラ切りのみである。30は底部と体部の境を面取りしている。34は須恵器の蓋で、退化した嘴状口縁である。36はS K 160から出土した土師器の坏。37～46はS K 212から出土した。37～40は土師器の坏で、40はやや大型である。41は土師器の皿で、削り出し高台を有する。42・43は大きさから土師器の鉢と考えたが、他の器種である可能性もある。口縁端部はやや外反し、体部はほぼ直立して底部に至る。残存している底部は丸みを帯びており、平底ではない。42・43は同一個体である可能性がある。47～117はS K 260から出土した。47～49は土師器の蓋で、49の外面には格子状のヘラ記号がみられる。50～75は土師器の坏である。61・63・66・67・70・71は底部と体部の境を面取りしている。65～72はヘラ記号を有する。69・70のヘラ書きは文字のようにも見えるが、判読できなかった。底部は、ヘラ切り後ナデ(50・55・57・62)、ヘラ切り(51～52・54・59・65)、ヘラ切り後回転ヘラケズリ(53・56・58・60～61・63～64・66～72)といくつかの種類がある。なお、65の底部の調整は摩滅のため判別不能である。74・75は削り出し高台である。76～80は土師器の皿で、80の底部にヘラ記号がみられる。81は土師器の高坏で、口縁は大きく開く。82は土師器の壺、83～87・89は土師器の甕で、87は口縁を波状に成形しているようにみられる。また、内面の胎土欠損部分に継ぎ足した窪みがみられる。88は把手付甕である。90～94は須恵器の蓋である。90・92は口縁部と体部の境が明瞭である。91の口縁端部は短くほぼ直角に立ち上がる。95～103は須恵器の坏である。95～99・103の高台断面はコの字形で、95は丸みを帯びるが、96～99はやや外反する。100～102の高台はやや細い。104～106は須恵器の皿で、104の底部に歪みがみられる。107～115は土錘であり、いずれもナデて仕上げる。116は刀子、117は鋤先である。耳部から刃部にかけて直線的であり、丸みをほとんど帯びていない。118はS K 523から出土した土師器の塊で、接合時のナデのためか、高台上部の側面はやや窪んでいる。119・120はS K 548から出土した鉄釘である。121・122はS K 549から出土した。121は土師器の坏、122は刀子。123～129はS K 560から出土した。123～126は土師器の坏である。123は底部をヘラ切り後回転ヘラケズリで仕上げる。124～126は体部下半を手持ちヘラケズリを施し、その後ナデて仕上げる。127は高坏の脚部。128は嘴状口縁を有する須恵器の

Ⅲ. 調査の記録



第 31 図 出土遺物実測図② (1/4)

蓋。129は刀子。130～140はS K 561から出土した。130は土師器の蓋で、口縁端部を折り返さない。131～133は土師器の坏。133は体部と底部の境を面取りしている。134～136は土師器の皿。134・135の底部はやや丸みを帯びている。136は口縁端部がやや外反する。137は土師器の鉢。138・139は須恵器の坏。140は刀子で、一部木質が残る。141～143はS K 562から出土した。143は土師器鍋の脚部である。外面に被熱痕跡が残る。144・145はS K 563から出土した須恵器の坏である。144は体部と底部の境が丸みを帯びる。145は高台が底部端に位置する。146・147はS K 564から出土した土師器の坏である。146は体部と底部の境を面取りしている。148はS K 864出土の土師器の坏である。体部と底部の境に回転ヘラケズリを施し、面取りしている。149～164はS K 881から出土した。149～154は土師器の坏である。149は内外面に煤とみられる黒色物質が付着している。150はヘラ切り後回転ヘラケズリで仕上げる。151～154は底部に二重丸のようにも見える直径7mmの印（以下「●印」と記載する）がある。この●印を顕微鏡で拡大し観察したところ、回転状の擦過痕がみられたため、鼠歯錐状の回転工具で施したと推測される。151・152・154はヘラ切り後回転ヘラケズリを施し、●印を施文する。153は板状圧痕の上に●印がある。155・156は土師器鍋の脚部で、脚部内側は指オサエを連続して行っている。157～160は須恵器の蓋で、160の内面にヘラ記号がみられる。161・162は須恵器の坏である。163は須恵器の長頸壺で、頸部中位に2条の浅い沈線を巡らす。164は土錘。165～212はS K 882から出土した。165は土師器の蓋。166～185は土師器の坏。166は底部と体部の境を面取りしている。166～168・176・185は底部がやや丸みを帯びている。169は外面を回転ナデで仕上げるが、ナデが深く、単位が明瞭である。171・184は体部下半から底部にかけて手持ちヘラケズリで仕上げる。173～178・182・183は底部をヘラ切り後回転ヘラケズリを施す。180～181の底部はヘラ切である。176～183の底部には●印が残る。186～191は土師器の皿であり、ヘラ切り後回転ヘラケズリで仕上げる。188～190の底部には●印が残る。192・193は高坏であり、これらは同一個体である可能性がある。外面は回転ヘラケズリ後ナデている。その後、ヘラ記号を刻み、その上に●印を施す。194・195は土師器の鉢、196は土師器の甕である。196は外面をハケ目、内面を概ね下から上方向のケズリで仕上げる。197～199は須恵器の蓋。197・198は嘴状口縁である。199は口縁端部を短く折り返す。200・201は須恵器の坏。200は高台を持たない。201はコの字形の高台を有す。202～204は須恵器の高坏である。205は須恵器の長頸壺で、胴部の上位で屈曲し、その稜は明瞭である。高台断面は三角形をなし、やや外に踏ん張る。また、高台端部の外面は打ち欠かされている。206・207は土錘。208～210は刀子。211は鉄滓で鉄分が

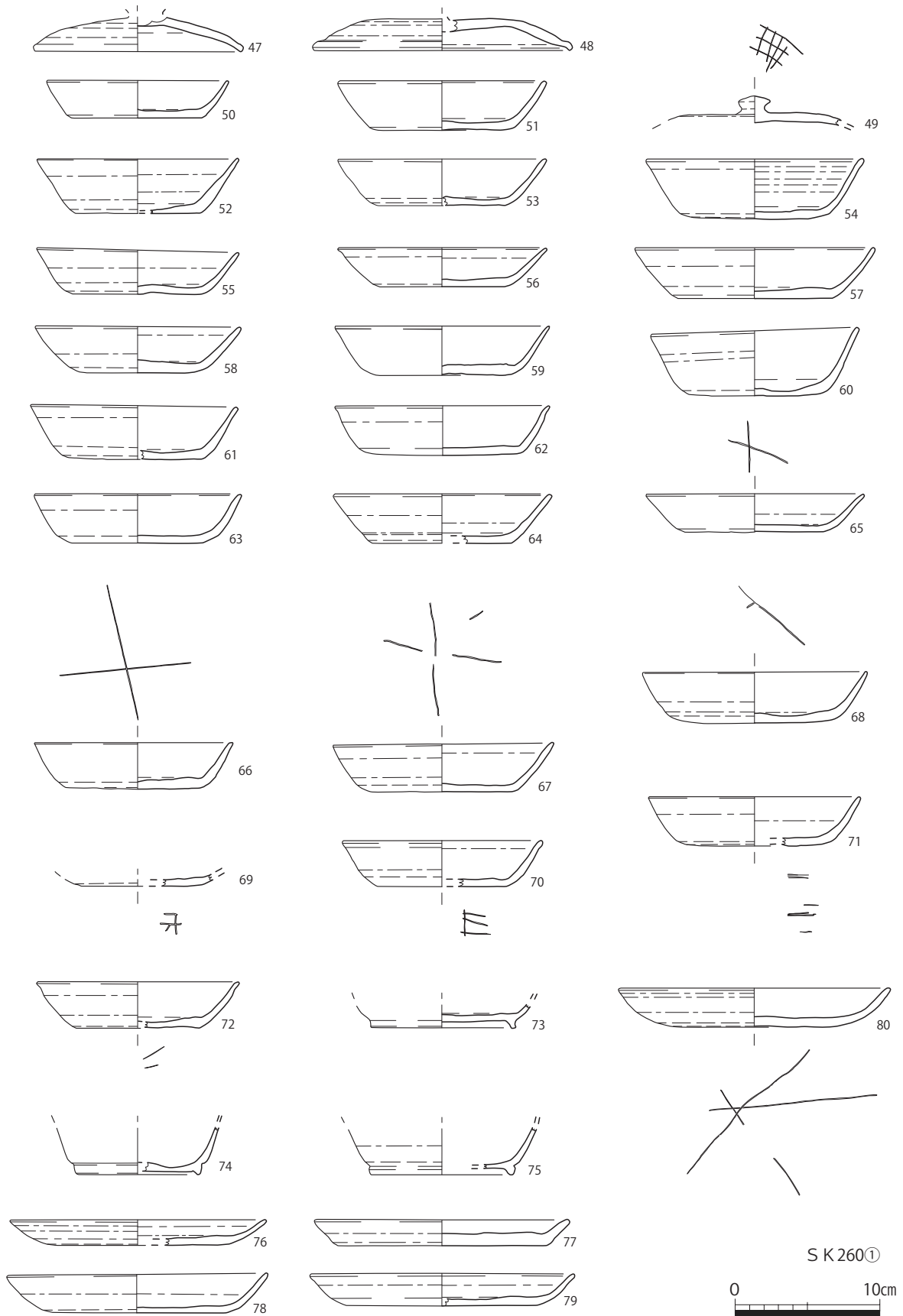


第32図 ●部分顕微鏡拡大写真1(193)



第33図 ●部分顕微鏡拡大写真2(193)

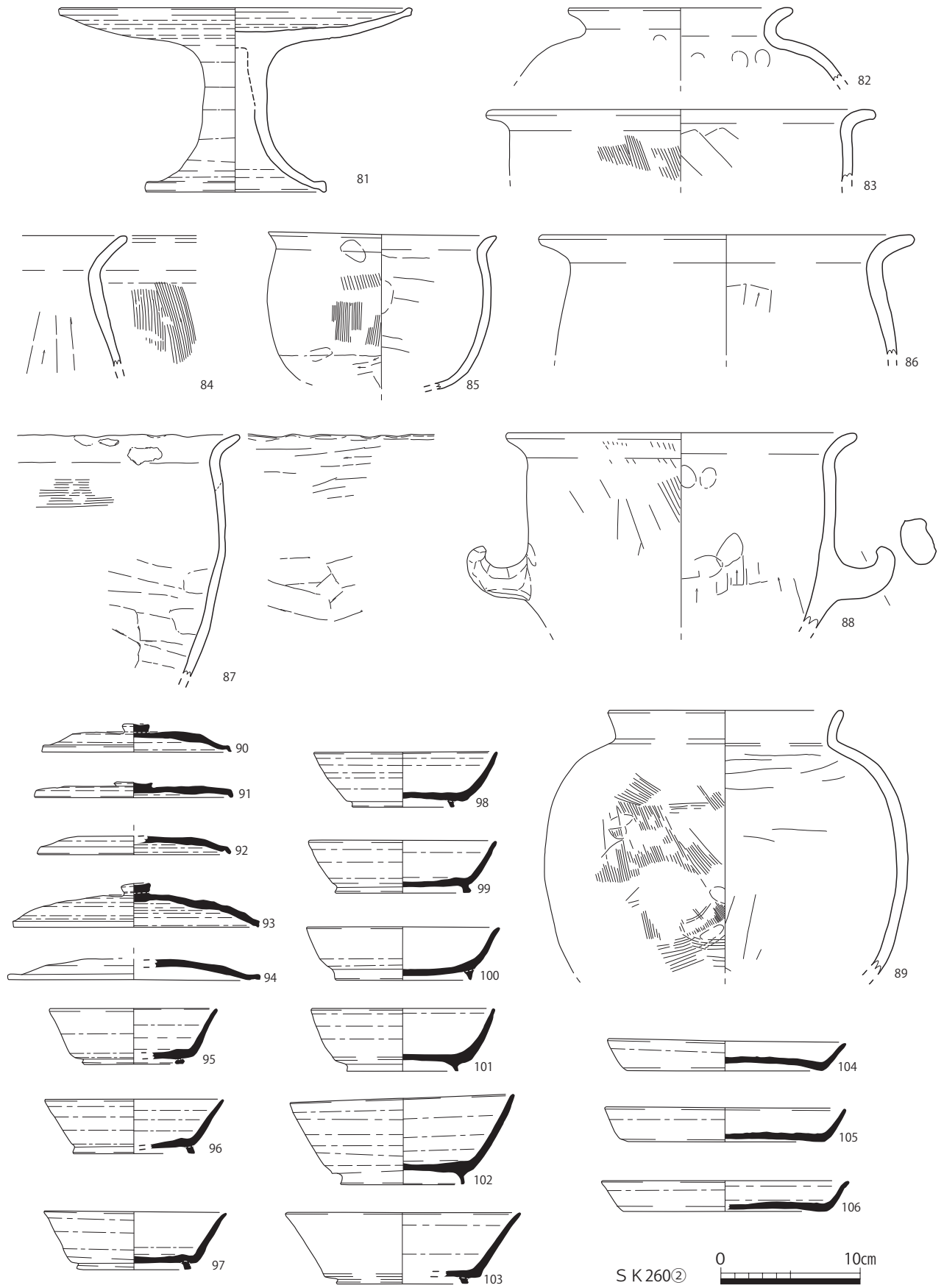
Ⅲ. 調査の記録



第 34 図 出土遺物実測図③ (1/4)

多く、比重が大きい。212 は黒曜石製の石鏃である。213 は S K 987 から出土した土師器の坏であり、内面の器壁が剥離している。214 は S K 989 出土の甕である。215 ～ 236 は S K 992 から出土した。215 ～ 218 は土師器の蓋であり、口縁端部を折り返さない。219 ～ 228 は土師器の坏。219 ～ 220 の底面の仕上げは摩滅のため不明であるが、222 ～ 225 はヘラ切り後回転ヘラケズリで仕上げる。229 は高台付の皿である。高台の断面形はコの字形を呈する。230・231 は土師器の皿であり、底面はヘラ切り後回転ヘラケズリで仕上げる。230 は歪みが大きい。232 は把手付の甕である。233 は須恵器の蓋、234 は須恵器の甕である。235 は土鍾。236 は鉄滓で鉄分が多く、比重が大きい。また、断面形は椀形である。237 ～ 254 は S K 994 から出土した。237 は土師器の蓋であり、内外面共に細かく回転ナデを施す。また、口縁端部は短く折り返す。238 ～ 241 は土師器の坏であり、238 ～ 239・241 は底面をヘラ切り後回転ヘラケズリを施す。239 は口縁端部がやや外反する。240 はヘラ記号を刻んだ後に回転ヘラケズリを施す。243・244 は土師器の鉢。245 は土師器の把手付甕、246 は土師器の鍋、247 は土師器鍋の脚部である。248 は須恵器の坏で、高台はコの字形を呈する。249 は須恵器の高坏であり、見込みにヘラ記号を有する。250・251 は土鍾。252 ～ 254 は粘土塊である。胎土にスサ痕がみられる。また表面が平滑で、凹凸はあまりみられない。255 ～ 257 は S K 995 から出土した。255 は土師器の坏で、底面をヘラ切り後回転ヘラケズリを施す。256・257 は須恵器の蓋。258 ～ 260 は S K 997 から出土した。258 は土師器の坏で、高台を削り出す。259 は須恵器の坏。260 は須恵器蓋の転用硯であり、内面は平滑である。261 ～ 272 は S K 998 から出土した。261 ～ 263 は土師器の坏で、体部中位から下部にかけてやや丸みを帯びる。262・263 の底面はヘラ切り後回転ヘラケズリを施す。263 は底部と体部の境を面取りしている。264・265 は土師器の皿である。264 は体部下半から細かく回転ナデを施し、底面はヘラ切り後回転ヘラケズリを施す。265 は体部下半に丸みがあり、底面はヘラ切りである。266・267 は須恵器の蓋である。267 は輪状つまみを有するとみられる。268 ～ 272 は須恵器の坏である。269 は高台の断面形がコの字形を呈する。270 は口縁の立ち上がりはほぼ直角である。271・272 は高台の位置がほぼ体部との境にある。273 ～ 278 は S K 1004 から出土した。273 は土師器の蓋。274 ～ 278 は土師器の坏であり、274・277 は体部から口縁にかけて大きく開く。278 は体部と高台の境が若干窪む。279・280 は S K 1009 から出土した。279 は土師器の坏で、体部から口縁にかけて大きく開く。また、口縁部は回転ナデのために若干の窪みがある。280 は須恵器の甕で、内面は青海波文のタタキがみられる。281 ～ 283 は S K 1107 から出土した。281 は土師器の鉢。282 は須恵器の坏で、口縁部は外反する。また高台はコの字形を呈し、体部と底部の境は丸みを帯びる。283 は須恵器の甕で、外面に波状文がみられる。284 は S K 1123 から出土した土師器の坏である。摩滅により内外面の調整は不明である。285 ～ 304 は S K 1192 から出土した。285・286 は土師器の蓋で、外面は細かく回転ナデを施し、口縁端部は短く折り返す。287 ～ 293 は土師器の坏。287 ～ 290 は底面が丸みを帯びる。287・290・292 はヘラ切り後回転ヘラケズリを施す。289 の体部下半は手持ちヘラケズリ、291 の底部は手持ちヘラケズリを施す。

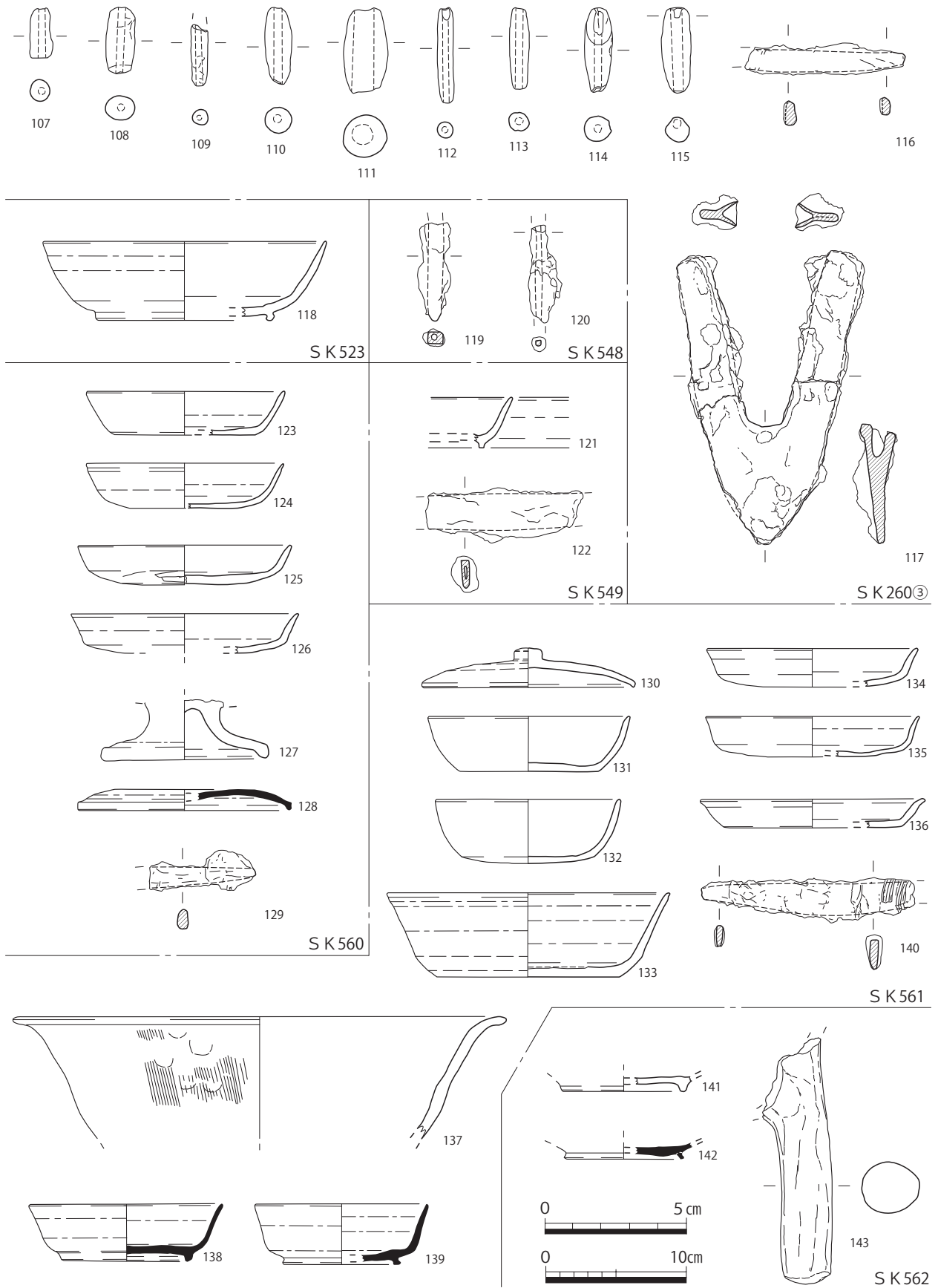
Ⅲ. 調査の記録



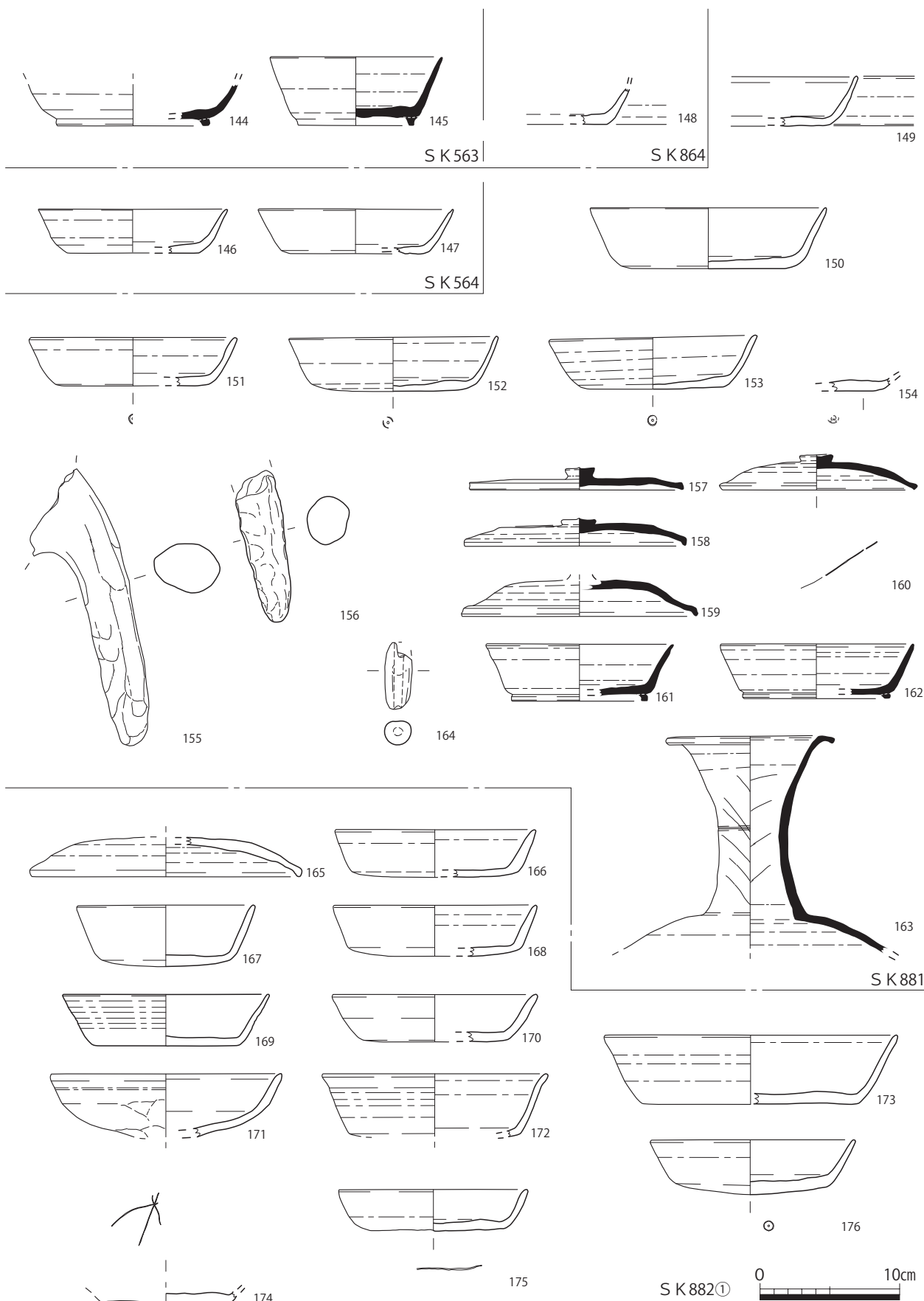
第 35 図 出土遺物実測図④ (1/4)

293 は高台を貼付している。294 は土師器の甕である。口縁から体部中位にかけてはケズリの後ナデを施すが、体部下半はケズリのみである。また底部に窪みがある。295 は土師器鍋の脚部である。296 ～ 299 は鉄釘である。300 は鉄鏃、301 は鉤、302 は鉄鎌。303・304 は不明鉄製品である。305 は S K 1193 から出土した土師器の蓋であり、口縁端部は短く折り返す。306・307 は S K 1194 から出土した。306 は須恵器の坏で、高台は外に踏ん張る形である。307 は粘土塊。表面は平滑で凹凸はあまりない。308 ～ 336 は S K 1210 から出土した。308 は土師器の蓋で、内外面共に細かく回転ナデを施す。309 ～ 317 は土師器の坏。309 は底面をヘラ切り後回転ヘラケズリ、ナデを施す。311 は口縁端部が外反し、底部をヘラ切り後ヘラケズリを施す。312 はヘラ切り後不定方向のヘラケズリを施す。314・315 は体部下半を手持ちヘラケズリで仕上げる。316 は高台を貼付するが、317 は高台を削り出す。318 ～ 324 は土師器の皿。318 の底部はヘラ切りのみであるが、319 はヘラ切り後回転ヘラケズリ、ナデ、320・321 はヘラ切り後不定方向のヘラケズリ、322・323 は手持ちヘラケズリ後ナデで仕上げる。324 の底部には板状圧痕がみえる。321 は底面に●印がある。325 ～ 327 は土師器の甕。328 は土師器の把手付甕。329 は土師器の甌である。底面の穿孔は外面から行っており、貫通した穿孔が5つ確認できる。また、未完了の穿孔が一か所ある。330・331 は須恵器の蓋であり、口縁端部は稜をもって直角に立ち上がる。332 は須恵器の坏であり、高台底面に2条の線が刻まれる。333・334 は鉄釘である。335 は鉄滓で鉄分が多く、比重が大きい。また、断面形は椀形である。336 は滑石製紡錘車である。外面に放射状の線刻がみられる。337 ～ 355 は S K 1212 から出土した。337 は土師器の蓋で、輪状つまみを有する。338 ～ 344 は土師器の坏。底部を338・344 はヘラ切り、339 はヘラ切り後不定方向のヘラケズリ、ナデ、340 はヘラ切り後回転ナデ、341 はヘラ切り後回転ヘラケズリ、ナデ、342 はヘラ切り後回転ヘラケズリを施す。340 は底部と体部の境を面取りしている。345・346 は土師器の高坏。346 は内外面にヘラ記号を有する。347 は土師器の甕である。348 は土師器鍋の脚部。349 は土師器のカマドである。350 ～ 352 は須恵器の蓋であり、嘴状口縁である。353・354 は須恵器の坏である。高台断面形は353 はほぼコの字形を呈するが、354 は外に踏ん張る形である。355 は土錘。356 は S P 26 から出土した安山岩製の石鏃である。357 は S P 41 から出土した縄文土器(曾畑式)の鉢であり、波状口縁を呈する。358 は S P 95 から出土した須恵器蓋の転用硯で内面は平滑である。359 は S P 325 から出土した土錘である。360 は S P 736 から出土した須恵器の壺で、体部中位から口縁にかけて歪みがある。また、外面の体部から底部の境にケズリともみられる連続した工具痕がみられる。底部は青海波文タタキがみられる。361 は S P 957 から出土した刀子である。362 は S P 970 出土の鉄滓で、鉄分が多く比重が大きい。363 は S P 1111 出土の須恵器の坏。体部から口縁部にかけてやや開く器形で、高台の断面形はコの字形である。364 は S P 1162 出土の土師器の皿である。365 は S P 1216 出土の坏。底部はヘラ切り後回転ヘラケズリを施す。366 は S P 1279 出土の皿。底部はヘラ切り後ナデで仕上げる。367 は S P 1341 出土の土師器の坏。外面に被熱痕跡がみられる。

Ⅲ. 調査の記録

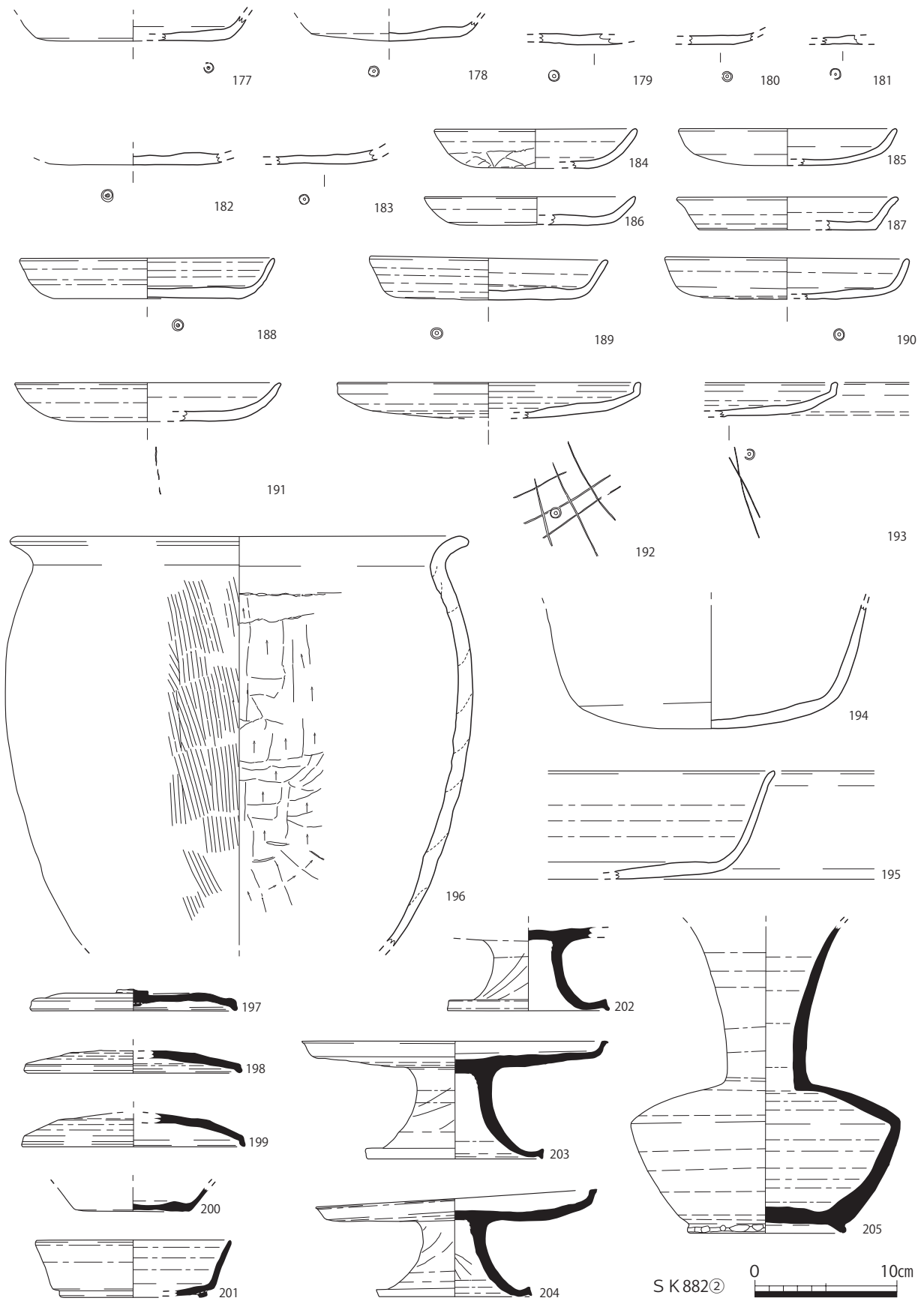


第 36 図 出土遺物実測図⑤ (116・119・120・122・129・140: 1/2、その他 1/4)

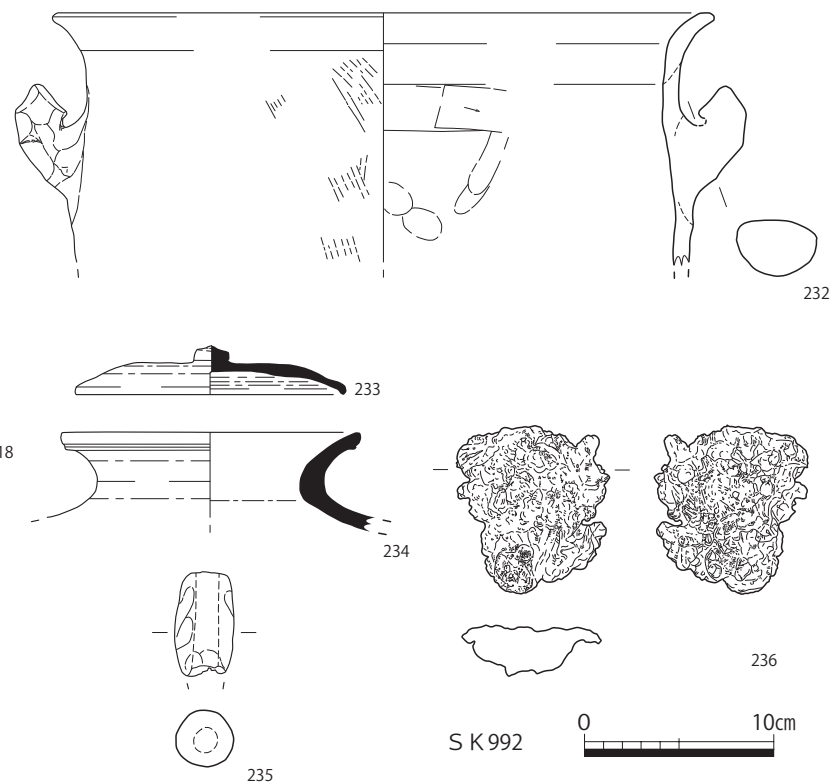
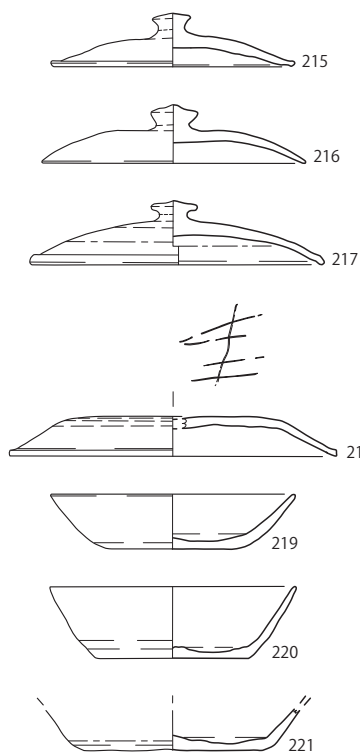
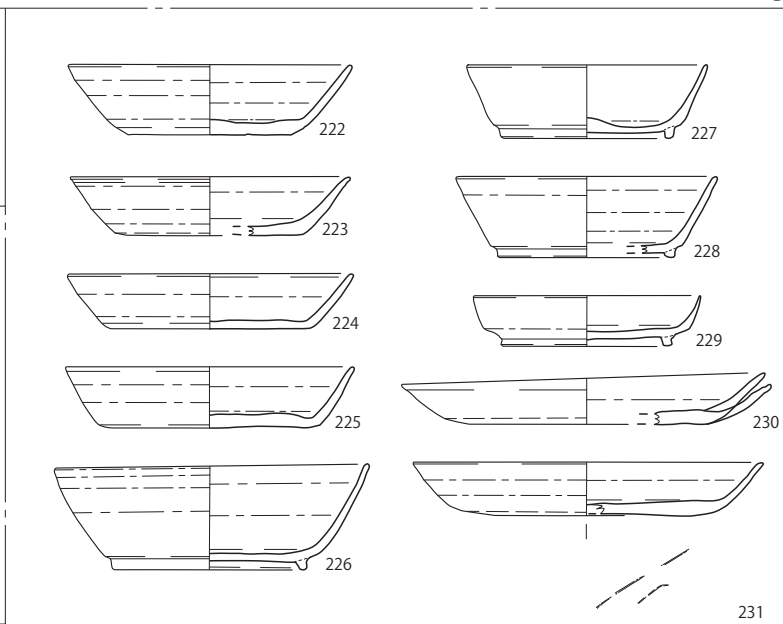
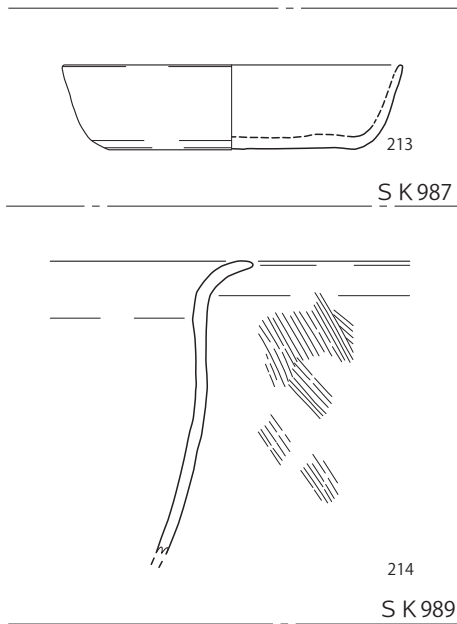
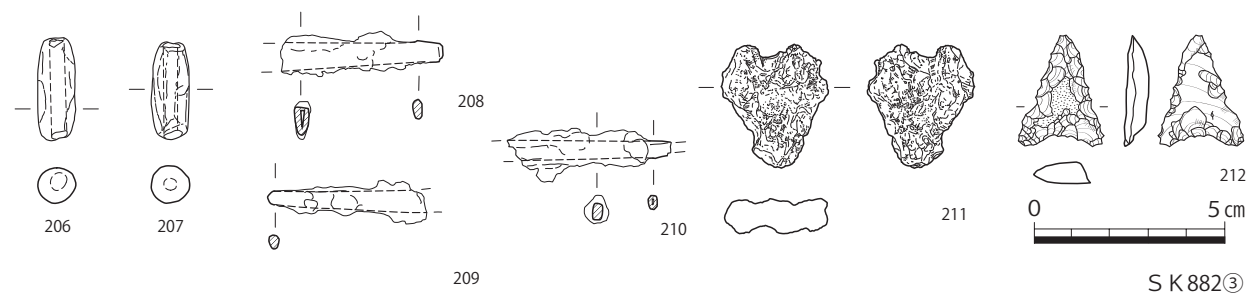


第37図 出土遺物実測図⑥(1/4)

Ⅲ. 調査の記録

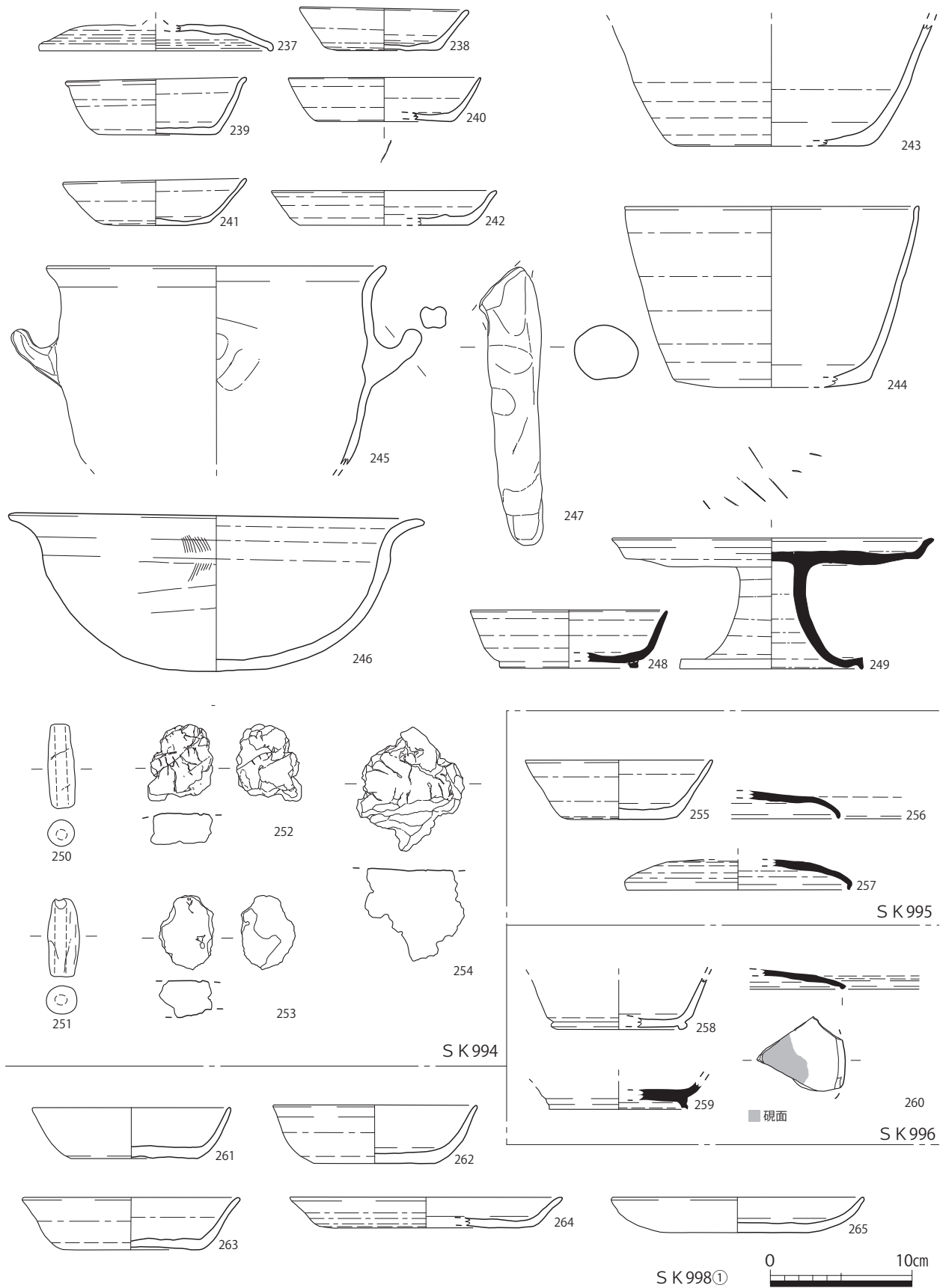


第 38 図 出土遺物実測図⑦ (1/4)

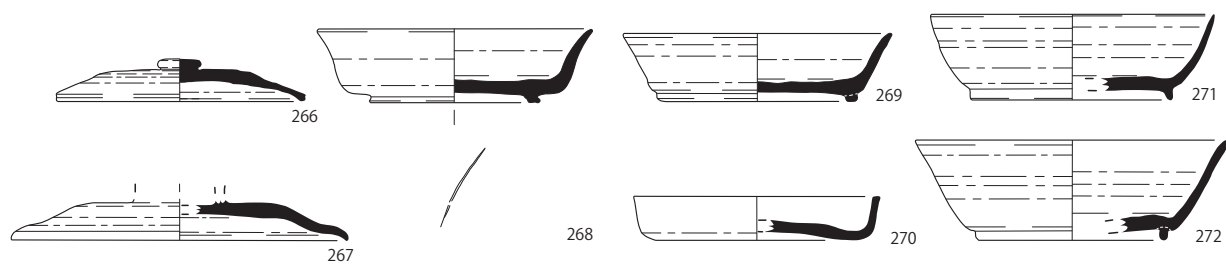


第 39 図 出土遺物実測図⑧ (208・209・210・212 : 1/2、その他 : 1/4)

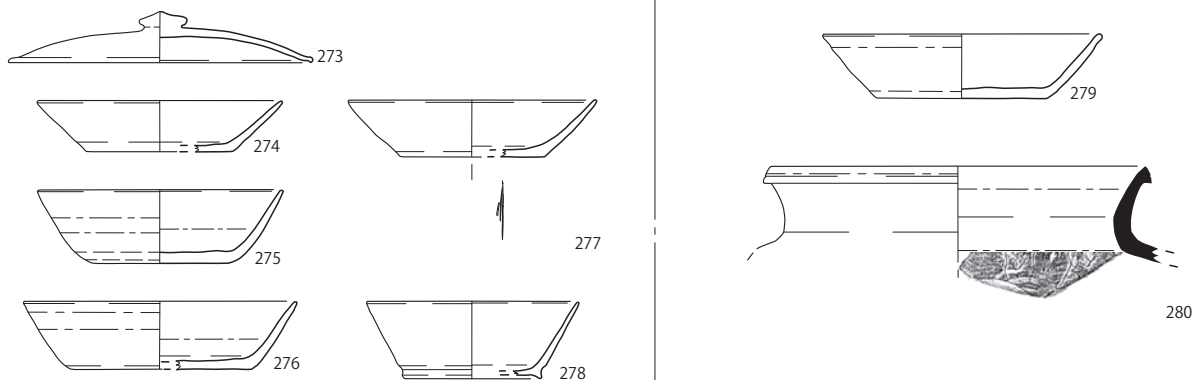
III. 調査の記録



第40図 出土遺物実測図⑨ (1/4)

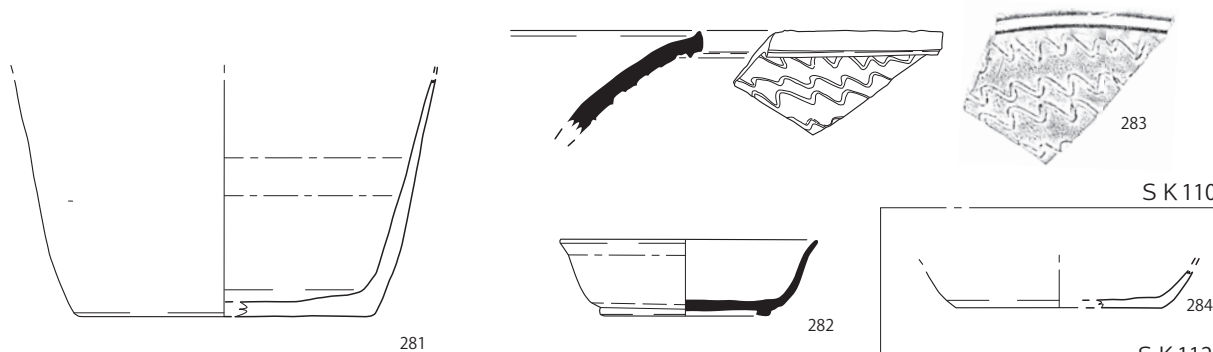


S K 998②



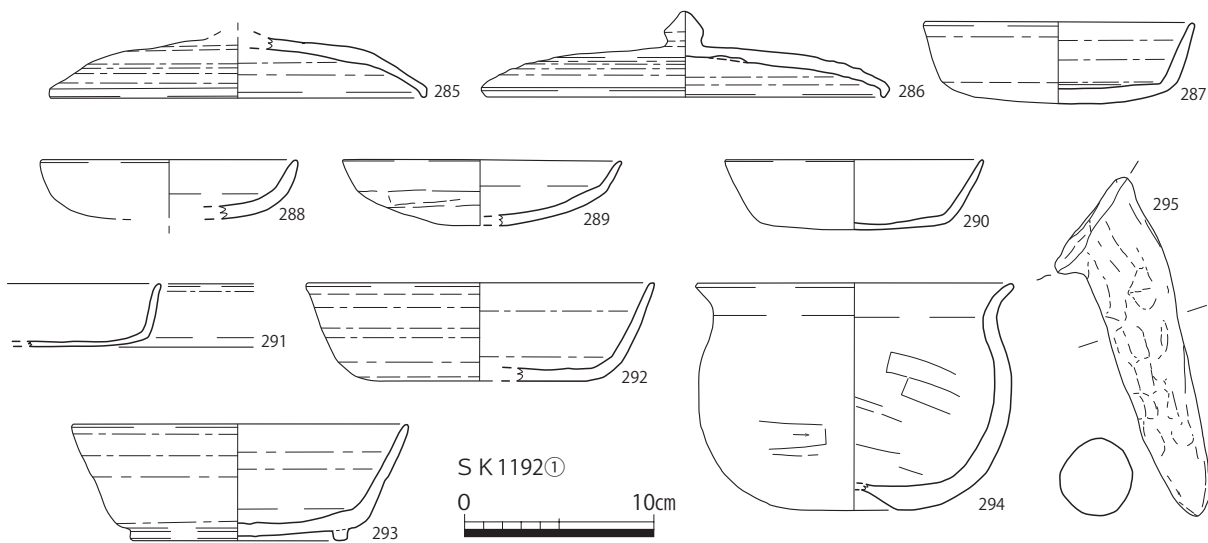
S K 1004

S K 1009



S K 1107

S K 1123

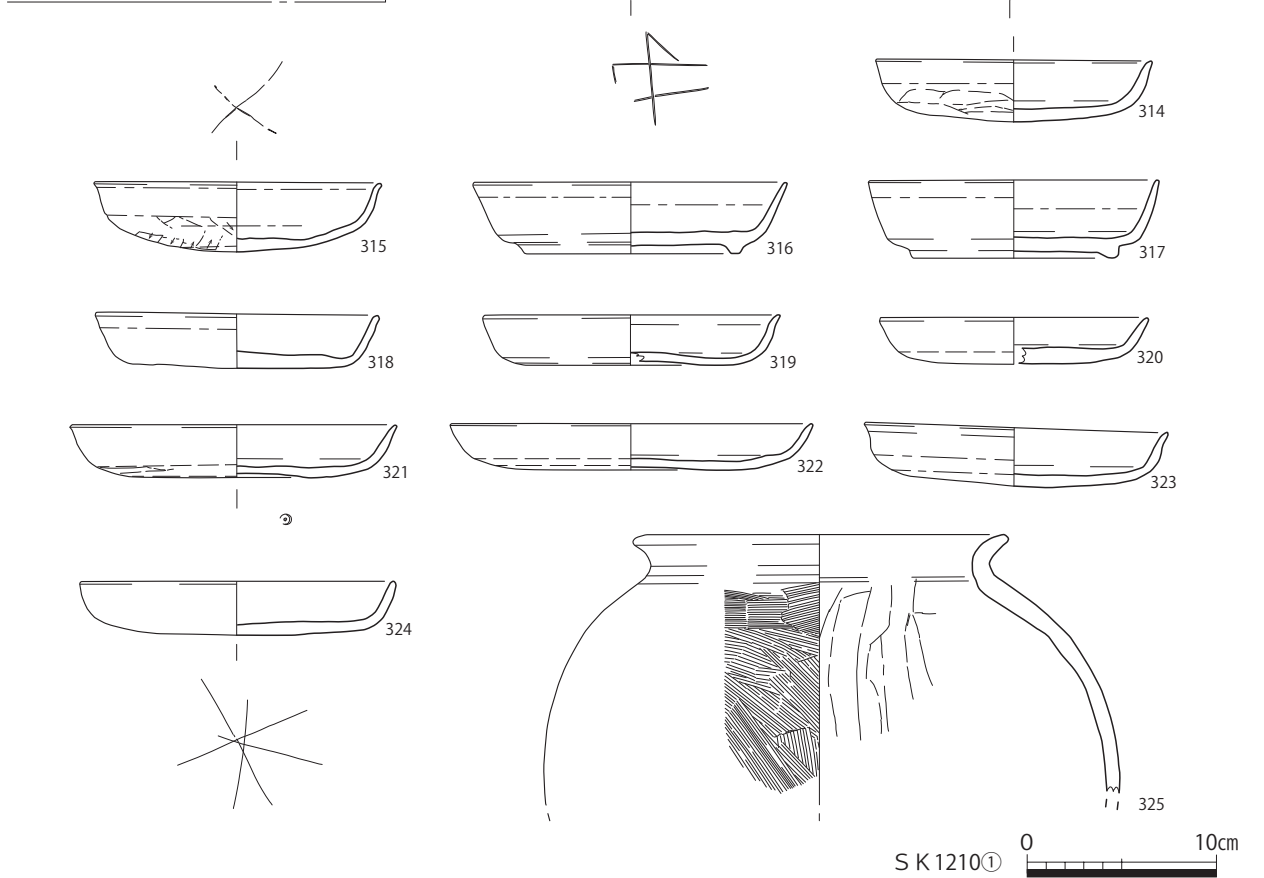
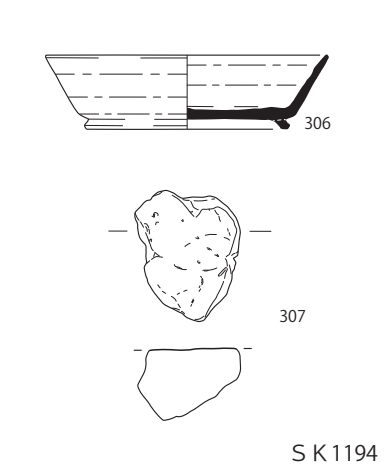
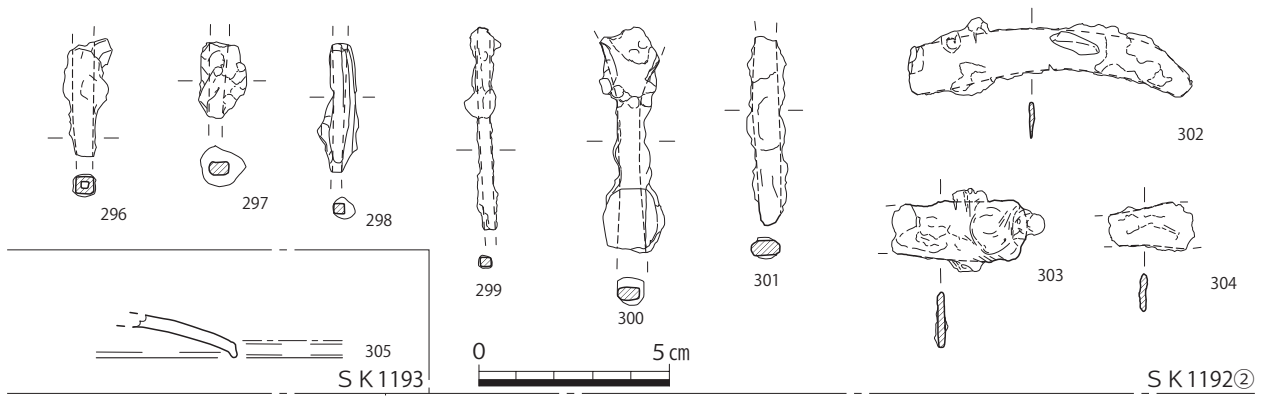


S K 1192①

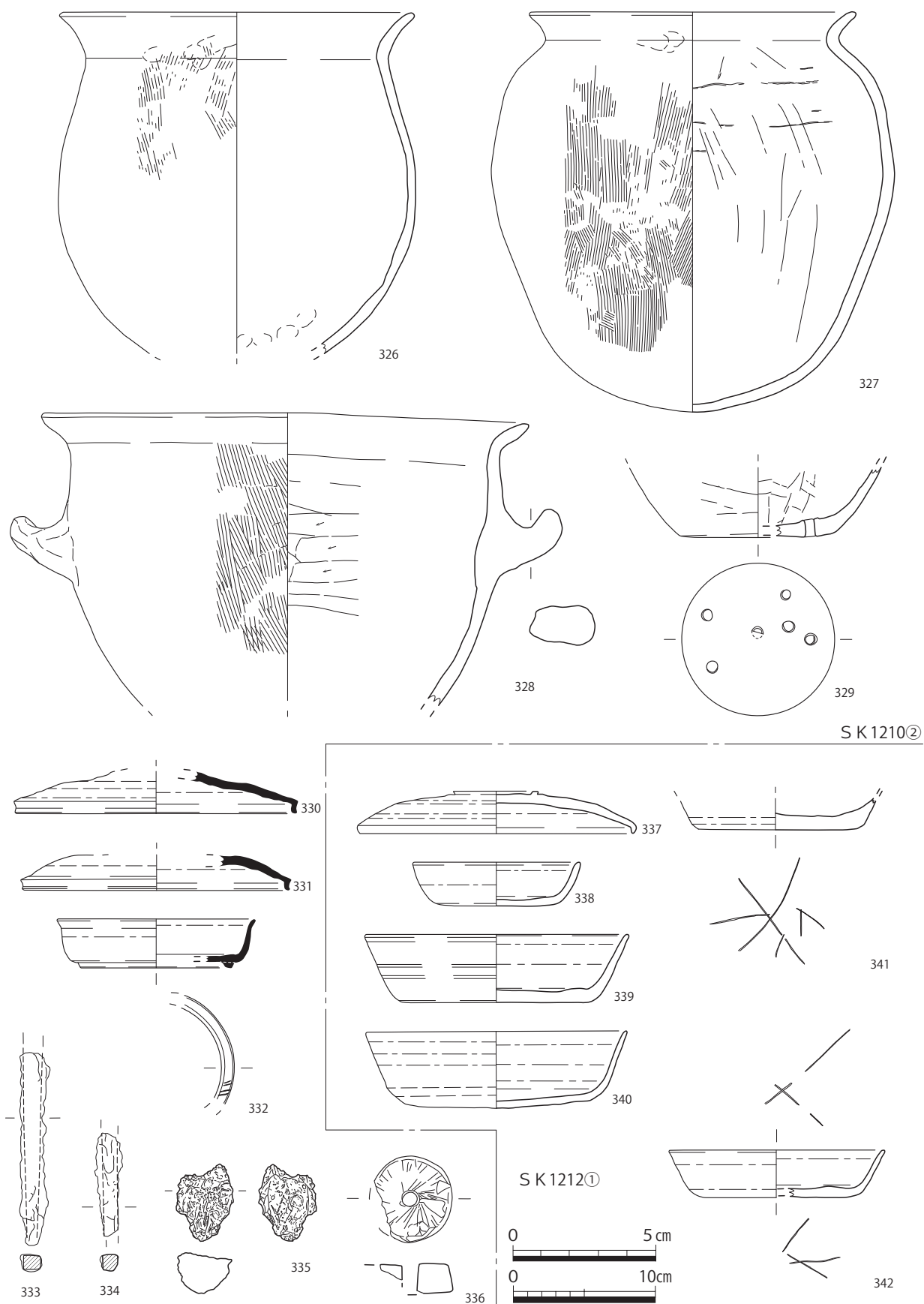


第41図 出土遺物実測図⑩ (1/4)

Ⅲ. 調査の記録

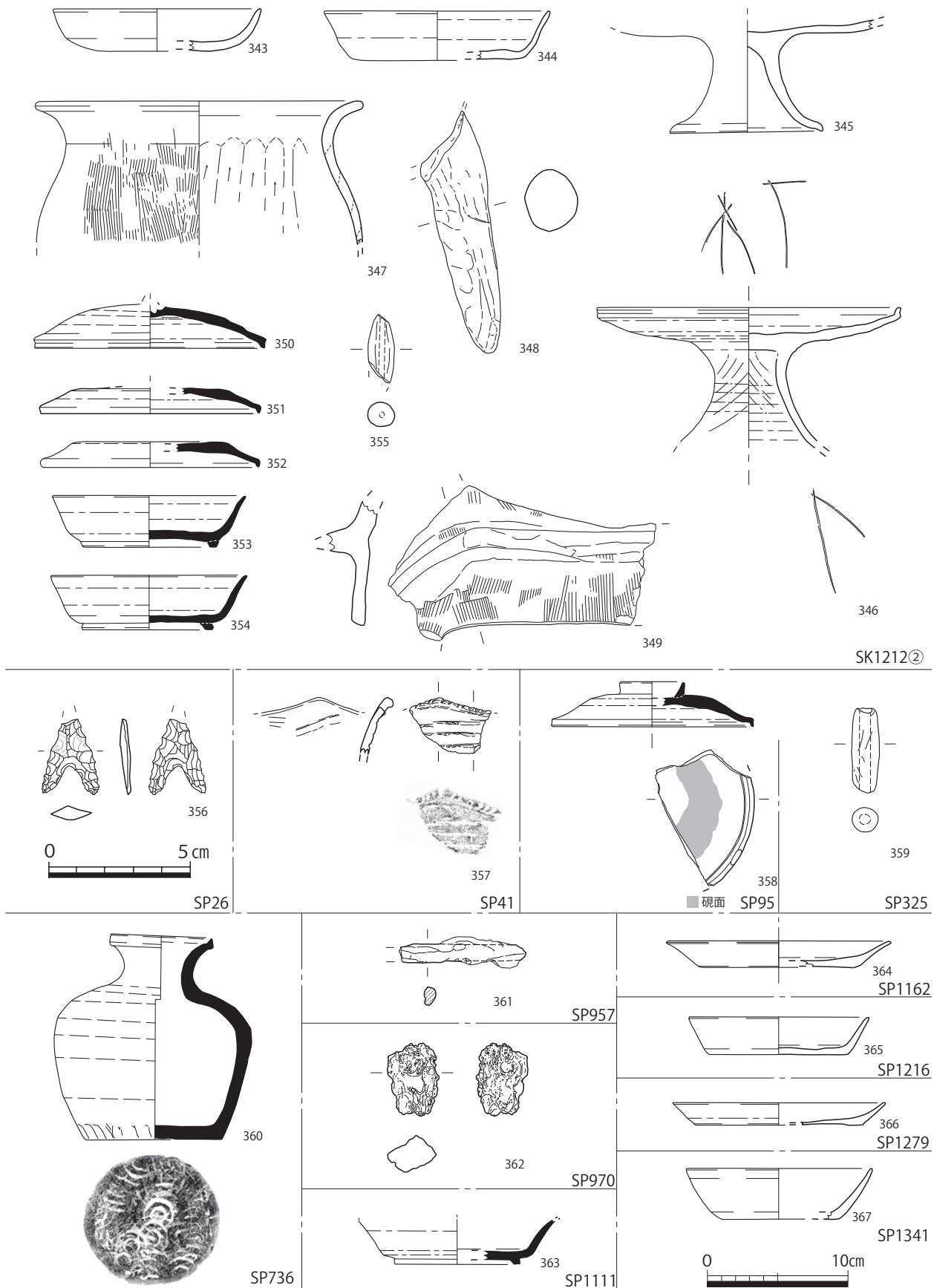


第 42 図 出土遺物実測図① (296・297・298・300・301 : 1/2、その他 : 1/4)



第43図 出土遺物実測図⑫ (333・334・336: 1/2、その他: 1/4)

Ⅲ. 調査の記録



第 44 図 出土遺物実測図⑬ (356・361: 1/2、その他: 1/4)

第1表 出土遺物観察表1

| 遺物番号 | 図面図版番号 | 遺構 | 材質 | 器種 | 法量 | | | 色調 | | 調整 | | 胎土 | 備考 | 登録番号 |
|------|--------------|----------------|-----|----|--------|---------------|-------------|---------------|----------------|-----------------------|-----------------|-------------------------|------------------|------------------|
| | | | | | 口径(長) | 底径(幅) | 器高(厚) | 外面 | 内面 | 外面 | 内面 | | | |
| 1 | 第30図 図版13 | SB573 P1 掘方 | 鉄製品 | 刀子 | (4.0) | 0.9 | 0.6 | | | | | | 重さ 4.7 g | 202114 000360 |
| 2 | 第30図 図版13 | SB573 P4 | 土師器 | 環 | - | (7.8) | (1.4) | 橙 | 橙 | ナデ | ナデ? | ほぼ精良 わずかに粗粒砂含む | 全体的に摩滅 | 202114 000142 |
| 3 | 第30図 図版13 | SB804 P1 掘方 | 土師器 | 環 | (15.0) | 11.4 | (3.1) | 橙～浅黄橙 | 橙 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ | 赤色粒子・極粗粒砂 細 礫含む | ヘラ記号あり 門歯痕あり | 202114 000145 |
| 4 | 第30図 図版13 | SB804 P1 掘方 | 土師器 | 環 | - | (9.8) | (1.0) | 橙 | 橙 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | 赤色粒子・雲母含む | | 202114 000144 |
| 5 | 第30図 図版13 | SB805 P5 | 須恵器 | 蓋 | - | - | (1.2) | 灰 | 灰 | 回転ナデ | 回転ナデ | ほぼ精良 わずかに粗粒砂含む | | 202114 000146 |
| 6 | 第30図 図版13 | SB986 P1 | 土師器 | 蓋 | - | - | (2.2) | 橙 ～にぶい橙 | 橙 | ナデ 回転ヘラケズリ | ナデ | 精良 | 外面摩滅 | 202114 000208 |
| 7 | 第30図 図版13 | SB986 P1 | 須恵器 | 環 | - | (11.6) | (3.2) | 灰白 ～にぶい橙 | にぶい黄橙 | 回転ナデ ナデ ヘラ切り後ナデ | 回転ナデ ナデ | わずかに粗粒砂含む | | 202114 000209 |
| 8 | 第30図 図版13 | SB986 P2 掘方 | 須恵器 | 蓋 | - | - | (1.5) | にぶい橙 ～灰褐 | 灰黄褐 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | 精良 | | 202114 000211 |
| 9 | 第30図 図版13 | SB986 P4 掘方 | 鉄製品 | 刀子 | (7.9) | 1.1 | 0.5 | | | | | | 重さ 12.1 g | 202114 000369 |
| 10 | 第30図 図版13 | SB986 P7 掘方 | 土師器 | 皿 | (16.0) | (13.6) | 2.3 | 灰褐 ～にぶい褐 | にぶい褐 | 回転ナデ 手持ち ヘラケズリ後ナデ | 回転ナデ ナデ | 雲母・粗粒砂を含む | | 202114 000212 |
| 11 | 第31図 図版13 | SK48 | 土師器 | 環 | - | - | (1.3) | 橙 ～にぶい橙 | 橙 | 回転ナデ | 回転ナデ? | ほぼ精良 赤色粒子含む | ヘラ記号あり 全体的に摩滅 | 202114 000003 |
| 12 | 第31図 図版13 | SK48 | 土師器 | 環 | (14.2) | (9.6) | 3.9 | 橙 | 橙 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | 精良 | | 202114 000007 |
| 13 | 第31図 図版13 | SK48 | 土師器 | 環 | (14.6) | (9.4) | 3.5 | 橙 | 橙～灰黄褐 | 回転ナデ? 板状圧痕 | 回転ナデ | 極粗粒砂 わずかに粗粒砂含む | | 202114 000008 |
| 14 | 第31図 図版13 | SK48 | 土師器 | 環 | (14.5) | 10.2 | 3.2 | 橙 | 橙 ～にぶい橙 | 回転ナデ ヘラ切り後ナデ | 回転ナデ ナデ | 精良 赤色粒子を含む | | 202114 000015 |
| 15 | 第31図 図版13 | SK48 | 土師器 | 環 | - | 9.4 | (1.9) | 橙 ～にぶい橙 | 橙 | 回転ナデ ナデ ヘラ切り後ナデ | ナデ? | 精良 | | 202114 000006 |
| 16 | 第31図 図版13 | SK48 | 土師器 | 環 | (17.2) | 11.5 | 5.3 | 橙 ～にぶい橙 | にぶい橙～ にぶい黄橙 | 回転ナデ ナデ ヘラ切り後ナデ | 回転ナデ ナデ | 精良 赤色粒子を含む | | 202114 000014 |
| 17 | 第31図 図版14 | SK48 | 土師器 | 皿 | (19.6) | (15.8) | 1.8 | 明赤褐 | 明赤褐 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ | 雲母・中粒砂含む | ヘラ記号あり | 202114 000009 |
| 18 | 第31図 図版13 | SK48 | 土師器 | 甕 | - | - | (9.8) | 褐灰 | 橙～褐灰 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ ケズリ | 雲母・粗粒砂を含む | | 202114 000004 |
| 19 | 第31図 図版14 | SK48 | 土師器 | 甕 | (26.2) | - | (6.1) | にぶい橙～ にぶい褐 | にぶい褐 | 回転ナデ ハケ目 | 回転ナデ ケズリ ハケ目 | 精良 雲母を含む | | 202114 000016 |
| 20 | 第31図 図版14 | SK48 | 土師器 | 不明 | 12.0 | 10.4 | 1.2～ 1.3 | にぶい橙 | 橙 | ナデ | ケズリ ナデ | 雲母・角閃石・粗粒砂・ 細礫・中礫を含む | | 202114 000010 |
| 21 | 第31図 図版14 | SK48 | 須恵器 | 蓋 | 15.4 | - | 2.0 | 黄灰 | 灰 | 回転ナデ ナデ 回転ヘラケズリ後ナデ | 回転ナデ ナデ | わずかに極粗粒砂含む | | 202114 000013 |
| 22 | 第31図 図版14 | SK48 | 須恵器 | 蓋 | (14.0) | - | (2.2) | 黄灰 | 黄灰～灰 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ後ナデ | 回転ナデ ナデ | ほぼ精良 わずかに極粗 粒砂・中粒砂含む | | 202114 000017 |
| 23 | 第31図 図版14 | SK48 | 須恵器 | 蓋 | - | - | (1.8) | 黄灰 | 黄灰 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ後ナデ | 回転ナデ | 細粒砂含む わずかに極粗粒砂含む | | 202114 000018 |
| 24 | 第31図 図版14 | SK48 | 須恵器 | 環 | 14.3 | 8.9 | 4.1 | 褐灰～ 灰黄褐 | 褐灰～ 灰黄褐 | 回転ナデ ナデ ヘラ切り後ナデ | 回転ナデ | ほぼ精良 わずかに細粒砂含む | | 202114 000011 |
| 25 | 第31図 図版14 | SK48 | 須恵器 | 環 | (13.8) | (9.0) | 4.0 | 褐灰～黄灰 | 黄灰 | 回転ナデ ナデ ヘラ切り後ナデ | 回転ナデ ナデ | ほぼ精良 わずかに極粗 粒砂・細粒砂含む | | 202114 000012 |
| 26 | 第31図 図版14 | SK48 | 須恵器 | 皿 | (15.6) | (12.4) | 2.3 | 灰黄～ 暗灰黄 | 灰黄～ 暗灰黄 | 回転ナデ ヘラ切り後ナデ | 回転ナデ ナデ | わずかに中粒砂含む | | 202114 000005 |
| 27 | 第31図 図版14 | SK145 | 土師器 | 環 | (13.4) | (9.0) | 3.1 | 橙 | 橙 | 回転ナデ ヘラ切り後ナデ | ナデ? | 精良 | | 202114 000020 |
| 28 | 第31図 図版14 | SK145 | 土師器 | 環 | (14.2) | (9.8) | 3.6 | にぶい黄橙 ～褐灰 | にぶい橙 ～褐灰 | 回転ナデ ヘラ切り? | 回転ナデ ナデ? | 精良 赤色粒子を含む | 全体的に摩滅 | 202114 000023 |
| 29 | 第31図 図版14 | SK145 | 土師器 | 環 | (14.2) | (9.6) | 3.5 | 明赤褐 ～褐灰 | にぶい橙 ～灰黄褐 | 回転ナデ ヘラ切り | 回転ナデ ナデ? | 赤色粒子・粗粒砂をわず かに含む | 全体的に摩滅 | 202114 000024 |
| 30 | 第31図 図版14 | SK145 | 土師器 | 環 | 15.1 | 10.6 | 3.3 | にぶい黄橙 ～褐灰 | にぶい褐 | 回転ナデ ヘラ切り 回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | 精良 赤色粒子・雲母含む | 黒斑あり | 202114 000027 |
| 31 | 第31図 図版14 | SK145 | 土師器 | 皿 | (18.4) | - | 2.0 | 橙 | 橙 | 回転ナデ ヘラ切り後ナデ | 回転ナデ ナデ | 精良 | | 202114 000106 |
| 32 | 第31図 図版14 | SK145 | 土師器 | 甕 | (26.4) | - | (5.0) | 橙 ～にぶい褐 | にぶい橙 ～にぶい褐 | 回転ナデ ナデ 指オサエ | 回転ナデ ナデ ケズリ | 雲母・角閃石・細礫 含む | 被熱痕あり | 202114 000021 |
| 33 | 第31図 図版14 | SK145 | 土師器 | 甕 | - | - | (7.8) | 橙～にぶい 黄橙 | にぶい橙 | 回転ナデ? ハケ目 | 回転ナデ? ハケ目 | 雲母・細礫・粗粒砂含む | 全体的に摩滅 | 202114 000026 |
| 34 | 第31図 図版15 | SK145 | 須恵器 | 蓋 | (14.8) | - | (1.4) | 黄灰 | 黄灰 | 回転ナデ ヘラ切り? | 回転ナデ ナデ | わずかに極粗粒砂含む | | 202114 000022 |
| 35 | 第31図 図版15 | SK145 | 須恵器 | 環 | 14.0 | 8.7 | 4.0 | 灰 | 灰 | 回転ナデ ナデ ヘラ切り後ナデ | 回転ナデ ナデ | 細礫・極粗粒砂を含む | | 202114 000025 |
| 36 | 第31図 図版15 | SK160 | 土師器 | 環 | - | - | (3.2) | 橙 ～にぶい橙 | 橙 ～にぶい橙 | 回転ナデ ヘラ切り後ナデ | 回転ナデ ナデ | 精良 | 門歯痕あり | 202114 000028 |
| 37 | 第31図 図版15 | SK212 | 土師器 | 環 | (14.0) | 12.0 | 3.0 | 橙～にぶい 黄橙 | 橙 ～にぶい橙 | 不明 | 回転ナデ ナデ | わずかに極粗粒砂含む | 門歯痕あり 全体的に摩滅 | 202114 000038 |
| 38 | 第31図 図版15 | SK212 | 土師器 | 環 | 14.1 | 11.1 | 3.3～ 3.5 | にぶい橙 ～褐灰 | 橙 | 回転ナデ? ヘラ切り? | | 精良 | 全体的に摩滅 | 202114 000036 |
| 39 | 第31図 図版15 | SK212 | 土師器 | 環 | (14.8) | (11.6) | 3.0 | にぶい橙 | 橙 | 回転ナデ ヘラ切り後ナデ | 回転ナデ | 精良 赤色粒子・雲母を含む | ヘラ記号あり | 202114 000037 |
| 40 | 第31図 図版15 | SK212 | 土師器 | 環 | (17.5) | (13.6) | 4.9 | 橙 | 橙 | 回転ナデ? 回転ヘラケズリ | 回転ナデ? ナデ | 精良 わずかに赤色粒子含む | 全体的に摩滅 | 202114 000029 |
| 41 | 第31図 図版15 | SK212 | 土師器 | 皿 | - | (10.4) | (1.4) | にぶい橙 ～橙 | にぶい橙 | 回転ナデ ヘラ切り後ナデ | 回転ナデ? | わずかに極粗粒砂含む | 内面摩滅 | 202114 000030 |
| 42 | 第31図 図版15 | SK212 | 土師器 | 鉢? | (17.4) | - | (5.5) | 橙 | にぶい橙 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ | わずかに赤色粒子・極粗 粒砂含む | 全体的に摩滅 | 202114 000033 |
| 43 | 第31図 図版15 | SK212 | 土師器 | 鉢? | (17.4) | - | (5.8) | にぶい橙 | にぶい橙 | 回転ナデ? 回転ヘラケズリ? | 回転ナデ? | 精良 | 摩耗著しい | 202114 000034 |
| 44 | 第31図 図版15 | SK212 | 土師器 | 高環 | - | 脚部径 (12.4) | (7.4) | 橙 | 橙 | 回転ナデ | 回転ナデ しぼり痕 | 精良 わずかに赤色粒子含む | 全体的に摩滅 | 202114 000035 |
| 45 | 第31図 図版15 | SK212 | 土師器 | 把手 | (7.4) | 4.4 | - | にぶい橙 | にぶい橙 | ケズリ後ナデ | ケズリ? | 雲母・極粗粒砂含む | 内面炭化物? 付着 | 202114 000031 |
| 46 | 第31図 図版15 | SK212 | 土師器 | 把手 | (4.8) | 3.5 | - | 橙 | 橙 | ケズリ後ナデ | ナデ | 雲母・粗粒砂含む | | 202114 000032 |

Ⅲ. 調査の記録

第2表 出土遺物観察表2

| 遺物 番号 | 図面 図版 番号 | 遺構 | 材質 | 器種 | 法量 | | | 色調 | | 調整 | | 胎土 | 備考 | 登録 番号 |
|----------|----------------|-------|-----|----------|-----------|-----------|-------------|----------------|----------------|-------------------------|------------------|----------------------------|------------------|------------------|
| | | | | | 口径 (長) | 底径 (幅) | 器高 (厚) | 外面 | 内面 | 外面 | 内面 | | | |
| 47 | 第34図 図版15 | SK260 | 土師器 | 蓋 | (14.6) | - | (2.4) | 橙 | 橙～浅黄橙 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ | 雲母含む わずかに中粒砂含む | 全体的に摩滅 | 202114 000094 |
| 48 | 第34図 図版15 | SK260 | 土師器 | 蓋 | (18.0) | - | (2.2) | 橙 | 橙 | 回転ナデ ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | 精良 | | 202114 000043 |
| 49 | 第34図 図版15 | SK260 | 土師器 | 蓋 | - | 2.1 | (2.0) | 橙 | 橙 | 回転ナデ? ナデ 回転ヘラケズリ? | 回転ナデ? ナデ? | 精良 わずかに赤色粒子含む | ヘラ記号あり 全体的に摩滅 | 202114 000042 |
| 50 | 第34図 図版16 | SK260 | 土師器 | 坏 | (12.5) | 9.7 | 2.6 | 橙 | 橙 | 回転ナデ ナデ ヘラ切り後ナデ | 回転ナデ | 赤色粒子含む わずかに 雲母・中粒砂含む | 全体的に摩滅 | 202114 000086 |
| 51 | 第34図 図版16 | SK260 | 土師器 | 坏 | (14.4) | 9.9 | 3.4 | 橙 ～にぶい橙 | 橙 | 回転ナデ ヘラ切り | 回転ナデ ナデ | 精良 雲母含む | 黒斑あり | 202114 000039 |
| 52 | 第34図 図版16 | SK260 | 土師器 | 坏 | (14.0) | (9.4) | 3.8 | 橙 ～にぶい橙 | 橙 ～にぶい橙 | 回転ナデ ヘラ切り | 回転ナデ | ほぼ精良 赤色粒子・角 閃石・雲母含む | | 202114 000112 |
| 53 | 第34図 図版16 | SK260 | 土師器 | 坏 | (14.4) | (8.6) | 2.2 | 橙 ～にぶい橙 | 浅黄橙 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ | | | 202114 000063 |
| 54 | 第34図 図版16 | SK260 | 土師器 | 坏 | (15.0) | 10.1 | 4.3 | 橙 | にぶい橙 ～橙 | 回転ナデ ヘラ切り後回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | 精良 | 一部摩滅 | 202114 000040 |
| 55 | 第34図 図版16 | SK260 | 土師器 | 坏 | 14.0 | 10.0 | 4.2 | 橙～浅黄橙 | 橙 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ ヘラ切り後ナデ | 回転ナデ | 赤色粒子含む わずかに 雲母・粗粒砂含む | 全体的に摩滅 | 202114 000084 |
| 56 | 第34図 図版16 | SK260 | 土師器 | 坏 | (14.6) | (9.6) | 2.8 | 橙 | 橙 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ | 極粗粒砂含む | | 202114 000090 |
| 57 | 第34図 図版16 | SK260 | 土師器 | 坏 | (16.8) | 11.5 | 3.5 | 橙 | 橙 | 回転ナデ ヘラ切り後ナデ | 回転ナデ | 赤色粒子・粗粒砂含む | 全体的に摩滅 | 202114 000091 |
| 58 | 第34図 図版16 | SK260 | 土師器 | 坏 | (14.2) | (9.4) | 4.1 | にぶい赤褐 | 橙～にぶい 赤褐 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ | ほぼ精良 雲母含む 極粗粒砂・粗粒砂含む | 黒斑あり | 202114 000089 |
| 59 | 第34図 図版16 | SK260 | 土師器 | 坏 | (14.8) | 8.5 | 3.4 | 橙～ にぶい橙 | 橙 | 回転ナデ ヘラ切り | 回転ナデ | 赤色粒子・雲母含む | | 202114 000065 |
| 60 | 第34図 図版16 | SK260 | 土師器 | 坏 | 14.4 | 8.0 | 4.7～ 4.2 | にぶい黄橙 ～橙 | 橙～浅黄橙 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ | 赤色粒子含む | | 202114 000068 |
| 61 | 第34図 図版16 | SK260 | 土師器 | 坏 | 14.3 | 9.9 | 3.6 | にぶい橙 | にぶい橙 | 回転ナデ ヘラケズリ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ | 赤色粒子・雲母含む | | 202114 000067 |
| 62 | 第34図 図版17 | SK260 | 土師器 | 坏 | 14.8 | 11.6 | 3.4 | 橙 | 橙～ にぶい黄橙 | 回転ナデ ナデ ヘラ切り後ナデ? | 回転ナデ? | 赤色粒子含む わずかに中粒砂含む | 全体的に摩滅 | 202114 000088 |
| 63 | 第34図 図版17 | SK260 | 土師器 | 坏 | (14.3) | (9.0) | 4.4 | 橙 | にぶい橙 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ | 粗粒砂含む | | 202114 000110 |
| 64 | 第34図 図版17 | SK260 | 土師器 | 坏 | (15.2) | (10.6) | 3.4 | 橙 | 橙～ にぶい橙 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ | ほぼ精良 雲母・粗粒砂含む | | 202114 000060 |
| 65 | 第34図 図版16 | SK260 | 土師器 | 坏 | (15.0) | (10.8) | 2.6 | にぶい橙 ～褐灰 | にぶい橙 橙 | 回転ナデ ヘラケズリ? | 回転ナデ ナデ | ほぼ精良 赤色粒子多く含む | ヘラ記号あり 被熱痕跡あり | 202114 000111 |
| 66 | 第34図 図版16 | SK260 | 土師器 | 坏 | (13.7) | 9.2 | 3.2 | 橙～褐 | 橙 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ | 赤色粒子・雲母・石英含 む | ヘラ記号あり | 202114 000066 |
| 67 | 第34図 図版16 | SK260 | 土師器 | 坏 | 15.2 | 11.6 | 3.4 | 明赤褐 ～にぶい褐 | 明赤褐 ～にぶい褐 | 回転ナデ ヘラ切り後回転ヘラケズリ | 回転ナデ | ほぼ精良 赤色粒子・雲母含む | ヘラ記号あり | 202114 000078 |
| 68 | 第34図 図版17 | SK260 | 土師器 | 坏 | (15.6) | (11.9) | 3.5 | にぶい褐 ～にぶい橙 | にぶい橙 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | ほぼ精良 赤色粒子含む | ヘラ記号あり | 202114 000109 |
| 69 | 第34図 図版17 | SK260 | 土師器 | 坏 | - | (9.0) | (0.8) | 明赤褐～橙 | 橙 | ヘラ切り後回転ヘラケズリ | 回転ナデ | 精良 赤色粒子・雲母含む | 丹塗り 刻書土器か | 202114 000077 |
| 70 | 第34図 図版17 | SK260 | 土師器 | 坏 | (13.8) | (10.8) | 3.1 | 橙～ にぶい黄橙 | 橙～灰黄褐 | 回転ナデ ヘラ切り後回転ヘラケズリ | 回転ナデ | ほぼ精良 赤色粒子・雲母含む | ヘラ記号あり | 202114 000079 |
| 71 | 第34図 図版17 | SK260 | 土師器 | 坏 | (14.2) | (9.3) | 3.4 | 橙 | 橙 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ | 赤色粒子含む | 門歯痕あり | 202114 000069 |
| 72 | 第34図 図版17 | SK260 | 土師器 | 坏 | (14.0) | (8.4) | 3.2 | 橙 | 橙 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ | 精良 | ヘラ記号あり | 202114 000064 |
| 73 | 第34図 図版17 | SK260 | 土師器 | 坏 | - | 10.0 | (2.6) | 橙 | にぶい橙 ～橙 | 回転ナデ ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | 赤色粒子・雲母・中粒砂 含む | 黒斑あり | 202114 000103 |
| 74 | 第34図 図版17 | SK260 | 土師器 | 坏 | - | 8.6 | 3.2 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ後ナデ | 回転ナデ | わずかに雲母・中粒砂含 む | 削り出し高台 | 202114 000102 |
| 75 | 第34図 図版17 | SK260 | 土師器 | 坏 | - | 10.0 | (3.2) | 橙 | にぶい橙 ～橙 | 回転ナデ ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ | 赤色粒子・雲母・中粒砂 含む | 削り出し高台 | 202114 000104 |
| 76 | 第34図 図版17 | SK260 | 土師器 | 皿 | (17.5) | (14.6) | 2.1 | 橙 ～にぶい橙 | にぶい橙 ～橙 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ | わずかに赤色粒子・雲母・ 極粗粒砂含む | | 202114 000113 |
| 77 | 第34図 図版17 | SK260 | 土師器 | 皿 | (17.6) | (15.2) | 1.8 | 橙 | にぶい橙 ～橙 | 回転ナデ ヘラ切り後回転ヘラケズリ | 回転ナデ | ほぼ精良 赤色粒子・雲母含む | | 202114 000114 |
| 78 | 第34図 図版17 | SK260 | 土師器 | 皿 | (18.0) | 13.5 | 2.6 | 橙 | 橙 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ | 雲母・赤色粒子含む わずかに粗粒砂含む | 外面煤? 付着 | 202114 000092 |
| 79 | 第34図 図版18 | SK260 | 土師器 | 皿 | (14.6) | - | (2.4) | にぶい赤褐 ～にぶい橙 | 褐灰 ～にぶい橙 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | ほぼ精良 赤色粒子・雲母含む | | 202114 000093 |
| 80 | 第34図 図版18 | SK260 | 土師器 | 皿 | (18.8) | (13.3) | 2.7 | 橙 ～にぶい橙 | 橙 ～にぶい橙 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | わずかに赤色粒子含む | ヘラ記号あり 黒斑あり | 202114 000041 |
| 81 | 第35図 図版18 | SK260 | 土師器 | 高坏 | (25.4) | (13.0) | 13.2 | 橙 | にぶい橙 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ しぼり痕 | 精良 | 門歯痕あり | 202114 000047 |
| 82 | 第35図 図版18 | SK260 | 土師器 | 壺 | (16.2) | - | 4.2 | 明赤褐 | にぶい赤褐 ～にぶい橙 | 回転ナデ ナデ 指オサエ | 回転ナデ ナデ 指オサエ | 雲母含む わずかに粗粒砂含む | | 202114 000049 |
| 83 | 第35図 図版18 | SK260 | 土師器 | 甕 | (28.0) | - | (5.2) | 橙 | 橙 ～にぶい橙 | 回転ナデ ハケ目 | 回転ナデ ケズリ? | わずかに雲母・粗粒砂含 む | 全体的に摩滅 | 202114 000044 |
| 84 | 第35図 図版18 | SK260 | 土師器 | 甕 | - | - | (9.4) | 橙 | にぶい橙 | 回転ナデ ハケ目 | 回転ナデ ヘラケズリ | 雲母・細礫・極粗粒砂含 む | 粘土痕 全体的に摩滅 | 202114 000045 |
| 85 | 第35図 図版18 | SK260 | 土師器 | 甕 | (16.3) | - | (11.0) | 橙～にぶい 橙～黒褐 | 橙 ～にぶい橙 | ハケ目 ケズリ ナデ 指オサエ | ケズリ 指オサエ ナデ | 赤色粒子・雲母含む | 黒斑あり | 202114 000116 |
| 86 | 第35図 図版18 | SK260 | 土師器 | 甕 | (27.0) | - | (8.6) | 橙 | にぶい橙 | ナデ | ケズリ? ナデ | 角閃石・粗粒砂含む | 工具痕あり | 202114 000046 |
| 87 | 第35図 図版18 | SK260 | 土師器 | 甕 | - | - | (17.3) | 橙 | 橙 | ナデ ハケ目 ケズリ | ハケ目 ケズリ? ナデ | 赤色粒子・雲母・角閃石・ 粗粒砂・中礫多く含む | | 202114 000095 |
| 88 | 第35図 図版18 | SK260 | 土師器 | 把手付 甕 | (25.2) | - | (14.0) | 橙 | にぶい赤褐 ～にぶい橙 | ハケ目 ナデ 指オサエ | ヘラケズリ ナデ 指オサエ | ほぼ精良 赤色粒子・角 閃石・雲母含む | 被熱痕跡あり | 202114 000115 |
| 89 | 第35図 図版18 | SK260 | 土師器 | 甕 | (16.9) | - | (18.8) | 明赤褐 ～褐灰 | 褐灰～にぶ い赤褐 | ハケ目 ナデ | ナデ ケズリ 工具痕 | ほぼ精良 赤色粒子・雲母含む | 黒斑あり | 202114 000070 |
| 90 | 第35図 図版18 | SK260 | 須恵器 | 蓋 | (13.4) | 2.0 | 2.0 | 灰 | 灰 | 回転ナデ ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ | ほぼ精良 極粗粒砂・粗 粒砂・中粒砂少し含む | | 202114 000085 |
| 91 | 第35図 図版18 | SK260 | 須恵器 | 蓋 | (14.3) | - | 1.1 | 灰 | 灰 | 回転ナデ ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ | 中粒砂含む | | 202114 000076 |
| 92 | 第35図 図版18 | SK260 | 須恵器 | 蓋 | (14.0) | - | (1.4) | 黄灰 | 黄灰 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ | ほぼ精良 わずかに粗粒砂含む | | 202114 000057 |

第3表 出土遺物観察表3

| 遺物番号 | 図面図版番号 | 遺構 | 材質 | 器種 | 法量 | | | 色調 | | 調整 | | 胎土 | 備考 | 登録番号 |
|------|--------------|-------|-----|----|--------|--------|-------------|-----------------|-----------------|----------------------|--------------|---------------------------|--------------------|------------------|
| | | | | | 口径(長) | 底径(幅) | 器高(厚) | 外面 | 内面 | 外面 | 内面 | | | |
| 93 | 第35図 図版18 | SK260 | 須恵器 | 蓋 | 17.6 | 2.1 | 3.2 | 灰 | 灰 | 回転ナデ | 回転ナデ | ほぼ精良 極粗粒砂・細粒砂含む | 工具痕あり? | 202114 000058 |
| 94 | 第35図 図版18 | SK260 | 須恵器 | 蓋 | (19.2) | - | (1.5) | にぶい橙～ 灰白 | 灰黄～灰白 | 回転ナデ | 回転ナデ | 雲母含む わずかに中礫・ 極粗粒砂含む | 全体的に摩滅 | 202114 000100 |
| 95 | 第35図 図版18 | SK260 | 須恵器 | 坏 | (12.2) | (7.4) | 4.4 | 灰 | 灰 | 回転ナデ ナデ ヘラ切り後ナデ | 回転ナデ | 中粒砂・粗粒砂含む | | 202114 000052 |
| 96 | 第35図 図版19 | SK260 | 須恵器 | 坏 | (12.8) | (8.8) | 3.9 | 灰 | 灰 | 回転ナデ ナデ ヘラ切り後ナデ | 回転ナデ ナデ | ほぼ精良 雲母・細粒砂含む | | 202114 000050 |
| 97 | 第35図 図版19 | SK260 | 須恵器 | 坏 | (13.2) | (8.2) | 4.1 | 灰 | 灰 | 回転ナデ ナデ ヘラ切り後ナデ | 回転ナデ ナデ | 極粗粒砂含む わずかに細礫含む | | 202114 000051 |
| 98 | 第35図 図版19 | SK260 | 須恵器 | 坏 | (13.2) | 7.4 | 4.0 | 灰 | 灰 | 回転ナデ ナデ ヘラ切り後ナデ | 回転ナデ | ほぼ精良 わずかに極粗 粒砂・細粒砂含む | | 202114 000056 |
| 99 | 第35図 図版19 | SK260 | 須恵器 | 坏 | 13.6 | 9.8 | 3.7 | 灰 | 灰 | 回転ナデ ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | わずかに細礫・粗粒砂含 む | | 202114 000096 |
| 100 | 第35図 図版19 | SK260 | 須恵器 | 坏 | 14.0 | 9.8 | 3.8 | 灰白 ～明灰黄 | 灰白 | 回転ナデ ナデ | 回転ナデ | 細礫・極粗粒砂含む | 全体的に摩滅 | 202114 000098 |
| 101 | 第35図 図版19 | SK260 | 須恵器 | 坏 | (13.6) | (8.0) | 4.0 | 灰 | 灰 | 回転ナデ ナデ ヘラ切り | 回転ナデ | ほぼ精良 ごくわずかに 細礫・粗粒砂含む | 内面に焼きぶくれ 多数あり | 202114 000053 |
| 102 | 第35図 図版19 | SK260 | 須恵器 | 坏 | 16.1 | (8.9) | 6.5～ 5.9 | にぶい黄橙 ～灰 | 灰 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ ヘラ切り | 回転ナデ | 精良 | | 202114 000075 |
| 103 | 第35図 図版19 | SK260 | 須恵器 | 坏 | (18.0) | (9.4) | 5.1 | 灰白 | にぶい黄橙 | 回転ナデ ナデ | 回転ナデ ナデ | わずかに細粒砂含む | | 202114 000097 |
| 104 | 第35図 図版19 | SK260 | 須恵器 | 皿 | 17.2 | 14.8 | 2.3 | にぶい黄～ 黄灰 | 黄灰 | 回転ナデ ヘラ切り後ナデ | 回転ナデ | 粗粒砂含む | | 202114 000099 |
| 105 | 第35図 図版19 | SK260 | 須恵器 | 皿 | 17.4 | 14.2 | 2.5 | 灰～灰白 | 灰～灰白 | 回転ナデ ヘラ切り後ナデ | 回転ナデ | ほぼ精良 わずかに極粗 粒砂・細粒砂含む | | 202114 000054 |
| 106 | 第35図 図版19 | SK260 | 須恵器 | 皿 | (17.8) | (14.6) | 2.2 | 灰 | 灰 | 回転ナデ ヘラ切り後ナデ | 回転ナデ | ほぼ精良 わずかに細礫・ 中粒砂・細粒砂含む | | 202114 000055 |
| 107 | 第36図 図版19 | SK260 | 土製品 | 土錘 | (3.6) | 1.5 | 1.5 | にぶい橙 | にぶい橙 | ナデ | | 雲母含む | | 202114 000062 |
| 108 | 第36図 図版19 | SK260 | 土製品 | 土錘 | 4.7 | 2.0 | 1.7 | 黒 | - | ナデ | | | | 202114 000073 |
| 109 | 第36図 図版19 | SK260 | 土製品 | 土錘 | 4.4 | 1.2 | 1.1 | 浅黄橙 | 浅黄橙 | ナデ | | | | 202114 000083 |
| 110 | 第36図 図版19 | SK260 | 土製品 | 土錘 | 5.5 | 1.9 | 1.8 | 灰白～褐灰 | - | ナデ | | | | 202114 000072 |
| 111 | 第36図 図版19 | SK260 | 土製品 | 土錘 | 6.1 | 3.1 | 3.1 | にぶい橙～ 褐灰 | - | ナデ | | | | 202114 000074 |
| 112 | 第36図 図版19 | SK260 | 土製品 | 土錘 | 6.9 | 1.1 | 1.1 | にぶい黄褐～ にぶい黄橙 | にぶい黄褐 | ナデ | | 雲母・粗粒砂含む | | 202114 000061 |
| 113 | 第36図 図版19 | SK260 | 土製品 | 土錘 | 5.8 | 1.4 | 1.3 | 灰白 | 灰白 | ナデ | | 雲母・粗粒砂含む | | 202114 000081 |
| 114 | 第36図 図版20 | SK260 | 土製品 | 土錘 | 6.0 | 2.0 | 1.8 | 黒褐～灰褐 | 黒褐～灰褐 | ナデ | | 中粒砂含む | | 202114 000082 |
| 115 | 第36図 図版20 | SK260 | 土製品 | 土錘 | 6.1 | 2.1 | 1.7 | にぶい橙 ～褐灰 | - | ナデ | | | | 202114 000071 |
| 116 | 第36図 図版20 | SK260 | 鉄製品 | 刀子 | (5.8) | 1.0 | 0.4 | | | | | | 重さ 5.5 g | 202114 000354 |
| 117 | 第36図 図版20 | SK260 | 鉄製品 | 鋤先 | 20.9 | 13.4 | 0.5～ 1.8 | | | | | | 重さ 541.3 g | 202114 000361 |
| 118 | 第36図 図版20 | SK523 | 土師器 | 塊 | (20.1) | (12.6) | 5.6 | 橙 | 橙 | 回転ナデ ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ | 雲母・細礫含む | 全体的に摩滅 外面剥離している | 202114 000117 |
| 119 | 第36図 図版20 | SK548 | 鉄製品 | 釘 | (3.5) | 0.6 | 0.5 | | | | | | 重さ 4.6 g | 202114 000355 |
| 120 | 第36図 図版20 | SK548 | 鉄製品 | 釘 | (3.5) | 0.6 | 0.5 | | | | | | 重さ 3.6 g | 202114 000356 |
| 121 | 第36図 図版20 | SK549 | 土師器 | 坏 | - | - | 3.6 | 灰黄褐～橙 | 灰黄褐 | 回転ナデ ナデ | 回転ナデ | ほぼ精良 細礫含む | | 202114 000118 |
| 122 | 第36図 図版20 | SK549 | 鉄製品 | 刀子 | (5.6) | 1.7 | 0.3 | | | | | | 重さ 13.4 g | 202114 000357 |
| 123 | 第36図 図版20 | SK560 | 土師器 | 坏 | (14.1) | (10.8) | 3.1 | 橙 ～にぶい褐 | にぶい橙 ～にぶい褐 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | 赤色粒子・雲母・細礫含 む | 門歯痕あり 全体的に摩滅 | 202114 000119 |
| 124 | 第36図 図版20 | SK560 | 土師器 | 坏 | (14.0) | (12.5) | 3.1 | にぶい橙～ 橙 | にぶい黄橙 ～にぶい黄橙 | 回転ナデ 手持ちヘラケズリ | 回転ナデ | ほぼ精良 赤色粒子・雲母含む | 全体的に摩滅 | 202114 000122 |
| 125 | 第36図 図版20 | SK560 | 土師器 | 坏 | (15.2) | (9.0) | 2.8 | にぶい橙 ～灰褐 | にぶい橙 ～灰褐 | 回転ナデ ヘラケズリ後ナデ | 回転ナデ ナデ | わずかに赤色粒子・雲母 含む | | 202114 000123 |
| 126 | 第36図 図版20 | SK560 | 土師器 | 坏 | (16.2) | (14.1) | 2.8 | 橙～褐灰 | 橙 | 回転ナデ ナデ 手持ちヘラケズリ? | 回転ナデ ナデ | 赤色粒子・雲母多く含む | | 202114 000120 |
| 127 | 第36図 図版20 | SK560 | 土師器 | 高坏 | - | 12.0 | (4.3) | 橙 | 橙 | 回転ナデ | 回転ナデ ナデ | 赤色粒子・長石・雲母含 む | | 202114 000121 |
| 128 | 第36図 図版20 | SK560 | 須恵器 | 蓋 | (15.2) | - | (1.5) | 灰 | 灰 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ後ナデ | 回転ナデ | ほぼ精良 わずかに極粗粒砂含む | | 202114 000124 |
| 129 | 第36図 図版20 | SK560 | 鉄製品 | 刀子 | (3.8) | 0.7 | 0.4 | | | | | | 重さ 4.4 g | 202114 000358 |
| 130 | 第36図 図版20 | SK561 | 土師器 | 蓋 | (15.2) | - | 2.8 | にぶい橙～ 浅黄橙 | にぶい橙 | 回転ナデ ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ? | 精良 | 門歯痕あり 全体的に摩滅 | 202114 000128 |
| 131 | 第36図 図版20 | SK561 | 土師器 | 坏 | (14.4) | (10.2) | 3.9 | 橙～浅黄橙 | にぶい橙 | ナデ? | ナデ? | 赤色粒子・角閃石・雲母・ 中粒砂含む | 外面摩滅 | 202114 000125 |
| 132 | 第36図 図版21 | SK561 | 土師器 | 坏 | (13.2) | (9.4) | 4.5 | にぶい橙 | にぶい橙 | 回転ナデ? ヘラケズリ? | 回転ナデ? ナデ? | わずかに赤色粒子・雲母 含む | 全体的に摩滅 | 202114 000130 |
| 133 | 第36図 図版21 | SK561 | 土師器 | 坏 | (20.2) | (14.2) | 6.0 | にぶい橙～ 橙 | にぶい橙 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ後ナデ | 回転ナデ | 赤色粒子・雲母・中粒砂 含む | 内面一部剥離 | 202114 000126 |
| 134 | 第36図 図版21 | SK561 | 土師器 | 皿 | (15.0) | (13.6) | 2.7 | にぶい橙 | 橙 | 回転ナデ ヘラケズリ ヘラ切り | 回転ナデ? ナデ | 精良 | 全体的に摩滅 | 202114 000131 |
| 135 | 第36図 図版21 | SK561 | 土師器 | 皿 | (15.2) | (13.8) | 2.8 | 橙 ～にぶい橙 | にぶい橙 ～橙 | 回転ナデ ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ? | 精良 わずかに雲母含む | 全体的に摩滅 | 202114 000132 |
| 136 | 第36図 図版21 | SK561 | 土師器 | 皿 | (16.0) | (12.2) | 2.0 | にぶい橙 | にぶい橙 | 回転ナデ? | 回転ナデ? ナデ? | 雲母・極粗粒砂含む | 全体的に摩滅 | 202114 000127 |
| 137 | 第36図 図版21 | SK561 | 土師器 | 鉢 | (35.2) | - | (8.7) | にぶい褐～ 褐灰 | にぶい橙 | 回転ナデ ナデ ハケ目 指オサエ | 回転ナデ ナデ? | 赤色粒子・雲母・細礫含 む | 外面一部煤付着 黒斑あり | 202114 000133 |
| 138 | 第36図 図版21 | SK561 | 須恵器 | 坏 | (13.8) | 9.3 | 4.1 | 灰黄～黄灰 | 黄灰 | 回転ナデ ナデ ヘラ切り後ナデ | 回転ナデ ナデ | 精良 | | 202114 000129 |

III. 調査の記録

第4表 出土遺物観察表4

| 遺物 番号 | 図面 図版 番号 | 遺構 | 材質 | 器種 | 法量 | | | 色調 | | 調整 | | 胎土 | 備考 | 登録 番号 |
|----------|----------------|-------|-----|-----|-----------|-----------|-----------|----------------|----------------|-----------------------------|--------------|-----------------------------|--------------------|------------------|
| | | | | | 口径 (長) | 底径 (幅) | 器高 (厚) | 外面 | 内面 | 外面 | 内面 | | | |
| 139 | 第36図 図版21 | SK561 | 須惠器 | 環 | (12.4) | (8.0) | 4.3 | 灰白～褐灰 | 褐灰 | 回転ナデ ナデ | 回転ナデ ナデ | ほぼ精良 わずかに中粒砂含む | | 202114 000134 |
| 140 | 第36図 図版21 | SK561 | 鉄製品 | 刀子 | (7.6) | 1.3 | 0.5 | | | | | | 重さ 12.2g 木質が残存か | 202114 000359 |
| 141 | 第36図 図版21 | SK562 | 土師器 | 環 | - | (8.9) | 1.0 | にぶい黄橙 ～にぶい橙 | にぶい黄橙 | 回転ナデ? ナデ | 回転ナデ ナデ | ほぼ精良 | 全体的に摩滅 | 202114 000136 |
| 142 | 第36図 図版21 | SK562 | 須惠器 | 環 | - | 8.5 | (1.2) | 灰 | 灰 | 回転ナデ ナデ | ナデ | ほぼ精良 わずかに粗粒砂含む | | 202114 000137 |
| 143 | 第36図 図版21 | SK562 | 土師器 | 脚部 | (17.5) | 4.1 | 3.6 | 明赤褐 ～にぶい赤褐 | - | ナデ | ナデ? | 赤色粒子・雲母・角閃石・ 極粗粒砂～中礫多く含む | 被熱痕あり | 202114 000135 |
| 144 | 第37図 図版21 | SK563 | 須惠器 | 環 | - | (11.0) | (3.0) | 灰白 | 灰黄褐 | 回転ナデ ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ | ほぼ精良 わずかに中粒砂含む | | 202114 000138 |
| 145 | 第37図 図版21 | SK563 | 須惠器 | 環 | (12.4) | (8.2) | 4.9 | 灰 | 灰 | 回転ナデ ナデ 回転ヘラケ ズリ ヘラ切り後ナデ | 回転ナデ | ほぼ精良 わずかに粗粒砂含む | | 202114 000139 |
| 146 | 第37図 図版21 | SK564 | 土師器 | 環 | (13.6) | (9.4) | 3.1 | にぶい黄橙 ～浅黄橙 | 橙 | 回転ナデ ナデ 回転ヘラケズリ ヘラ切り | 回転ナデ | ほぼ精良 わずかに赤色 粒子・雲母・中粒砂含む | 全体的に摩滅 | 202114 000140 |
| 147 | 第37図 図版21 | SK564 | 土師器 | 環 | (14.0) | (10.6) | 3.1 | 橙 | 橙 | ナデ | ナデ | ほぼ精良 | 全体的に摩滅 | 202114 000141 |
| 148 | 第37図 図版21 | SK864 | 土師器 | 環 | - | - | (2.5) | 褐灰～ にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ ヘラ切り | 回転ナデ | ほぼ精良 わずかに粗粒砂含む | 外面黒斑あり 全体的に摩滅 | 202114 000147 |
| 149 | 第37図 図版21 | SK881 | 土師器 | 環 | - | - | (3.5) | にぶい橙 | 黒褐 ～にぶい橙 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ後ナデ | 回転ナデ ナデ? | 精良 | スス附着 黒斑あり | 202114 000163 |
| 150 | 第37図 図版22 | SK881 | 土師器 | 環 | (17.0) | (12.4) | 4.3 | にぶい黄橙 ～にぶい橙 | 橙～ にぶい黄橙 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ | 雲母含む わずかに細礫・ 極粗粒砂含む | | 202114 000148 |
| 151 | 第37図 図版22 | SK881 | 土師器 | 環 | (14.9) | 10.9 | 3.4 | にぶい黄橙 ～褐灰 | にぶい黄橙 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | 極粗粒を含む | 門歯痕あり ●印あり | 202114 000156 |
| 152 | 第37図 図版22 | SK881 | 土師器 | 環 | 15.0 | 11.8 | 3.9 | にぶい橙 | にぶい黄橙 ～灰黄褐 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ後ナデ | 回転ナデ ナデ | 精良 わずかに赤色粒子含む | ●印あり | 202114 000157 |
| 153 | 第37図 図版22 | SK881 | 土師器 | 環 | 14.9 | 10.8 | 3.8 | にぶい橙 ～褐灰 | にぶい橙 | 回転ナデ ヘラケズリ 板状圧痕 | 回転ナデ ナデ | 精良 | ●印あり 門歯痕・黒斑あり | 202114 000159 |
| 154 | 第37図 図版22 | SK881 | 土師器 | 環 | - | - | (0.9) | にぶい橙 ～橙 | にぶい橙 | 回転ナデ? 回転ヘラケズリ | 回転ナデ | 雲母含む わずかに粗粒 砂・極粗粒砂含む | ●印あり | 202114 000149 |
| 155 | 第37図 図版22 | SK881 | 土師器 | 脚部 | (19.9) | 4.7 | 3.5 | 橙 | 橙 | ヘラケズリ ナデ 指オサエ | ナデ? | 雲母・極粗粒砂多く含む | | 202114 000160 |
| 156 | 第37図 図版22 | SK881 | 土師器 | 脚部 | (10.8) | 3.0 | 3.5 | 灰白 ～明黄褐 | 灰白 ～明黄褐 | 指オサエ ナデ | | 雲母・角閃石・細礫・極 粗粒砂含む | | 202114 000150 |
| 157 | 第37図 図版22 | SK881 | 須惠器 | 蓋 | 15.3 | 1.6 | 1.6 | 灰 | 灰 | 回転ナデ ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | わずかに細礫含む | | 202114 000158 |
| 158 | 第37図 図版22 | SK881 | 須惠器 | 蓋 | 15.9 | 2.0 | 2.0 | 灰 | 灰 | 回転ナデ ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | 雲母・中礫・極粗粒砂・ 粗粒砂含む | | 202114 000154 |
| 159 | 第37図 図版22 | SK881 | 須惠器 | 蓋 | (17.0) | - | (3.1) | 灰黄～黄灰 | 灰黄～黄灰 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | ほぼ精良 極粗粒砂・粗粒砂含む | | 202114 000153 |
| 160 | 第37図 図版22 | SK881 | 須惠器 | 蓋 | (14.2) | 2.5 | 2.5 | 灰～灰白 | 灰 | 回転ナデ ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | 精良 | ヘラ記号あり | 202114 000161 |
| 161 | 第37図 図版22 | SK881 | 須惠器 | 環 | (12.4) | (9.8) | 4.1 | 黄灰～灰 | 灰 | 回転ナデ ナデ ヘラ切り後ナデ | 回転ナデ | ほぼ精良 極粗粒砂・粗粒砂含む | | 202114 000151 |
| 162 | 第37図 図版22 | SK881 | 須惠器 | 環 | (13.9) | (10.6) | 4.4 | 灰白～ にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | 回転ナデ ナデ | 回転ナデ | 粗粒砂・中粒砂含む | | 202114 000152 |
| 163 | 第37図 図版22 | SK881 | 須惠器 | 長頸壺 | 12.1 | - | (15.6) | 暗灰～黄灰 | 灰～黄灰 | 回転ナデ ナデ しぼり痕 | 回転ナデ しぼり痕 | わずかに細礫含む | | 202114 000162 |
| 164 | 第37図 図版23 | SK881 | 土製品 | 土鍾 | (4.8) | 1.9 | 1.7 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | ナデ | | 雲母・角閃石・中粒砂含 む | | 202114 000155 |
| 165 | 第37図 図版23 | SK882 | 土師器 | 蓋 | (19.2) | - | (2.8) | 灰白 | 灰白 | 回転ナデ ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | 精良 | 全体的に摩滅 | 202114 000179 |
| 166 | 第37図 図版23 | SK882 | 土師器 | 環 | (14.4) | (11.9) | 3.4 | 橙 ～にぶい褐 | にぶい橙 | 回転ナデ ナデ ヘラ切り後ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | 雲母多く含む 赤色粒子少し含む | 門歯痕あり | 202114 000196 |
| 167 | 第37図 図版23 | SK882 | 土師器 | 環 | (12.7) | (9.1) | 4.4 | 橙 | 橙 | 回転ナデ 不明 | 回転ナデ | 赤色粒子・雲母・中粒砂・ 中礫多く含む | 外面摩滅 | 202114 000192 |
| 168 | 第37図 図版23 | SK882 | 土師器 | 環 | (14.6) | (12.4) | 3.6 | 橙～にぶい 黄橙 | 橙 | 回転ナデ | 回転ナデ ナデ | 雲母多く含む 赤色粒子・ 中粒砂少し含む | 全体的に摩滅 | 202114 000195 |
| 169 | 第37図 図版23 | SK882 | 土師器 | 環 | (14.8) | (10.5) | 3.7 | 明赤褐 | 明赤褐～橙 | 回転ナデ | 回転ナデ | 赤色粒子多く含む 雲母・細粒砂を含む | 被熱痕あり 全体的に摩滅 | 202114 000200 |
| 170 | 第37図 図版23 | SK882 | 土師器 | 環 | (14.7) | (10.3) | 3.4 | 明赤褐～橙 | にぶい黄橙 ～にぶい褐 | 回転ナデ ヘラ切り? | 回転ナデ | 雲母・中粒砂を多く含む 赤色粒子・細礫を含む | 全体的に摩滅 | 202114 000187 |
| 171 | 第37図 図版23 | SK882 | 土師器 | 環 | (16.5) | (14.8) | (4.5) | 橙 ～にぶい褐 | 橙 | 回転ナデ 手持ちヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | 赤色粒子・雲母・粗粒砂 含む | | 202114 000186 |
| 172 | 第37図 図版23 | SK882 | 土師器 | 環 | (16.2) | (12.3) | (4.5) | 橙 | 橙 | 回転ナデ | 回転ナデ | ほぼ精良 赤色粒子・雲母少し含む | 門歯痕・黒斑あり 全体的に摩滅 | 202114 000201 |
| 173 | 第37図 図版23 | SK882 | 土師器 | 環 | (21.0) | (15.4) | 4.9 | 橙～ にぶい黄橙 | 橙～浅黄橙 | 回転ナデ ヘラ切り後回転ヘラケズリ | 回転ナデ | 赤色粒子・雲母・極粗粒 砂含む | 門歯痕あり | 202114 000197 |
| 174 | 第37図 図版23 | SK882 | 土師器 | 環 | - | 10.1 | (0.9) | にぶい橙 | にぶい橙 | 回転ナデ? ヘラ切り後回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | ほぼ精良 わずかに赤色 粒子・雲母含む | ヘラ記号あり | 202114 000173 |
| 175 | 第37図 図版23 | SK882 | 土師器 | 環 | (13.5) | (10.0) | 2.9 | にぶい橙 ～浅黄橙 | 浅黄橙 | 回転ナデ ヘラ切り後回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | 精良 わずかに赤色粒子・ 雲母含む | ヘラ記号あり | 202114 000175 |
| 176 | 第37図 図版23 | SK882 | 土師器 | 環 | 14.7 | 10.7 | 3.9 | 橙 ～にぶい橙 | にぶい黄橙 | 回転ナデ ナデ ヘラ切り後回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | 赤色粒子・雲母・中粒砂 含む 極粗粒砂少し含む | ●印あり 門歯痕あり | 202114 000189 |
| 177 | 第38図 図版23 | SK882 | 土師器 | 環 | - | (13.6) | (1.7) | にぶい橙 | にぶい橙 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ? | 回転ナデ ナデ | 精良 | ●印あり | 202114 000164 |
| 178 | 第38図 図版23 | SK882 | 土師器 | 環 | - | 10.9 | (1.4) | 橙 ～にぶい褐 | にぶい橙 | 回転ナデ ヘラ切り後回転ヘラケズリ | 回転ナデ | 赤色粒子・雲母・中粒砂 含む | ●印あり | 202114 000194 |
| 179 | 第38図 図版23 | SK882 | 土師器 | 環 | - | - | (0.8) | にぶい黄橙 | 浅黄橙 | 不明 | ナデ | 赤色粒子・雲母・中粒砂 含む 極粗粒砂少し含む | ●印あり 外面摩滅 | 202114 000193 |
| 180 | 第38図 図版24 | SK882 | 土師器 | 環 | - | - | 1.0 | にぶい橙 | にぶい橙 | ヘラ切り ナデ | 回転ナデ | ほぼ精良 雲母・極粗粒砂含む | ●印あり | 202114 000172 |
| 181 | 第38図 図版24 | SK882 | 土師器 | 環 | - | - | (0.6) | にぶい橙 | 橙 | ヘラ切り | ナデ? | 精良 | ●印あり | 202114 000169 |
| 182 | 第38図 図版24 | SK882 | 土師器 | 環 | - | - | (0.9) | 橙～黄灰 | にぶい橙 | ヘラ切り後回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | 赤色粒子・雲母・細粒砂 含む 中礫少し含む | ●印あり | 202114 000199 |
| 183 | 第38図 図版24 | SK882 | 土師器 | 環 | - | - | (1.0) | 橙 ～にぶい橙 | にぶい黄橙 ～にぶい橙 | 回転ナデ? 回転ヘラケズリ? | 回転ナデ? | 赤色粒子・雲母・粗粒砂 含む | ●印あり | 202114 000191 |
| 184 | 第38図 図版24 | SK882 | 土師器 | 環 | (14.4) | (9.7) | 2.8 | 橙 | 橙 | 回転ナデ 手持ちヘラケズリ | 回転ナデ | 精良 わずかに赤色粒子・ 雲母含む | | 202114 000177 |

第5表 出土遺物観察表5

| 遺物 番号 | 図面 図版 番号 | 遺構 | 材質 | 器種 | 法量 | | | 色調 | | 調整 | | 胎土 | 備考 | 登録 番号 |
|----------|----------------|-------|-----|----------|-----------------|-----------|---------------|--------------|-------------|-------------------------|---------|----------------------------|--------------------------|------------------|
| | | | | | 口径 (長) | 底径 (幅) | 器高 (厚) | 外面 | 内面 | 外面 | 内面 | | | |
| 185 | 第38図 図版24 | SK882 | 土師器 | 環 | (15.4) | (13.0) | 2.6 | にぶい橙 | 橙 ～にぶい橙 | 回転ナデ ヘラ切り? | 回転ナデ ナデ | 赤色粒子・雲母・中粒砂 含む 極粗粒砂少し含む | 門歯痕あり 全体的に摩滅 | 202114 000188 |
| 186 | 第38図 図版24 | SK882 | 土師器 | 皿 | (14.8) | (11.6) | 2.0 | 橙 | 橙 ～にぶい橙 | 回転ナデ ナデ 手持ちヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | 精良 わずかに雲母含む | | 202114 000174 |
| 187 | 第38図 図版24 | SK882 | 土師器 | 皿 | (15.5) | (12.7) | 2.3 | にぶい橙 ～橙 | にぶい橙 | 回転ナデ ヘラ切り後回転ヘラケズリ | 回転ナデ | 精良 わずかに赤色粒子含む | 門歯痕あり | 202114 000176 |
| 188 | 第38図 図版24 | SK882 | 土師器 | 皿 | (18.0) | (13.1) | 2.9 | にぶい橙 ～灰褐 | にぶい橙 ～灰褐 | 回転ナデ ヘラ切り後回転ヘラケズリ | 回転ナデ | 赤色粒子・雲母・中粒砂 含む 角閃石少し含む | ●印あり | 202114 000202 |
| 189 | 第38図 図版24 | SK882 | 土師器 | 皿 | 16.8 | 12.6 | 3.1～ 2.8 | にぶい褐 | 褐灰 | 回転ナデ ヘラ切り後ナデ | 回転ナデ ナデ | わずかに雲母・細礫含む | ●印あり | 202114 000203 |
| 190 | 第38図 図版24 | SK882 | 土師器 | 皿 | 17.2 | 12.6 | 3.0 | にぶい褐 | 灰褐 ～にぶい橙 | 回転ナデ ヘラ切り後ナデ | 回転ナデ ナデ | わずかに赤色粒子・雲母 含む | ●印あり | 202114 000204 |
| 191 | 第38図 図版24 | SK882 | 土師器 | 皿 | (18.8) | (13.8) | 2.7 | にぶい橙 | にぶい橙 | 回転ナデ ヘラ切り後回転ヘラケズリ? | 回転ナデ | 精良 | 門歯痕か? ヘラ記号あり | 202114 000178 |
| 192 | 第38図 図版24 | SK882 | 土師器 | 高環 | (21.4) | - | (2.5) | にぶい橙 | にぶい橙 | 回転ナデ ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | 精良 | ●印・ヘラ記号あり 165・166は同一か | 202114 000165 |
| 193 | 第38図 図版24 | SK882 | 土師器 | 高環 | - | - | (2.4) | にぶい橙 | にぶい橙 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ後ナデ | 回転ナデ ナデ | 精良 | ●印・ヘラ記号あり 165・166は同一か | 202114 000166 |
| 194 | 第38図 図版25 | SK882 | 土師器 | 鉢 | - | 18.1 | (8.7) | 橙 | 橙 | 回転ナデ ヘラ切り | 回転ナデ | 赤色粒子・雲母含む 極粗粒砂・中礫少し含む | 全体的に摩滅 | 202114 000180 |
| 195 | 第38図 図版25 | SK882 | 土師器 | 鉢 | - | - | 7.6 | 橙 | 橙～黄橙 | 回転ナデ ヘラ切り後ナデ | 回転ナデ ナデ | 赤色粒子・雲母含む わずかに中礫含む | 被熱痕あり 全体的に摩滅 | 202114 000181 |
| 196 | 第38図 図版25 | SK882 | 土師器 | 甕 | (32.2) | - | (28.8) | 明黄褐～橙 | 橙 | ハケ目 ナデ | ケズリ ナデ | 赤色粒子・雲母・粗粒砂・ 極粗粒砂・中礫含む | 黒斑あり | 202114 000182 |
| 197 | 第38図 図版25 | SK882 | 須恵器 | 蓋 | (14.6) | - | 1.5 | 褐灰 | 褐灰 | 回転ナデ ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | 精良 | 粘土付着 | 202114 000205 |
| 198 | 第38図 図版25 | SK882 | 須恵器 | 蓋 | (15.4) | - | (1.6) | 黄灰 | 灰～黄灰 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ後ナデ | 回転ナデ ナデ | 精良 | | 202114 000167 |
| 199 | 第38図 図版25 | SK882 | 須恵器 | 蓋 | (15.8) | - | 2.4 | にぶい黄橙 ～灰白 | にぶい黄橙 | 回転ナデ ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | わずかに細礫含む | | 202114 000206 |
| 200 | 第38図 図版25 | SK882 | 須恵器 | 環 | - | 8.2 | (1.7) | 褐灰 | 灰白 | 回転ナデ ヘラ切り | 回転ナデ ナデ | 雲母・極粗粒砂含む | | 202114 000183 |
| 201 | 第38図 図版25 | SK882 | 須恵器 | 環 | (13.8) | (10.4) | 4.0 | 黄灰 | 灰白 | 回転ナデ ナデ ヘラ切り | 回転ナデ | 雲母・中粒砂・極粗粒砂 含む | | 202114 000184 |
| 202 | 第38図 図版25 | SK882 | 須恵器 | 高環 | - | 11.4 | (5.9) | 灰褐～灰 | 灰白 | 回転ナデ ナデ しぼり痕 | 回転ナデ ナデ | 中粒砂含む | | 202114 000198 |
| 203 | 第38図 図版25 | SK882 | 須恵器 | 高環 | (21.6) | (12.4) | (8.3) | にぶい橙 ～褐灰 | 褐灰～灰褐 | 回転ナデ ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | 精良 | | 202114 000170 |
| 204 | 第38図 図版25 | SK882 | 須恵器 | 高環 | 19.9 | 10.7 | (6.3～ 7.6) | 灰 | 灰 | 回転ナデ ナデ 回転ヘラケズリ しぼり痕 | 回転ナデ ナデ | 精良 | | 202114 000171 |
| 205 | 第38図 図版25 | SK882 | 須恵器 | 長頸壺 | - | 11.2 | (21.7) | 黄灰 | 灰白 | 回転ナデ ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | 精良 | | 202114 000207 |
| 206 | 第39図 図版25 | SK882 | 土製品 | 土鍾 | 5.4 | 2.0 | 1.9 | にぶい橙 | - | ナデ | | 赤色粒子・雲母含む | | 202114 000168 |
| 207 | 第39図 図版25 | SK882 | 土製品 | 土鍾 | 5.2 | 2.0 | 2.0 | にぶい橙 | - | ナデ | | 赤色粒子・雲母含む | | 202114 000190 |
| 208 | 第39図 図版25 | SK882 | 鉄製品 | 刀子 | (4.3) | 1.0 | 0.3 | | | | | | 重さ 3.0 g | 202114 000364 |
| 209 | 第39図 図版25 | SK882 | 鉄製品 | 刀子 | (4.2) | 0.6 | 0.4 | | | | | | 重さ 3.6 g | 202114 000365 |
| 210 | 第39図 図版25 | SK882 | 鉄製品 | 刀子 | (4.3) | 0.7 | 0.6 | | | | | | 重さ 5.4 g | 202114 000366 |
| 211 | 第39図 図版26 | SK882 | 鉄滓 | 鉄滓 | 6.6 | 5.6 | 1.7 | | | | | | 重さ 81.1 g | 202114 000367 |
| 212 | 第39図 図版26 | SK882 | 石製品 | 石鐮 | 2.9 | 2.0 | 0.5 | 黒 | | | | | 黒曜石 重さ 2.9 g | 202114 000185 |
| 213 | 第39図 図版25 | SK987 | 土師器 | 環 | (18.0) | (13.4) | 4.5 | 橙 ～にぶい橙 | にぶい橙 | 回転ヘラケズリ | 回転ナデ? | わずかに細礫・中礫含む | 黒斑あり 全体的に摩滅 | 202114 000213 |
| 214 | 第39図 図版26 | SK989 | 土師器 | 甕 | - | - | (15.5) | 橙 | 橙～黄灰 | ハケ目 ナデ | ナデ | 赤色粒子・雲母・粗粒砂 含む 中礫少し含む | | 202114 000214 |
| 215 | 第39図 図版26 | SK992 | 土師器 | 蓋 | (12.9) | - | 2.3 | 橙 | 橙 | 回転ヘラケズリ ナデ | 回転ナデ ナデ | 赤色粒子・細粒砂含む | 門歯痕あり 全体的に摩滅 | 202114 000232 |
| 216 | 第39図 図版26 | SK992 | 土師器 | 蓋 | (13.9) | - | 3.1 | 浅黄橙 | 橙 | ケズリ ナデ | ナデ? | 赤色粒子含む | 門歯痕あり 全体的に摩滅 | 202114 000231 |
| 217 | 第39図 図版26 | SK992 | 土師器 | 蓋 | 15.5 | - | 3.4 | 浅黄橙～橙 | 橙 | 回転ナデ ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | 赤色粒子含む | 口縁部ゆがみあり | 202114 000233 |
| 218 | 第39図 図版26 | SK992 | 土師器 | 蓋 | (17.2) | (12.7) | 2.1 | にぶい橙 | にぶい黄橙 | 回転ナデ ヘラ切り後回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | ほぼ精良 赤色粒子含む | ヘラ記号あり | 202114 000224 |
| 219 | 第39図 図版26 | SK992 | 土師器 | 環 | (13.0) | (8.5) | 2.9 | 灰白～橙 | 浅黄橙～橙 | 不明 | 不明 | ほぼ精良 赤色粒子多く含む | 全体的に摩滅 | 202114 000217 |
| 220 | 第39図 図版26 | SK992 | 土師器 | 環 | (13.0) | (10.6) | 3.8 | 橙 | 橙 | 回転ナデ | 回転ナデ | ほぼ精良 赤色粒子含む | 全体的に摩滅 | 202114 000223 |
| 221 | 第39図 図版26 | SK992 | 土師器 | 環 | - | (11.0) | (2.2) | にぶい黄橙 | 橙 | 回転ナデ ヘラ切り後回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | ほぼ精良 赤色粒子含む | | 202114 000222 |
| 222 | 第39図 図版26 | SK992 | 土師器 | 環 | (15.0) | (10.0) | 3.7 | 橙 | にぶい橙 ～橙 | 回転ナデ ヘラ切り後回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | ほぼ精良 わずかに赤色 粒子・雲母含む | 門歯痕あり | 202114 000220 |
| 223 | 第39図 図版26 | SK992 | 土師器 | 環 | (14.8) | (10.1) | 3.1 | 橙 | 橙 | 回転ナデ ヘラ切り後回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | ほぼ精良 わずかに赤色 粒子・雲母含む | | 202114 000221 |
| 224 | 第39図 図版26 | SK992 | 土師器 | 環 | (15.1) | (11.4) | 2.9 | 橙 | にぶい橙 | 回転ナデ ヘラ切り後回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | ほぼ精良 わずかに赤色 粒子・雲母含む | | 202114 000218 |
| 225 | 第39図 図版26 | SK992 | 土師器 | 環 | (15.2) | (11.7) | 3.2 | 橙 | 橙 ～にぶい橙 | 回転ナデ ヘラ切り後回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | ほぼ精良 わずかに赤色 粒子・雲母含む | | 202114 000219 |
| 226 | 第39図 図版26 | SK992 | 土師器 | 環 | 16.6 | 10.2 | 5.6 | にぶい橙 ～黄橙 | にぶい橙 | 回転ナデ ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | 赤色粒子・粗粒砂含む | 門歯痕・黒斑あり 全体的に摩滅 | 202114 000230 |
| 227 | 第39図 図版27 | SK992 | 土師器 | 環 | (12.8) | (9.0) | 3.9 | 橙 ～にぶい橙 | にぶい橙 ～橙 | 回転ナデ ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ | 赤色粒子・粗粒砂含む | 黒斑あり | 202114 000228 |
| 228 | 第39図 図版27 | SK992 | 土師器 | 環 | (13.8) | (9.3) | 4.3 | 明赤褐～橙 | 浅黄橙～橙 | 回転ナデ ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ | 赤色粒子・雲母・微粒砂 含む | 黒斑あり? | 202114 000227 |
| 229 | 第39図 図版27 | SK992 | 土師器 | 高台付 皿 | (13.0) | (9.0) | 2.7 | 橙 | 橙～明黄褐 | 回転ナデ ナデ ヘラ切り | 回転ナデ | 赤色粒子・粗粒砂含む | 黒斑あり | 202114 000229 |
| 230 | 第39図 図版27 | SK992 | 土師器 | 皿 | (18.8～ 19.5) | (12.6) | (2.1～ 2.7) | にぶい橙 ～橙 | にぶい橙 ～橙 | 回転ナデ ヘラ切り後回転ヘラケズリ | 回転ナデ | ほぼ精良 わずかに赤色 粒子・雲母含む | 歪み著しい | 202114 000225 |

III. 調査の記録

第6表 出土遺物観察表6

| 遺物番号 | 図面図版番号 | 遺構 | 材質 | 器種 | 法量 | | | 色調 | | 調整 | | 胎土 | 備考 | 登録番号 |
|------|--------------|--------|-----|----------|--------|--------|---------------|--------------|----------------|----------------------|--------------------|----------------------|--------------------|------------------|
| | | | | | 口径(長) | 底径(幅) | 器高(厚) | 外面 | 内面 | 外面 | 内面 | | | |
| 231 | 第39図 図版27 | SK992 | 土師器 | 皿 | (18.5) | (14.5) | 2.8 | 橙～浅黄橙 | にぶい橙～ 浅黄橙 | 回転ナデ ヘラ切り後回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | 赤色粒子・雲母・極細粒 砂含む | 門歯痕あり ヘラ記号あり | 202114 000226 |
| 232 | 第39図 図版27 | SK992 | 土師器 | 把手付 甕 | (35.0) | - | (13.2) | 橙 | 浅黄橙 | ハケ目 ナデ ヘラケズリ | ヘラケズリ ナデ 指オサエ | 細礫含む | 全体的に摩滅 | 202114 000234 |
| 233 | 第39図 図版27 | SK992 | 須恵器 | 蓋 | (14.3) | - | 2.6 | 灰 | 灰 | 回転ナデ ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | 精良 | | 202114 000215 |
| 234 | 第39図 図版27 | SK992 | 須恵器 | 甕 | (15.8) | - | (5.3) | 褐灰 | 暗赤灰 | 回転ナデ 沈線 | 回転ナデ 青海波文タタキ | 精良 わずかに角閃石含む | | 202114 000216 |
| 235 | 第39図 図版27 | SK992 | 土製品 | 土錘 | 5.3 | 3.1 | 3.0 | 橙～灰褐 | 明赤褐 | 指オサエ? | | 赤色粒子含む | | 202114 000235 |
| 236 | 第39図 図版27 | SK992 | 鉄滓 | 鉄滓 | 8.8 | 8.1 | 2.5 | | | | | | 重さ 209.7 g | 202114 000368 |
| 237 | 第40図 図版27 | SK994 | 土師器 | 蓋 | (16.5) | - | (1.8) | にぶい橙 | にぶい橙 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | 精良 わずかに赤色粒子・ 雲母含む | 門歯痕あり | 202114 000253 |
| 238 | 第40図 図版27 | SK994 | 土師器 | 環 | 12.8 | 8.7 | 3.3～ 3.0 | にぶい黄橙 ～褐灰 | にぶい黄橙 | 回転ナデ ヘラ切り後回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | 精良 | 内面摩滅 | 202114 000239 |
| 239 | 第40図 図版27 | SK994 | 土師器 | 環 | (12.8) | 8.7 | 4.1 | にぶい橙 | 橙 ～にぶい橙 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ後回転ナデ | 回転ナデ ナデ | 赤色粒子含む | 門歯痕あり | 202114 000238 |
| 240 | 第40図 図版27 | SK994 | 土師器 | 環 | (13.6) | (9.8) | 3.1 | 浅黄橙～橙 | 橙 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ? | 回転ナデ ナデ | 赤色粒子・雲母含む | 門歯痕あり ヘラ記号あり | 202114 000236 |
| 241 | 第40図 図版27 | SK994 | 土師器 | 環 | 13.0 | 8.1 | 3.3 | 橙 | 橙 | ナデ? 回転ヘラケズリ | ナデ? | 赤色粒子含む | 門歯痕あり 全体的に摩滅 | 202114 000237 |
| 242 | 第40図 図版28 | SK994 | 土師器 | 皿 | (15.9) | (12.0) | 2.4 | にぶい橙 | にぶい橙 | 回転ナデ ヘラ切り後回転ヘラケズリ | 回転ナデ | 精良 わずかに赤色粒子・ 雲母含む | | 202114 000252 |
| 243 | 第40図 図版28 | SK994 | 土師器 | 鉢 | - | (13.8) | (8.6) | 橙 | 橙～ にぶい黄橙 | 回転ヘラケズリ ナデ | 回転ナデ? | 赤色粒子含む | 全体的に摩滅 | 202114 000241 |
| 244 | 第40図 図版28 | SK994 | 土師器 | 鉢 | (22.3) | (14.8) | 13.7 | 橙 | 橙～灰黄 | 回転ナデ? ヘラ切り? | 不明 | わずかに赤色粒子含む | 黒斑あり 全体的に摩滅 | 202114 000240 |
| 245 | 第40図 図版28 | SK994 | 土師器 | 把手付 甕 | (24.0) | - | (14.0) | 橙 | にぶい赤褐 ～にぶい橙 | ハケ目 ケズリ ナデ | ハケ目 ナデ 指オサエ | わずかに雲母・細礫含む | 外面一部剥離 | 202114 000243 |
| 246 | 第40図 図版28 | SK994 | 土師器 | 鍋 | 29.4 | - | 20.7～ 21.2 | にぶい橙 ～褐灰 | 橙 ～にぶい橙 | 回転ナデ ヘラケズリ後ナデ | 不明 | 赤色粒子・極粗粒砂含む | 黒斑あり 全体的に摩滅 | 202114 000242 |
| 247 | 第40図 図版28 | SK994 | 土師器 | 脚部 | (19.6) | 3.8 | 4.5 | にぶい橙 ～褐灰 | - | ナデ? 指オサエ | ナデ | 雲母・細礫含む | 黒斑あり | 202114 000244 |
| 248 | 第40図 図版28 | SK994 | 須恵器 | 環 | (14.0) | (9.8) | 4.1 | 黄灰～灰 | 黄灰 | 回転ナデ ナデ ヘラ切り | 回転ナデ | 粗粒砂・中粒砂含む | | 202114 000245 |
| 249 | 第40図 図版28 | SK994 | 須恵器 | 高環 | (22.8) | (13.0) | 9.2 | 黄灰～褐灰 | 灰黄～黄灰 | 回転ナデ ナデ | 回転ナデ ナデ | 粗粒砂含む わずかに細礫含む | ヘラ記号あり | 202114 000246 |
| 250 | 第40図 図版28 | SK994 | 土製品 | 土錘 | 5.9 | 1.9 | 1.8 | にぶい黄橙 | - | ナデ | | 精良 わずかに赤色粒子・ 雲母含む | | 202114 000254 |
| 251 | 第40図 図版28 | SK994 | 土製品 | 土錘 | 5.4 | 2.2 | 2.0 | 橙 | - | ナデ | | 精良 わずかに赤色粒子・ 雲母含む | | 202114 000255 |
| 252 | 第40図 図版28 | SK994 | 土製品 | 粘土塊 | 5.4 | 4.4 | 2.1 | 橙 | - | | | 赤色粒子・雲母・角閃石 粗粒砂含む | スサ痕あり | 202114 000248 |
| 253 | 第40図 図版28 | SK994 | 土製品 | 粘土塊 | (5.2) | (3.7) | (2.6) | 橙 | - | | | 雲母・角閃石・粗粒砂含 む | スサ痕あり | 202114 000249 |
| 254 | 第40図 図版28 | SK994 | 土製品 | 粘土塊 | 8.8 | 7.6 | 6.4 | 橙 | - | | | 雲母・中粒砂・極粗粒砂 含む | スサ痕あり | 202114 000247 |
| 255 | 第40図 図版28 | SK995 | 土師器 | 環 | (13.2) | (8.2) | 4.2 | にぶい橙 ～橙 | にぶい橙 ～橙 | 回転ナデ ヘラ切り後回転ヘラケズリ | 回転ナデ | ほぼ精良 赤色粒子多く含む | 門歯痕あり | 202114 000256 |
| 256 | 第40図 図版28 | SK995 | 須恵器 | 蓋 | - | - | (2.0) | 褐灰 | 褐灰 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | 精良 | | 202114 000258 |
| 257 | 第40図 図版28 | SK995 | 須恵器 | 蓋 | (15.8) | - | (2.1) | 褐灰 | 褐灰 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ | 精良 | | 202114 000257 |
| 258 | 第40図 図版29 | SK996 | 土師器 | 環 | - | (9.6) | (3.5) | 橙～明赤褐 | にぶい赤褐 ～橙 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | ほぼ精良 赤色粒子・雲母含む | | 202114 000259 |
| 259 | 第40図 図版29 | SK996 | 須恵器 | 環 | - | 9.8 | 2.0 | 灰白 | 灰白 | 回転ナデ ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ | 雲母・極粗粒砂含む | | 202114 000260 |
| 260 | 第40図 図版29 | SK996 | 須恵器 | 転用硯 | - | - | 1.4 | 灰白～灰黄 | 灰黄 | 回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ 回転ヘラケズリ | 赤色粒子含む | 蓋の転用 | 202114 000261 |
| 261 | 第40図 図版29 | SK998 | 土師器 | 環 | (14.0) | 9.7 | 3.6 | にぶい橙 ～褐灰 | にぶい橙 | 回転ナデ 不明 | 回転ナデ ナデ | ほぼ精良 赤色粒子含む | 門歯痕・黒斑あり 全体的に摩滅 | 202114 000268 |
| 262 | 第40図 図版29 | SK998 | 土師器 | 環 | (14.4) | 10.4 | 4.1 | にぶい橙 ～浅黄橙 | にぶい黄橙 | 回転ヘラケズリ | 不明 | わずかに雲母・中粒砂含 む | 門歯痕あり 全体的に摩滅 | 202114 000273 |
| 263 | 第40図 図版29 | SK998 | 土師器 | 環 | (15.4) | (11.2) | 3.7 | 灰褐 ～にぶい橙 | にぶい赤褐 ～にぶい橙 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | 精良 わずかに赤色粒子・ 雲母含む | | 202114 000262 |
| 264 | 第40図 図版29 | SK998 | 土師器 | 皿 | (19.2) | (15.0) | 2.1 | 橙～浅黄橙 | 橙 ～にぶい橙 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | 精良 わずかに赤色粒子・ 雲母含む | | 202114 000269 |
| 265 | 第40図 図版29 | SK998 | 土師器 | 皿 | (17.8) | (11.0) | 2.5 | 橙～ にぶい黄橙 | にぶい橙 | 回転ナデ ヘラ切り | 回転ナデ | わずかに雲母・細粒砂含 む | 内面摩滅 | 202114 000274 |
| 266 | 第41図 図版29 | SK998 | 須恵器 | 蓋 | 13.1 | - | 2.3 | 褐灰 | 灰白～褐灰 | 回転ナデ ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ | 精良 わずかに雲母含む | | 202114 000267 |
| 267 | 第41図 図版29 | SK998 | 須恵器 | 蓋 | (17.8) | - | 2.2 | 黄灰 | 浅黄橙 | 回転ナデ ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | 角閃石・細礫・粗粒砂・ 中粒砂含む | | 202114 000272 |
| 268 | 第41図 図版29 | SK998 | 須恵器 | 環 | (14.6) | (9.0) | 3.9 | 灰 | 灰白 | 回転ナデ ナデ ヘラ切り後ナデ | 回転ナデ | 精良 | ヘラ記号あり | 202114 000265 |
| 269 | 第41図 図版29 | SK998 | 須恵器 | 環 | (14.2) | 11.2 | 3.6 | 灰 | 灰 | 回転ナデ ヘラ切り | 回転ナデ ナデ | 精良 | 内面に粘土塊付着 | 202114 000264 |
| 270 | 第41図 図版29 | SK998 | 須恵器 | 環 | (13.0) | (10.8) | 2.3 | 灰 | 灰 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ | 極粗粒砂含む | | 202114 000271 |
| 271 | 第41図 図版29 | SK998 | 須恵器 | 環 | (15.0) | (11.6) | 4.5 | 黄灰～ にぶい赤褐 | にぶい赤褐 ～褐灰 | 回転ナデ ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | 精良 | | 202114 000266 |
| 272 | 第41図 図版29 | SK998 | 須恵器 | 環 | (16.6) | (11.3) | 5.3 | 褐灰 | 灰白 | 回転ナデ ナデ ヘラ切り | 回転ナデ ナデ | 精良 わずかに赤色粒子含む | | 202114 000270 |
| 273 | 第41図 図版29 | SK1004 | 土師器 | 蓋 | (16.2) | | 2.7 | 橙 | 橙 | ナデ | ナデ? | 赤色粒子・雲母・中粒砂 含む | 全体的に摩滅 | 202114 000280 |
| 274 | 第41図 図版29 | SK1004 | 土師器 | 環 | (13.0) | (9.8) | 2.7 | 橙 | 橙 | 不明 | 不明 | 赤色粒子・粗粒砂含む | 黒斑あり 全体的に摩滅 | 202114 000276 |
| 275 | 第41図 図版30 | SK1004 | 土師器 | 環 | (13.0) | (9.6) | 3.9 | にぶい黄橙 ～橙 | 灰白 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | 雲母・中流砂含む | 黒斑あり | 202114 000277 |
| 276 | 第41図 図版30 | SK1004 | 土師器 | 環 | (14.4) | (9.6) | 3.6 | 橙～ にぶい黄橙 | 灰白 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ | 赤色粒子・中粒砂・粗粒 砂含む | 黒斑あり | 202114 000275 |

第7表 出土遺物観察表7

| 遺物番号 | 図面図版番号 | 遺構 | 材質 | 器種 | 法量 | | | 色調 | | 調整 | | 胎土 | 備考 | 登録番号 |
|------|--------------|--------|-----|-----|--------|--------|--------|-------------|-------------|----------------------|----------|---|------------------|------------------|
| | | | | | 口径(長) | 底径(幅) | 器高(厚) | 外面 | 内面 | 外面 | 内面 | | | |
| 277 | 第41図 図版30 | SK1004 | 土師器 | 環 | (13.2) | (8.2) | 3.0 | 橙 | 橙 | 不明 | 不明 | 赤色粒子含む | ヘラ記号あり 全体的に摩滅 | 202114 000278 |
| 278 | 第41図 図版30 | SK1004 | 土師器 | 環 | (11.2) | (7.4) | 4.1 | 橙 | 橙 | ナデ? | ナデ? | 赤色粒子・細粒砂含む | 全体的に摩滅 | 202114 000279 |
| 279 | 第41図 図版30 | SK1009 | 土師器 | 環 | (14.8) | 10.0 | 3.4 | 橙 | 橙～灰黄 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | 雲母・中粒砂含む | | 202114 000281 |
| 280 | 第41図 図版30 | SK1009 | 須恵器 | 甕 | (20.6) | - | 5.1 | 灰黄褐 ～灰黄 | 灰 | 回転ナデ | 回転ナデ タタキ | ほぼ精良 粗粒砂含む | 自然釉付着 | 202114 000282 |
| 281 | 第41図 図版30 | SK1107 | 土師器 | 鉢 | - | (16.0) | (12.5) | 橙 | 橙 | 回転ナデ? ナデ | 回転ナデ | 赤色粒子多く含む わずかに極粗粒砂含む | 外面摩滅 | 202114 000287 |
| 282 | 第41図 図版30 | SK1107 | 須恵器 | 環 | (13.6) | (8.9) | 4.0 | 灰～黄灰 | 灰 | 回転ナデ ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | 粗粒砂多く含む 雲母・中礫含む | | 202114 000289 |
| 283 | 第41図 図版30 | SK1107 | 須恵器 | 甕 | - | - | (5.5) | 灰 | 灰 | 回転ナデ 波状文 | 回転ナデ ナデ | 細粒砂多く含む 雲母・極粗粒砂少し含む | | 202114 000288 |
| 284 | 第41図 図版30 | SK1123 | 土師器 | 環 | - | (10.8) | 2.0 | 橙 | 橙 | 不明 | 不明 | ほぼ精良 | 全体的に摩滅 | 202114 000285 |
| 285 | 第41図 図版30 | SK1192 | 土師器 | 蓋 | (20.0) | - | 3.2 | 橙 | にぶい橙 ～橙 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ | わずかに雲母・角閃石・ 細礫・中粒砂含む | | 202114 000296 |
| 286 | 第41図 図版30 | SK1192 | 土師器 | 蓋 | (21.5) | - | 4.5 | 橙～ にぶい黄橙 | 橙 | 回転ナデ ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ? | ほぼ精良 赤色粒子・赤色粒子含む | 門歯痕あり 内面摩滅 | 202114 000295 |
| 287 | 第41図 図版30 | SK1192 | 土師器 | 環 | (14.3) | (12.3) | 4.3 | 橙～ にぶい橙 | 橙 | 回転ナデ ヘラ切り後回転ヘラケズリ | 回転ナデ | 赤色粒子・雲母・角閃石 含 む わずかに極粗粒砂含む | | 202114 000291 |
| 288 | 第41図 図版30 | SK1192 | 土師器 | 環 | (13.6) | - | (3.1) | にぶい橙 | 橙～ にぶい橙 | 回転ナデ? | 回転ナデ? | 赤色粒子・雲母多く含む わずかに細礫含む | 全体的に摩滅 | 202114 000293 |
| 289 | 第41図 図版30 | SK1192 | 土師器 | 環 | (14.7) | (10.6) | 3.5 | 明赤褐 | 明赤褐 | 手持ちヘラケズリ ナデ? | ナデ? | 雲母・細礫・極粗粒砂・ 粗粒砂含む | 黒斑あり 全体的に摩滅 | 202114 000300 |
| 290 | 第41図 図版30 | SK1192 | 土師器 | 環 | (13.6) | (9.6) | 3.7 | 橙 | 橙 | 回転ナデ ヘラ切り後回転ヘラケズリ | 回転ナデ | ほぼ精良 赤色粒子・雲母少し含む | 黒斑あり 器壁の剥離 | 202114 000292 |
| 291 | 第41図 図版30 | SK1192 | 土師器 | 環 | - | - | (3.3) | 橙 | 橙 | 回転ナデ 手持ちヘラケズリ? | 回転ナデ ナデ? | 赤色粒子・雲母含む 粗粒砂少し含む | | 202114 000290 |
| 292 | 第41図 図版31 | SK1192 | 土師器 | 環 | (18.4) | (13.0) | 5.2 | 橙 | 橙 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ | 雲母含む わずかに中粒砂含む | 黒斑あり | 202114 000299 |
| 293 | 第41図 図版31 | SK1192 | 土師器 | 環 | (17.8) | 11.5 | 6.2 | にぶい黄橙 ～橙 | にぶい黄橙 ～橙 | 回転ナデ ナデ ヘラ切り | 回転ナデ | 赤色粒子・雲母含む 極粗粒砂少し含む | 黒斑あり | 202114 000294 |
| 294 | 第41図 図版31 | SK1192 | 土師器 | 甕 | (16.8) | (9.0) | 12.0 | にぶい橙 ～橙 | 橙 | ケズリ ナデ | ケズリ ナデ? | 角閃石・中礫・粗粒砂含 む | 被熱痕あり 全体的に摩滅 | 202114 000297 |
| 295 | 第41図 図版31 | SK1192 | 土師器 | 脚部 | (17.3) | (9.5) | 4.1 | にぶい橙 | 橙 | 指オサエ ナデ | | 雲母・角閃石・極粗粒砂 含む | | 202114 000298 |
| 296 | 第42図 図版31 | SK1192 | 鉄製品 | 釘 | (3.1) | 0.6 | 0.6 | | | | | | 重さ 3.7 g | 202114 000377 |
| 297 | 第42図 図版31 | SK1192 | 鉄製品 | 釘 | (2.0) | 0.5 | 0.3 | | | | | | 重さ 3.4g | 202114 000374 |
| 298 | 第42図 図版31 | SK1192 | 鉄製品 | 釘 | (3.4) | - | - | | | | | | 重さ 2.7 g | 202114 000375 |
| 299 | 第42図 図版31 | SK1193 | 鉄製品 | 釘 | 10.7 | 0.7 | 0.7 | | | | | | 重さ 18.6 g | 202114 000371 |
| 300 | 第42図 図版31 | SK1192 | 鉄製品 | 鏝 | (5.9) | 0.6 | 0.3 | | | | | | 重さ 9.3 g | 202114 000373 |
| 301 | 第42図 図版31 | SK1192 | 鉄製品 | 鉈 | (5.0) | 0.8 | 0.6 | | | | | | 重さ 4.5 g | 202114 000376 |
| 302 | 第42図 図版31 | SK1192 | 鉄製品 | 鎌 | 15.0 | 2.3 | 0.6 | | | | | | 重さ 55.0 g | 202114 000378 |
| 303 | 第42図 図版31 | SK1192 | 鉄製品 | 不明 | 8.1 | 4.4 | 0.4 | | | | | | 重さ 36.9 g | 202114 000379 |
| 304 | 第42図 図版31 | SK1192 | 鉄製品 | 不明 | (4.6) | 2.4 | 0.3 | | | | | | 重さ 9.2 g | 202114 000380 |
| 305 | 第42図 図版31 | SK1193 | 土師器 | 蓋 | - | - | (2.2) | 橙 | にぶい橙 | 回転ナデ ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | 雲母・粗粒砂含む | 黒斑あり? | 202114 000301 |
| 306 | 第42図 図版31 | SK1194 | 須恵器 | 環 | (15.0) | (10.8) | 3.9 | 灰黄～灰黄 | 黄灰 ～暗灰黄 | 回転ナデ ナデ ヘラ切り後ナデ | 回転ナデ | ほぼ精良 ごくわずかに中粒砂含む わずかに雲母・中粒砂含 む | | 202114 000302 |
| 307 | 第42図 図版31 | SK1194 | 土製品 | 粘土塊 | (6.9) | (5.6) | (3.8) | にぶい橙 | 橙 | | | | | 202114 000303 |
| 308 | 第42図 図版31 | SK1210 | 土師器 | 蓋 | (21.0) | - | (2.1) | 橙 | にぶい橙 | 回転ナデ | 回転ナデ | 赤色粒子・極細粒砂含む | 門歯痕あり | 202114 000313 |
| 309 | 第42図 図版31 | SK1210 | 土師器 | 環 | (12.8) | (10.8) | 3.0 | 橙 | 橙 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ後ナデ | 回転ナデ ナデ | 赤色粒子含む | 全体的に摩滅 | 202114 000318 |
| 310 | 第42図 図版32 | SK1210 | 土師器 | 環 | (18.0) | (15.3) | 4.5 | 橙 | 橙 | 回転ナデ | 回転ナデ ナデ | 赤色粒子含む | 全体的に摩滅 | 202114 000317 |
| 311 | 第42図 図版32 | SK1210 | 土師器 | 環 | (16.8) | (14.8) | (3.7) | 橙 | 橙～灰褐 | 回転ナデ 手持ちヘラケズリ後ナデ? | 回転ナデ ナデ | 赤色粒子・角閃石・極細 粒砂含む | 器壁の剥離 | 202114 000312 |
| 312 | 第42図 図版32 | SK1210 | 土師器 | 環 | - | (13.5) | (2.5) | 橙 ～にぶい橙 | 橙 ～にぶい橙 | 回転ナデ? 手持ちヘラケズリ? | 不明 | 赤色粒子・雲母含む | 被熱痕あり 器壁の剥離 | 202114 000322 |
| 313 | 第42図 図版32 | SK1210 | 土師器 | 環 | - | (13.2) | (0.8) | にぶい橙 | にぶい橙 | ヘラケズリ ナデ? | ナデ? | 雲母含む わずかに粗粒砂含む | ヘラ記号あり 全体的に摩滅 | 202114 000305 |
| 314 | 第42図 図版32 | SK1210 | 土師器 | 環 | (14.6) | (14.0) | 3.3 | にぶい橙 | にぶい橙 | 回転ナデ 手持ちヘラケズリ | 回転ナデ ナデ? | 赤色粒子・雲母含む | ヘラ記号あり | 202114 000321 |
| 315 | 第42図 図版32 | SK1210 | 土師器 | 環 | 15.2 | 13.7 | 3.7 | 橙～明赤褐 | 橙 | 回転ナデ ナデ 手持ちヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | 赤色粒子・角閃石・細粒 砂含む | ヘラ記号あり | 202114 000308 |
| 316 | 第42図 図版32 | SK1210 | 土師器 | 環 | 16.6 | 11.4 | 3.8 | 灰白 | 灰白 | 回転ナデ ナデ ヘラ切り後ナデ | 回転ナデ ナデ | わずかに角閃石・粗粒砂 含む | | 202114 000306 |
| 317 | 第42図 図版32 | SK1210 | 土師器 | 環 | (15.4) | 10.9 | 4.1 | 浅黄橙 | 浅黄橙 | 回転ナデ ナデ? | 回転ナデ? ナデ | 雲母・極粗粒砂・粗粒砂 含む | ヘラ記号あり 全体的に摩滅 | 202114 000307 |
| 318 | 第42図 図版32 | SK1210 | 土師器 | 皿 | (15.0) | (12.9) | 2.9 | 橙 | 橙 | 回転ナデ? 回転ヘラ切り? | 回転ナデ? | わずかに赤色粒子・雲母 含む | 全体的に摩滅 | 202114 000324 |
| 319 | 第42図 図版32 | SK1210 | 土師器 | 皿 | (15.7) | 13.5 | 2.6 | 橙 | 橙 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ後ナデ | 回転ナデ ナデ? | 雲母・極粗粒砂・中粒砂・ 細礫・中礫含む | 器壁の剥離 | 202114 000319 |
| 320 | 第42図 図版32 | SK1210 | 土師器 | 皿 | (14.2) | (12.2) | 2.5 | 橙～ にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | 回転ナデ? 手持ちヘラケズリ? | 回転ナデ ナデ | 赤色粒子・雲母含む わずかに極粗粒砂含む | 全体的に摩滅 | 202114 000323 |
| 321 | 第42図 図版32 | SK1210 | 土師器 | 皿 | (17.5) | 14.8 | 2.7 | 明赤褐 ～黄橙 | 浅黄橙 | 回転ナデ 手持ちヘラケズリ | 回転ナデ? ナデ | 赤色粒子・雲母・角閃石 含む | ●印あり | 202114 000309 |
| 322 | 第42図 図版32 | SK1210 | 土師器 | 皿 | (19.0) | (16.6) | 2.4 | 橙～灰黄褐 | 橙 | 回転ナデ 手持ちヘラケズリ後ナデ? | 回転ナデ ナデ | 赤色粒子・雲母・角閃石 含む | 門歯痕あり | 202114 000310 |

III. 調査の記録

第8表 出土遺物観察表8

| 遺物番号 | 図面図版番号 | 遺構 | 材質 | 器種 | 法量 | | | 色調 | | 調整 | | 胎土 | 備考 | 登録番号 |
|------|--------------|--------|----------|----------|--------|--------|-----------------|--------------|-------------|----------------------------|-----------------|--------------------------|---------------------------|------------------|
| | | | | | 口径(長) | 底径(幅) | 器高(厚) | 外面 | 内面 | 外面 | 内面 | | | |
| 323 | 第42図 図版32 | SK1210 | 土師器 | 皿 | (16.0) | (14.9) | 3.2 | 橙 | 橙～黄橙 | 回転ナデ 手持ちヘラケズリ後ナデ? | 回転ナデ ナデ 指オサエ | 角閃石含む | | 202114 000311 |
| 324 | 第42図 図版33 | SK1210 | 土師器 | 皿 | 16.7 | - | 2.8 | にぶい橙 ～橙 | にぶい黄橙 | 回転ナデ | 回転ナデ ナデ? | 赤色粒子・雲母含む わずかに粗粒砂含む | ヘラ記号・門面痕あり 全体的に摩滅 | 202114 000320 |
| 325 | 第42図 図版32 | SK1210 | 土師器 | 甕 | 19.8 | - | 13.7 | にぶい橙 | 橙～明赤褐 | ハケ目 ナデ | ケズリ ナデ | 雲母・赤色粒子・粗粒砂 含む | 黒斑あり | 202114 000325 |
| 326 | 第43図 図版33 | SK1210 | 土師器 | 甕 | (25.0) | - | (24.0) | 明褐～橙 | 橙 | ハケ目 ナデ 指オサエ | 指オサエ | 赤色粒子・極粗粒砂・細礫・ 中礫含む | 煤付着か | 202114 000326 |
| 327 | 第43図 図版33 | SK1210 | 土師器 | 甕 | (23.0) | - | 28.2 | 橙 | 橙 | ハケ目 ナデ 指オサエ | ナデ | 雲母・角閃石・中礫・細礫・ 粗粒砂含む | 黒斑あり 内面一部煤?付着 | 202114 000327 |
| 328 | 第43図 図版33 | SK1210 | 土師器 | 把手付 甕 | 34.2 | - | (20.6) | 橙～浅黄橙 | 橙 | ハケ目 オサエ ナデ | ケズリ ナデ | 赤色粒子・雲母・粗粒砂・ 中礫含む | 外面黒斑あり | 202114 000328 |
| 329 | 第43図 図版33 | SK1210 | 土師器 | 甕 | - | 10.9 | (4.9) | 橙 | 橙 | ケズリ | ケズリ | 赤色粒子・雲母・粗粒砂 含む | 底部6孔中、未完 了穿孔1箇所あり | 202114 000329 |
| 330 | 第43図 図版33 | SK1210 | 須恵器 | 蓋 | (19.8) | - | 3.0 | 灰 | 灰～暗灰 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | 細礫含む | | 202114 000314 |
| 331 | 第43図 図版33 | SK1210 | 須恵器 | 蓋 | (18.9) | - | 2.5 | 灰 | 灰 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | 赤色粒子・細礫含む | | 202114 000315 |
| 332 | 第43図 図版33 | SK1210 | 須恵器 | 環 | (14.0) | (10.6) | 3.4 | 灰 | 黄灰 | 回転ナデ ナデ ヘラ切り | 回転ナデ | 赤色粒子含む | | 202114 000330 |
| 333 | 第43図 図版33 | SK1210 | 鉄製品 | 釘 | (6.8) | 0.8 | 0.6 | | | | | | 重さ 8.3 g | 202114 000382 |
| 334 | 第43図 図版33 | SK1210 | 鉄製品 | 釘 | (3.6) | 0.6 | 0.6 | | | | | | 重さ 3.3 g | 202114 000384 |
| 335 | 第43図 図版33 | SK1200 | 鉄滓 | 鉄滓 | 5.4 | 4.0 | 2.7 | | | | | | 重さ 53.5 g | 202114 000381 |
| 336 | 第43図 図版33 | SK1210 | 石製品 | 紡錘車 | 3.0 | - | 1.0 | 灰 | | | | | 滑石製、放射状の線 刻あり 重さ11.9 g | 202114 000316 |
| 337 | 第43図 図版33 | SK1212 | 土師器 | 蓋 | (19.6) | | 3.0 | 橙 | 橙 | 回転ナデ ナデ ヘラ切り後回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | 精良 雲母含む | | 202114 000344 |
| 338 | 第43図 図版33 | SK1212 | 土師器 | 環 | (11.8) | (8.6) | 3.1 | 橙～ にぶい黄橙 | 橙 | 回転ナデ ヘラ切り? | 回転ナデ | 精良 | | 202114 000332 |
| 339 | 第43図 図版33 | SK1212 | 土師器 | 環 | (18.6) | (13.8) | 4.8 | 橙 | にぶい橙 | 回転ナデ ヘラケズリ後ナデ? | 回転ナデ ナデ | 赤色粒子含む | | 202114 000333 |
| 340 | 第43図 図版34 | SK1212 | 土師器 | 環 | 18.4 | 14.4 | 5.5 | 橙～にぶい 橙 | 橙～浅黄橙 | 回転ナデ ヘラ切り後回転ヘ ラケズリ・回転ナデ | 回転ナデ ナデ | 精良 わずかに赤色粒子・ 雲母含む | | 202114 000343 |
| 341 | 第43図 図版34 | SK1212 | 土師器 | 環 | - | (12.2) | 2.2 | にぶい橙 ～灰褐 | にぶい橙 | 回転ナデ ヘラ切り後回転ヘ ラケズリ・ナデ | ナデ? | 精良 わずかに赤色粒子・ 角閃石・雲母含む | ヘラ記号あり | 202114 000340 |
| 342 | 第43図 図版34 | SK1212 | 土師器 | 環 | (15.2) | (12.4) | 3.3 | 橙～褐灰 | 橙 | 回転ナデ ヘラ切り後回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | 精良 わずかに赤色粒子 含む | ヘラ記号あり | 202114 000341 |
| 343 | 第44図 図版34 | SK1212 | 土師器 | 環 | (14.8) | (12.8) | 3.1 | にぶい橙 ～橙 | にぶい橙 ～橙 | ナデ | ナデ | ほぼ精良 角閃石・雲母含む | 全体的に摩滅 | 202114 000342 |
| 344 | 第44図 図版34 | SK1212 | 土師器 | 環 | (16.0) | (12.2) | 3.5 | にぶい橙 | にぶい橙 | 回転ナデ ヘラ切り | 回転ナデ ナデ | ほぼ精良 わずかに赤色粒子含む | 全体的に摩滅 | 202114 000339 |
| 345 | 第44図 図版34 | SK1212 | 土師器 | 高環 | - | 10.7 | (8.1) | 橙 | 黄橙 | 回転ナデ? | 回転ナデ ナデ | 赤色粒子・雲母・極粗粒 砂含む | 全体的に摩滅 | 202114 000338 |
| 346 | 第44図 図版34 | SK1212 | 土師器 | 高環 | (21.6) | - | (9.9) | 橙 ～にぶい褐 | 橙 ～にぶい橙 | 回転ナデ ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | 赤色粒子・雲母・極粗粒砂・ しぼり痕 | ヘラ記号あり 黒斑あり | 202114 000345 |
| 347 | 第44図 図版34 | SK1212 | 土師器 | 甕 | (23.4) | - | (10.2) | にぶい橙 | にぶい橙 | ハケ目 ナデ | ケズリ ナデ | 角閃石・雲母・細礫極粗 粒砂・粗粒砂含む | | 202114 000346 |
| 348 | 第44図 図版34 | SK1212 | 土師器 | 脚部 | (17.3) | (4.7) | 4.4 | 橙 ～にぶい橙 | 橙 | ナデ | ナデ | 雲母・角閃石・極粗粒砂・ 粗粒砂含む | 黒斑あり | 202114 000347 |
| 349 | 第44図 図版34 | SK1212 | 土師器 | カマド | (18.0) | (10.0) | (2.8) | 浅黄橙 | 褐灰 | ハケ目 ナデ | ハケ目 ナデ | 中礫～極粗粒砂含む | 一部剥離 | 202114 000348 |
| 350 | 第44図 図版34 | SK1212 | 須恵器 | 蓋 | 16.3 | - | (3.1) | にぶい橙 ～黄灰 | にぶい橙 ～黄灰 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ後回転ナデ | 回転ナデ ナデ | 雲母・中粒砂・細礫含む | | 202114 000334 |
| 351 | 第44図 図版34 | SK1212 | 須恵器 | 蓋 | (15.6) | - | (1.9) | 灰 | 黄灰 | 回転ナデ ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | 中礫含む | | 202114 000337 |
| 352 | 第44図 図版34 | SK1212 | 須恵器 | 蓋 | (15.6) | - | (1.9) | 灰黄～灰 | 灰黄～灰 | 回転ナデ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ ナデ | 極粗粒砂含む | 内面摩滅 | 202114 000336 |
| 353 | 第44図 図版34 | SK1212 | 須恵器 | 環 | 13.8 | (9.6) | 3.7 | 灰黄～灰 | 黄灰 | 回転ナデ ナデ ヘラ切り後ナデ | 回転ナデ ナデ | 細礫・中粒砂含む | | 202114 000349 |
| 354 | 第44図 図版34 | SK1212 | 須恵器 | 環 | 14.0 | 9.4 | 3.9 | 褐灰 | 褐灰 | 回転ナデ ナデ ヘラ切り後ナデ | 回転ナデ ナデ | 角閃石・粗粒砂含む | | 202114 000350 |
| 355 | 第44図 図版35 | SK1212 | 土製品 | 土錘 | (4.9) | 1.9 | 1.7 | 橙 | - | 指オサエ ナデ | | 赤色粒子・雲母・極粗粒 砂含む | | 202114 000335 |
| 356 | 第44図 図版35 | SP26 | 石製品 | 石籤 | (2.7) | 1.5 | 0.6 | 灰 | | | | | 安山岩 重さ 1.4g | 202114 000001 |
| 357 | 第44図 図版35 | SP41 | 縄文 土器 | 鉢 | - | - | (3.3)～ (4.0) | 灰褐 | 橙 | 刻目 押引文 | 条痕 | 赤色粒子・雲母・粗粒砂・ 極粗粒砂含む | 曾畑式 | 202114 000002 |
| 358 | 第44図 図版35 | SP95 | 須恵器 | 転用硯 | (14.4) | (4.6) | 3.2 | 灰黄 | にぶい黄橙 | 回転ナデ ナデ | 回転ナデ | わずかに粗粒砂・中粒砂 含む | 蓋の転用 | 202114 000019 |
| 359 | 第44図 図版35 | SP325 | 土製品 | 土錘 | 6.0 | 2.0 | 1.7 | 橙 | 橙 | ナデ | | 雲母・角閃石・粗粒砂含 む | | 202114 000108 |
| 360 | 第44図 図版35 | SP736 | 須恵器 | 壺 | (7.2) | 9.8 | 14.7 | 灰褐～ にぶい赤褐 | 褐灰～灰褐 | 回転ナデ タタキ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ | ほぼ精良 極粗粒砂含む | | 202114 000143 |
| 361 | 第44図 図版35 | SP957 | 鉄製品 | 刀子 | (4.5) | 0.7 | 0.4 | | | | | | 重さ 3.7 g | 202114 000370 |
| 362 | 第44図 図版35 | SP970 | 鉄滓? | 鉄滓 | 5.2 | 3.7 | 2.3 | | | | | | 重さ 33.3 g | 202114 000210 |
| 363 | 第44図 図版35 | SP1111 | 須恵器 | 環 | - | 9.0 | (3.2) | 灰白 | 灰白 | 回転ナデ ナデ | 回転ナデ | わずかに極粗粒砂・中粒 砂含む | | 202114 000284 |
| 364 | 第44図 図版35 | SP1162 | 土師器 | 皿 | (16.0) | (11.4) | 1.9 | 橙 | 橙 | 回転ナデ? | 回転ナデ? | ほぼ精良 赤色粒子含む | 黒斑あり 全体的に摩滅 | 202114 000286 |
| 365 | 第44図 図版35 | SP1216 | 土師器 | 環 | (12.8) | (9.8) | 3.7 | 橙 | 橙 | 回転ヘラケズリ ナデ | ナデ | 雲母・細礫・粗粒砂含む | 外面摩滅 | 202114 000353 |
| 366 | 第44図 図版35 | SP1279 | 土師器 | 皿 | (16.0) | (12.0) | 1.6 | 橙 | 橙 | 回転ナデ ヘラ切り後ナデ | 回転ナデ | 赤色粒子・雲母含む わずかに中粒砂含む | 外面摩滅 | 202114 000351 |
| 367 | 第44図 図版35 | SP1341 | 土師器 | 環 | (13.2) | (8.6) | 3.6 | 橙 | 橙 | ヘラ切り? ナデ | ナデ | 赤色粒子・中粒砂含む | 被熱痕あり 外面摩滅 | 202114 000352 |

IV. 総括

今回の調査では、縄文時代の落とし穴状遺構5基・ピット1基と奈良時代（8世紀中頃～後半）の柵列1条、掘立柱建物13棟、井戸1基、土坑29基、ピット多数を確認した。

縄文時代の遺構としては、S P 41、S K 833～834・980・1005・1006が挙げられる。

S P 41からは曾畑式土器が出土しており、縄文時代前期に位置付けられる。また、S K 833～834・980・1005・1006は落とし穴状遺構とみられる。いずれも縄文時代を示す遺物は出土していないが、平面形が隅丸長方形を呈し、過去の調査で縄文時代の落とし穴状遺構とされたものと類似することや、奈良時代に属する遺構の埋土の色調が黒～黒褐色であるのに対し、S K 833～834・980・1005～1006の埋土の色調はにぶい黄褐色～暗褐色土で明確に区別できたことから、これらを縄文時代の落とし穴状遺構として考えた。第II章で触れたように、安武地区ではこれまでの調査でも落とし穴状遺構は検出されており、落とし穴状遺構の底面のピット数によって大きく3つのタイプに分類されている⁽¹⁾。今回検出した落とし穴状遺構のうち、S K 1006のみ底面にピットが2つ以上掘削されているためC類に分類されるが、それ以外については底面は平坦でピットを有しないためA類に分類される。庄屋野台地では、A類がC類よりも多い割合であることが指摘されている⁽¹⁾が、今回の調査でも同様の傾向であることが分かった。

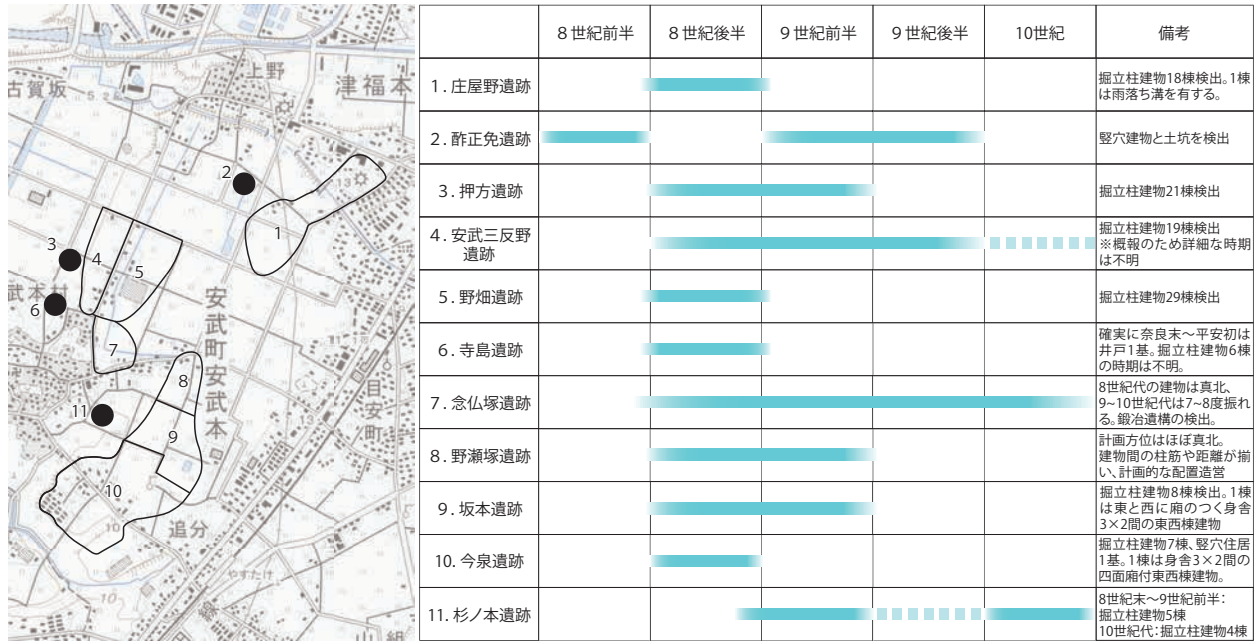
IV区からは8世紀後半代のピットに先行する南北方向の地割れ痕跡を確認した。第8次調査地から南西に60mの地点に所在する庄屋野遺跡第9次調査においても南北方向の地割れ痕跡を確認している。また、東烏遺跡の地割れ痕跡や噴砂痕が天武天皇七年（678）の筑紫大地震に相当すると考えられている^(2・3)。ピットとの重複関係から、8世紀以前に起こった地震による地割れと考えられ、それが筑紫大地震である可能性を指摘できる。

今回検出した奈良時代（8世紀中頃～後半）の掘立柱建物の計画方位は、①ほぼ真北を向くもの

第9表 掘立柱建物一覧表

| 遺構番号 | 調査区 | 規模 (m) | 棟方向 | 間数 | 主軸方位 |
|--------|------|---------------|-----|-------------|-------------|
| SB573 | II区 | 2.6 × (2.0) | | 2間 × 1間以上 | N-20.4° -W |
| SB702 | II区 | (1.6) × (1.5) | | 1間以上 × 1間以上 | N-8.7° -W |
| SB804 | III区 | (4.0) × (3.3) | | 2間以上 × 2間以上 | N-10.9° -W |
| SB805 | III区 | (4.8) × 3.6 | 東西 | 3間以上 × 2間 | N-100.3° -W |
| SB813 | III区 | (4.9) × (3.8) | 南北か | 3間以上 × 2間以上 | N-11.8° -W |
| SB836 | III区 | 9.2 | 南北か | 5間以上 | N-0.2° -E |
| SB986 | III区 | (6.7) × (3.7) | 東西 | 4間以上 × 2間以上 | N-93.7° -E |
| SB1074 | IV区 | 2.6～3.1 × 2.0 | | 2間 × 2間 | N-9.4° -W |
| SB1219 | V区 | (5.4) × 3.8 | 南北 | 3間以上 × 2間 | N-13.1° -W |
| SB1220 | V区 | (5.3) × 3.7 | 南北か | 3間以上 × 2間 | N-1.0° -W |
| SB1242 | V区 | (4.5) × 1.9 | | 3間以上 × 1間以上 | N-0.8° -E |
| SB1243 | V区 | (4.0) × (2.0) | | 2間以上 × 1間以上 | N-4.7° -W |
| SB1345 | III区 | 2.4～2.5 × 2.2 | | 2間以上 × 2間以上 | N-37.5° -W |

IV. 総括



第45図 安武地区における古代の集落の位置とその消長

(S B 836・986・1220・1242・1243)、②西に8～13°振れるもの(S B 702・804・805・813・1074・1219)、③西に20～37°振れるもの(S B 573・1345)の3つのグループに大別されるが、有意な時期差はみられない。また、S B 804・805、S B 1220・1242の重複関係から、2時期が想定されるが、出土遺物から明確な時期差を見出すことはできなかった。

第8次調査地からおよそ400 mほど南下した地点で行われた第1～3次調査では、8世紀後半から9世紀にかけての掘立柱建物群を確認しており、そのうち1棟は、雨落ち溝を有する東西棟の建物である。第1～3次調査地と第8次調査地の中間にあたる第4・9次調査でも8世紀代の土坑や古代のピットは確認されているものの、掘立柱建物は確認されていない。第8次調査地から北側または北西側にあたる第5・6次調査では、弥生時代の溝や竪穴住居は確認されているが、古代の遺構は確認されていない。以上のことから、掘立柱建物によって構成される古代の集落が第8次調査地まで広がっており、ほぼ北限にあたることが分かった。

これまでの安武地区の調査では、古代の竪穴建物は酢正免遺跡、押方遺跡、今泉遺跡で計3棟しか見つかっておらず、集落を構成する建物は、掘立柱建物が中心である。Ⅱ章でも触れているが、ここでは掘立柱建物を検出した古代の集落に着目して一度整理したい。

まず、安武地区の古代を語る上で中心となる野瀬塚遺跡と、近接する坂本遺跡・今泉遺跡について述べる。野瀬塚遺跡では、掘立柱建物が48棟検出されているが、建物群は柱筋を揃え、主軸方位を統一するなどの建物群全体が計画的な設計をもとに造営配置した様子が明らかであり、「三万大領」「□領」「三万少」などの墨書土器、「田主」のへら書き土器や陶硯・転用硯の出土を併せ、官衙施設の一部を構成する遺跡という理解がある。その性格を郷家、郡衙の機能を兼ね備えた施設や郡の出先として捉える説と「調」「庸」の製作のため、郡役人の管理下に郷単位に設けられた工房的機能を有する施設とする説が提示されている⁽⁴⁾。野瀬塚遺跡から南方に250 mの地点に所在

する今泉遺跡では、四面廂建物と計画的に配置された建物が検出されており、野瀬塚遺跡の管理・運営を行った在地有力者でもある郡司層の居宅だとされている⁽³⁾。なお、野瀬塚遺跡と今泉遺跡の中間地点にあたる坂本遺跡でも掘立柱建物群が確認されており、大きく3時期に分けられ、方位にまとまりがみられる地点(第1次調査地)とみられない地点(第4次調査地)があるが、「福」のへら書きのある須恵器や越州窯系青磁碗や「西少」のへら書き土師器などが出土している。その性格を野瀬塚遺跡の管理・運営を行った三瀨郡の徴税実務を担当する官衙とする説もある⁽⁵⁾。

野瀬塚遺跡から北西に350mの地点にある野畑遺跡では、計画方位の揃った掘立柱建物群25棟の検出の他に、8世紀後半代の「市」「大印」「小印」墨書土器が出土している。野畑遺跡の南方にあたる念仏塚遺跡では、8世紀代の建物の計画方位が真北を示すため、野瀬塚遺跡と同じ計画方位の規制の下で営まれた建物だと考えられている。9～10世紀代の建物は7～8度西に振れるようになり、鍛冶遺構とされる遺構が検出された。また、9世紀後半の「大印」「小印」と判読できる墨書土器が出土するようになるが、野畑遺跡の墨書土器よりも1世紀ほど新しい⁽⁵⁾。なお、野畑遺跡の西方にある安武三反野遺跡においても古代の掘立柱建物群が計17棟検出されているが、概要報告のため、計画方位や遺跡の性格は不明である。

このように、掘立柱建物で構成され、識字層の存在を示唆する墨書土器・へら書き土器などが出土する官衙的性格のある集落が、遺構の密度の濃淡はありながらもおよそ南北1km、東西500mの範囲の中でみられる。そしてその中心は、建物間の柱筋や計画方位を揃えた造営、墨書土器などの出土量からみて、野瀬塚遺跡と考えられる。庄屋野遺跡についても、掘立柱建物で構成されている点や、明確に判読できないものの文字が刻まれた土師器・転用硯が出土している点からも、官衙的性格を有する集落の広がり的一角として理解できよう。一方、郡や郷の施設との関係を含むより具体的な性格については、今回の調査では明らかにできなかった。なお、野瀬塚遺跡を中心に展開する官衙的な性格を有する集落は、短期間で廃絶することが特徴で、念仏塚遺跡を除くと、8世紀後半から9世紀初頭、長くても9世紀前半には一度廃絶する。庄屋野遺跡においても同様に、8世紀中頃から後半代の半世紀ほどで終焉を迎えるようである。

(1) 富永直樹 1989 「第8章 まとめと考察」『安武地区遺跡群Ⅱ 県営安武地区圃場整備事業関係に伴う埋蔵文化発掘調査報告書』久留米市文化財調査報告書第60集

A類：坑底は平坦でピット等を有しないもの。

B類：坑底の中央に径20cm程のピットを一つだけ有するもの。

C類：坑底にピットが二つ以上有するもの。

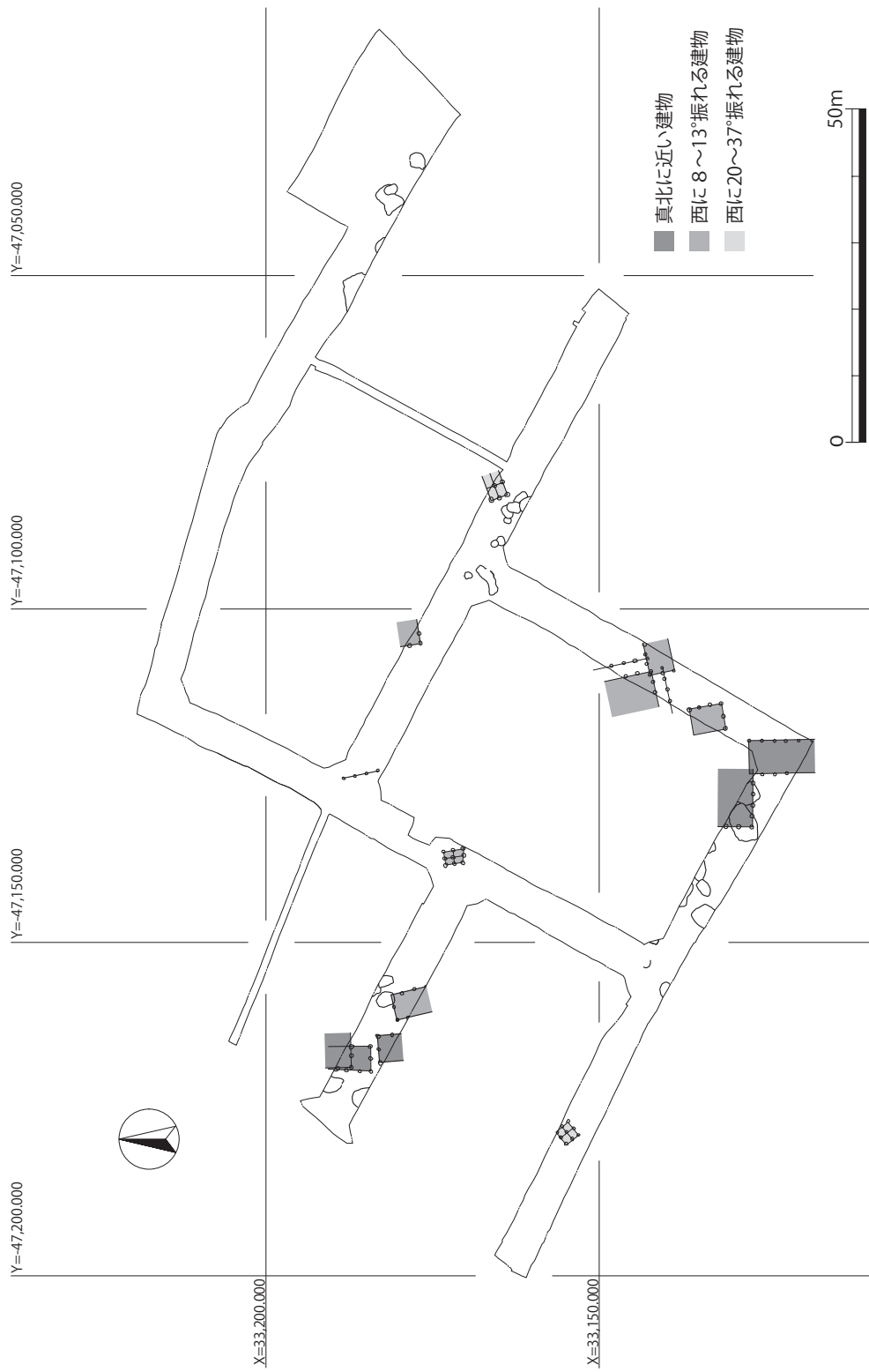
庄屋野台地においては、55基中A類35基(63.6%)、B類14基(22.5%)、C類6基(10.9%)

(2) 松村一良 1990 『『日本書紀』天武天皇七年条にみえる地震と上津土塁について』『九州史学』第98号九州史学会

(3) 松村一良 1994 「3 山川前田遺跡」『久留米市史』第12巻 資料編 久留米市

(4) 富永直樹 1994 「19 野瀬塚遺跡」『久留米市史』第12巻 資料編 久留米市

(5) 松村一良 1994 「21 安武今泉遺跡」『久留米市史』第12巻 資料編 久留米市

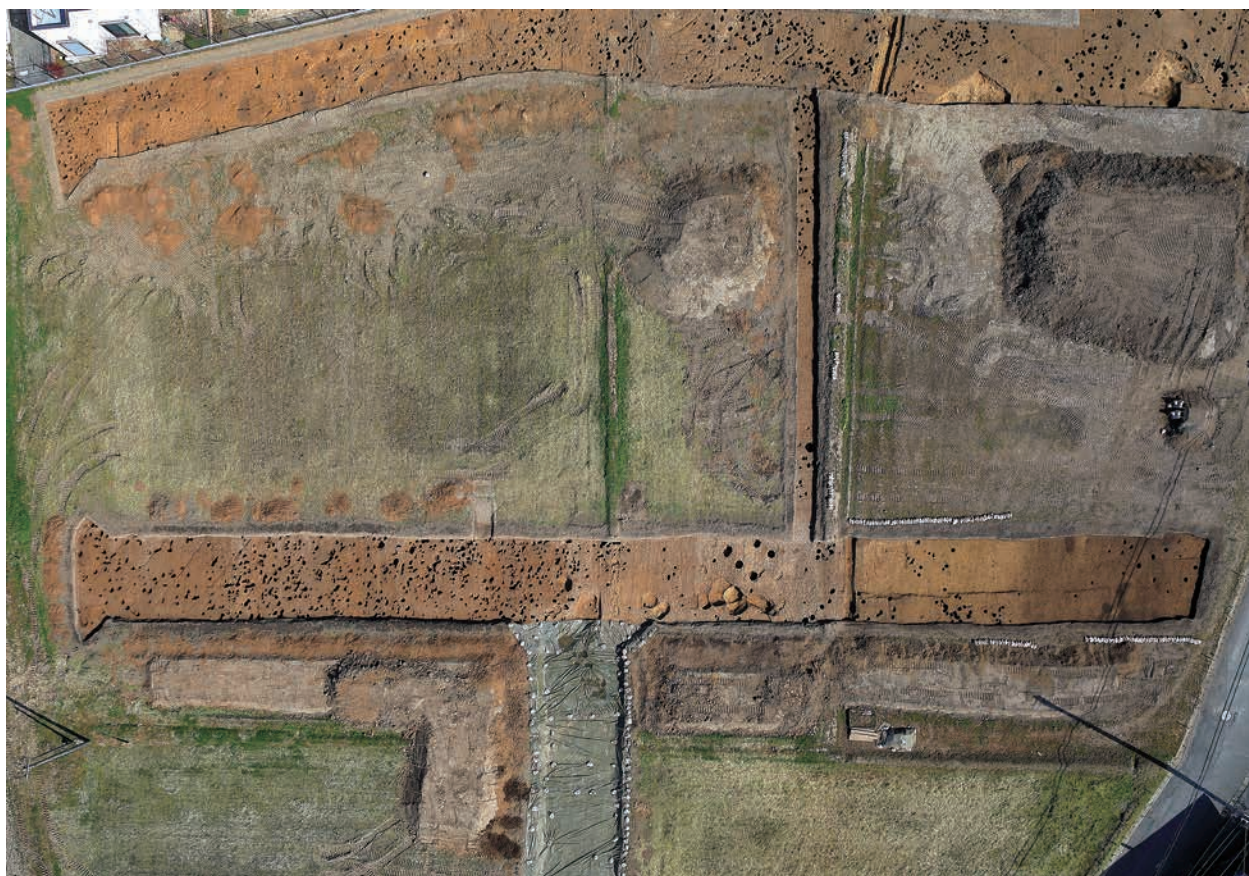


第46図 奈良時代の主要遺構配置図 (1/1,000)

圖 版



(1) I区全景 (南上空から)



(2) II区全景 (南上空から)

図版 2



(1) Ⅲ区全景 (南上空から)



(2) Ⅳ・Ⅴ区全景 (南上空から)



(1) S A 701 P 1 土層断面 (東から)



(2) S A 701 P 2 土層断面 (東から)



(3) S A 701 P 3 完掘状況 (西から)



(4) S A 701 P 4 完掘状況 (西から)



(5) S B 573 P 1 土層断面 (南から)



(6) S B 573 P 2 土層断面 (南から)



(7) S B 573 P 3 土層断面 (南から)



(8) S B 804 P 1 土層断面 (東から)



(9) S B 804 P 2 土層断面 (東から)



(10) S B 804 P 3 土層断面 (南から)



(11) S B 804 P 4 土層断面 (南から)



(12) S B 804 P 6 土層断面 (東から)



(13) S B 804 P 7 土層断面 (東から)



(14) S B 804 P 8 土層断面 (東から)



(15) S B 804 P 10 土層断面 (南から)



(16) S B 804 P 11 土層断面 (南から)



(17) S B 804 P 13 土層断面 (南から)



(18) S B 805 P 1 土層断面 (南から)

図版 4



(1) S B 805 P 2 土層断面 (南から)



(2) S B 805 P 3 土層断面 (南から)



(3) S B 805 P 4 土層断面 (東から)



(4) S B 805 P 5 土層断面 (東から)



(5) S B 805 P 6 土層断面 (東から)



(6) S B 813 P 1 土層断面 (東から)



(7) S B 813 P 2 土層断面 (東から)



(8) S B 813 P 3 土層断面 (東から)



(9) S B 813 P 4 土層断面 (南から)



(10) S B 813 P 5 土層断面 (南から)



(11) S B 813 P 6 土層断面 (南から)



(12) S B 836 P 1 土層断面 (東から)



(13) S B 836 P 2 土層断面 (東から)



(14) S B 836 P 3 土層断面 (東から)



(15) S B 836 P 4 土層断面 (東から)



(16) S B 836 P 5 土層断面 (東から)



(17) S B 836 P 6 土層断面 (西から)



(18) S B 836 P 7 土層断面 (北から)



(1) S B 836 P 9 土層断面 (東から)



(2) S B 986 P 2 土層断面 (南から)



(3) S B 986 P 3 土層断面 (南から)



(4) S B 986 P 4 土層断面 (南から)



(5) S B 986 P 5 土層断面 (南から)



(6) S B 1074 P 1 土層断面 (南から)



(7) S B 1074 P 2 土層断面 (南から)



(8) S B 1074 P 3 土層断面 (南から)



(9) S B 1074 P 4 土層断面 (南から)



(10) S B 1074 P 5 土層断面 (南から)



(11) S B 1074 P 6 土層断面 (南から)



(12) S B 1074 P 7 土層断面 (南から)



(13) S B 1074 P 8 土層断面 (南から)



(14) S B 1074 P 9 土層断面 (南から)



(15) S B 1219 P 2 土層断面 (南東から)



(16) S B 1219 P 3 土層断面 (南東から)



(17) S B 1219 P 4 土層断面 (北西から)



(18) S B 1220 P 2 土層断面 (南から)

図版 6



(1) S B 1220 P 3 土層断面 (南から)



(2) S B 1220 P 4 土層断面 (北から)



(3) S B 1220 P 5 土層断面 (南から)



(4) S B 1220 P 6 土層断面 (南西から)



(5) S B 1243 P 1 土層断面 (北東から)



(6) S B 1243 P 4 土層断面 (南から)



(7) S B 1345 P 4 土層断面 (東から)



(8) S B 1345 P 5 土層断面 (東から)



(9) S B 1345 P 6 土層断面 (東から)



(10) S E 1194 土層断面 (東から)



(11) S E 1194 掘削状況 (北西から)



(12) S K 48 土層断面 (東から)



(13) S K 48 完掘状況 (北から)



(1) S K 121 遺物出土状況 (北東から)



(2) S K 145 土層断面 (西から)



(3) S K 145 土層断面 (南から)



(4) S K 145 完掘状況 (北東から)



(5) S K 260 土層断面 (北西から)



(6) S K 260 遺物出土状況 (東から)



(7) S K 523 完掘状況 (東から)



(8) S K 548 土層断面 (南西から)

図版 8



(1) S K 549 土層断面 (南から)



(2) S K 560 土層断面 (南から)



(3) S K 560 完掘状況 (北から)



(4) S K 561 土層断面 (東から)



(5) S K 562 土層断面 (東から)



(6) S K 563 焼土出土状況 (北東から)



(7) S K 564 完掘状況 (北から)



(8) S K 761 土層断面 (南から)



(1) S K 833 土層断面 (東から)



(2) S K 834 土層断面 (東から)



(3) S K 881 土層断面 (東から)



(4) S K 881 完掘状況 (北西から)



(5) S K 882 土層断面 (南西から)



(6) S K 882 土層断面 (北西から)



(7) S K 882 完掘状況 (北西から)



(8) S K 980 土層断面 (東から)

図版 10



(1) S K 992 土層断面 (南から)



(2) S K 994 土層断面 (東から)



(3) S K 994 完掘状況 (南東から)



(4) S K 995 土層断面 (南から)



(5) S K 995 完掘状況 (北から)



(6) S K 998 土層断面 (東から)



(7) S K 998 土層断面 (北から)



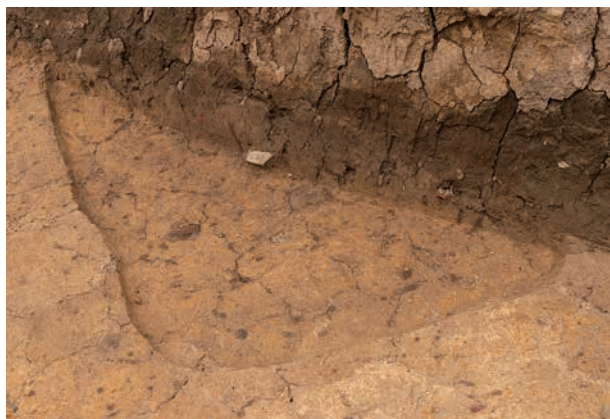
(8) S K 998 完掘状況 (北東から)



(1) S K 1005 完掘状況 (南から)



(2) S K 1006 完掘状況 (北西から)



(3) S K 1009 完掘状況 (南から)



(4) S K 1192 完掘状況 (南西から)



(5) S K 1193 完掘状況 (南東から)



(6) S K 1192・1193 土層断面 (南から)



(7) S K 1210 土層断面 (東から)



(8) S K 1210 土層断面 (南から)

図版 12



(1) S K 1212 土層断面 (東から)



(2) S K 1212 土層断面 (北から)



(3) S P 522 土層断面 (西から)



(4) S P 736 遺物出土状況 (南西から)



(5) S P 803 土層断面 (南から)



(6) S P 806 完掘状況 (北から)



(7) S P 807 土層断面 (南から)



(8) S P 808 土層断面 (南から)



(9) S P 809 土層断面 (南から)



(10) S P 810 土層断面 (南から)



(11) S P 811 土層断面 (南から)



(12) S P 812 土層断面 (南から)



(13) S P 981 土層断面 (南から)



(14) S P 982 土層断面 (南から)



出土遺物 1

图版 14



出土遺物 2



图版 16



出土遺物 4



图版 18



出土遺物 6



图版 20





图版 22





164



165



166



167



168



169



170



171



172



173



174



175



176



177



178



179



179



179

図版 24



出土遺物 12



194



195



196



197



198



199



200



201



202



203



204



205



206



207



208



209



210



213

图版 26





图版 28





图版 30





图版 32



出土遺物 20



图版 34





報告書抄録

| ふりがな | しょうやのいせきーだい8じはっくつちようさほうこくー | | | | | | | |
|--|---|--------------|--|--|---|---------------------------|----------------|--------|
| 書名 | 庄屋野遺跡 ー第8次発掘調査報告ー | | | | | | | |
| シリーズ名 | 久留米市文化財調査報告書 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 第451集 | | | | | | | |
| 編著者名 | 長谷川 桃子 | | | | | | | |
| 編集機関 | 久留米市 市民文化部 文化財保護課 | | | | | | | |
| 所在地 | 〒830-8520 福岡県久留米市城南町15番3 TEL:0942-30-9225 FAX:0942-30-9714 Email: bunkazai@city.kurume.lg.jp | | | | | | | |
| 発行年月日 | 2024(令和6)年3月31日 | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 発掘期間 | 発掘面積 | 調査原因 |
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| しょうやのいせき 庄屋野遺跡 だいじちようさ 第8次調査 | ふくおかけんく りゅうめし やすたけまちやす 福岡県久留米市安武町安 たけほんあざしょうやの 武本字庄屋野五 2932-1、 2938、2940-1、2940-3、 2940-4、2957、2958、 2959、2961、2963-1、 2963-3、2964-1 | 40203 | 031131 | 33° 17' 53" | 130° 29' 39" | 20211201 ～ 20220621 | 3,074㎡ | 記録保存調査 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 時代 | 主な遺構 | | 主な遺物 | | 特記事項 | |
| 庄屋野遺跡 第8次調査 | 集落 | 縄文 奈良 | ピット 落とし穴状遺構 柵列 掘立柱建物 井戸 土坑 ピット | 1基 5基 4条 13棟 1基 24基 多数 | 縄文土器、土師器、須恵器、 転用硯、土錘、鉄製鋤先、 鉄製鎌、鉄滓 | | 古代の集落を 確認した | |
| 要約 | | | | | | | | |
| <p>庄屋野遺跡は、標高10mほどの台地上に立地する。今回の調査では、縄文時代の落とし穴状遺構と8世紀中頃～後半の掘立柱建物、井戸、土坑などを検出した。落とし穴状遺構は、底面がフラットで、小さなピットを持たないものがほとんどである。掘立柱建物は主軸方位から大きく3つのグループに分けられるが、出土遺物から時期差は見出せない。また、識字層の存在を示唆する転用硯の出土から、官衙的性格があると考えられる。古代の安武地区では、郷家、または郡衙の関連施設ともされる野瀬塚遺跡(調査地から南方800m)を中心に、掘立柱建物で構成された官衙的性格を有する集落が周辺に展開しており、庄屋野遺跡もその一つであると考えられる。</p> | | | | | | | | |
| 土木工事の届出日 | 令和3年11月18日 | | 遺物の発見通知日 | | 令和3年6月24日 (4文財第835号) | | | |

| |
|---|
| <p>庄屋野遺跡 ー第8次発掘調査報告ー 久留米市文化財調査報告書 第451集 令和6(2024)年3月31日</p> <p>発行 久留米市教育委員会 編集 久留米市市民文化部文化財保護課 印刷 中村印刷有限公司 久留米市梅満町972</p> |
|---|